

# 農林土木工事施工管理基準

令和6年9月

静岡県交通基盤部監修

# 総目次

農林土木工事施工管理基準 .....	1 ~ 2
出来形管理基準及び規格値 .....	1 ~ 131
品質管理基準及び規格値 .....	1 ~ 81
写真管理基準 .....	1 ~ 58
その他の取扱基準及び参考資料 .....	1 ~ 125
レディーミクストコンクリート取扱基準 .....	4
セメントコンクリート製品取扱基準 .....	40
盛土材料取扱基準 .....	77
RI計器を用いた盛土の締固め管理基準(案) .....	89
管水路の通水試験 .....	117
杭の打ち止め管理(参考) .....	120
(参考資料)ロックボルトの引抜試験 .....	123
(参考資料)ダブルナット(アンカーボルト)の施工について .....	125
小規模工事事務取扱要領 .....	1 ~ 16
施工管理基準に基づく様式一覧表 .....	1 ~ 40

# 農林土木工事施工管理基準

この農林土木工事施工管理基準（以下、「管理基準」とする。）は、農林土木工事共通仕様書第1編1・1・30「施工管理」に規定する農林土木工事の施工管理及び規格値の基準を定めたものである。

## 1 目的

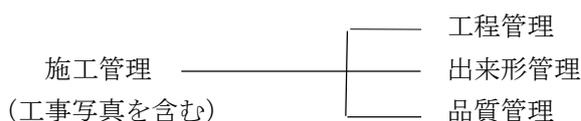
この管理基準は、土木工事の施工について、**契約図書**に定められた工期、工事目的物の出来形及び品質規格の確保を図ることを目的とする。

## 2 適用

この管理基準は、交通基盤部及び経済産業部が発注する農林土木工事について適用する。

ただし、**設計図書**に明示されていない仮設構造物等は除くものとする。また、工事の種類、規模、施工条件等により、この管理基準によりがたい場合、または、基準、規格値が定められていない工種については、監督員と**協議**の上、施工管理を行うものとする。

## 3 構成



## 4 管理の実施

- (1) 受注者は、工事施工前に、**施工管理計画**及び**施工管理担当者**を定めなければならない。
- (2) **施工管理担当者**は、当該工事の施工内容を把握し、適切な施工管理を行わなければならない。
- (3) 受注者は、測定（試験）等を工事の施工と並行して、管理の目的が達せられるよう速やかに実施しなければならない。
- (4) 受注者は、測定（試験）等の結果をその都度管理表等に記録し、適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し速やかに**提示**するとともに、工事完成時に**提出**しなければならない。

## 5 管理項目及び方法

### (1) 工程管理

受注者は、工事内容に応じて適切な工程管理（ネットワーク、バーチャート方式など）を行うものとする。ただし、応急処理又は維持工事等の当初工事計画が困難な工事内容については、省略できるものとする。

### (2) 出来形管理

受注者は、出来形を出来形管理基準に定める測定項目及び測定基準により実測し、設計値と実測値を対比して記録した出来形管理表及び出来形管理図表を作成し管理するものとする。

なお、測定基準において測定箇所数「〇〇につき1ヶ所」となっている項目については、小数点以下を切り上げた箇所数測定するものとする。

### (3) 品質管理

- ① 受注者は、品質を品質管理基準に定める試験項目、試験方法及び試験基準により管理するものとする。

この品質管理基準の適用は、下記に掲げる工種(イ)、(ロ)、の条件に該当する工事を除き、試験区分で「必須」となっている試験項目は、全面的に実施するものとする。

また、試験区分で「その他」となっている試験項目は、**特記仕様書**で指定するものを実施するものとする。

(イ) 路盤

維持工事等の小規模なもの(施工面積が300㎡以下のもの)

(ロ) アスファルト舗装

維持工事等の小規模なもの(施工面積が300㎡以下のもの)

- ② 受注者は、セメントコンクリートの適用に当たり、無筋コンクリート構造物のうち重力式橋台、橋脚及び重力式擁壁(高さ2.5mを超えるもの)については、鉄筋コンクリートに準ずるものとする。

## 6 規格値

受注者は、出来形管理基準及び品質管理基準により測定した各実測(試験・検査・計測)値は、すべて規格値を満足しなければならない。

## 7 その他

- (1) 受注者は、工事写真を施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を「写真管理基準」により撮影し、適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し速やかに**提示**するとともに、工事完成時に**提出**しなければならない。
- (2) TSによる土工の出来形管理をする場合は、「情報化施工技術の使用原則化について」(平成25年3月15日付け国官技第291号、国総公第133号)及び「TSを用いた出来形管理要領(土工編)」(平成24年3月29日付け国官技第347号、国総公第85号)の規定によるものとする。
- (3) 施工箇所が点在する工事については、施工箇所毎に測定(試験)基準を設定するものとする。  
なお、これにより難しい場合は、監督員と協議しなければならない。

## 8 摘用除外

工事内容により、本規格を適用することが不適当な場合は、**特記仕様書**に示し適用除外とする。

# 出来形管理基準及び規格値

【第1編 共通編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基準	頁	
第2章 土工					
第3節 河川土工・治 山土工 第4節 道路土工	2-3-2 掘削工（切土工）			27	
	2-3-3 盛土工			27	
	2-3-4 盛土補強工	補強土（テールアルメ） 壁工法			27
		多数アンカー式補強土 工法			27
		ジオテキスタイルを用 いた補強土工法			27
	2-3-5 法面整形工	盛土部		28	
	2-3-6 堤防天端工			28	
	2-4-2 掘削工（切土工）			28	
	2-4-3 路体盛土工			28	
	2-4-4 路床盛土工			28	
2-4-5 法面整形工	盛土部		29		
第3章 無筋・鉄筋コンクリート					
第7節 鉄筋	3-7-4 組立て	組立て		29	

【第3編 土木工事共通編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基準	頁
第1章 一般施工				
第3節 共通の工種	1-3-4 矢板工	鋼矢板		30
		軽量鋼矢板		30
		コンクリート矢板		30
		広幅鋼矢板		30
		可とう矢板		30
	1-3-5 縁石工	縁石・アスカープ		30
	1-3-6 小型標識工			30
	1-3-7 防止柵工	立入防止柵		30
		転落、横断、防止柵		30
		車止めポスト		30
	1-3-8 路側防護柵工	ガードレール		30
		ガードケーブル		31
	1-3-9 区画線工			31
	1-3-10 道路付属物工	視線誘導標		31
		距離標		31
	1-3-11 コンクリート面塗装工			31
	1-3-12 プレテンション桁製作工 （購入工）	けた橋		32
		スラブ桁		32
	1-3-13 ポストテンション桁製作工	ポストテンション桁製作工		32
		プレキャストセグメント桁製作工（購入工）		33
	1-3-14 プレキャストセグメント 主桁組立工			33
	1-3-15 PC ホロースラブ製作工			33
	1-3-16 PC 箱桁製作工	PC 箱桁製作工		33
		PC 押出し箱桁製作工		34
	1-3-18 伸縮装置工	ゴムジョイント		34
		鋼製フィンガージョイント		34
		埋設型ジョイント		35
	1-3-19 多自然型護岸工	石張り、巨石積み		35
		かごマット		35
	1-3-20 プレキャストカルバート工	プレキャストボックス工		35
		プレキャストパイプ工		35
	1-3-21 側溝工	プレキャストU型側溝工		36
		L型側溝工		36
自由勾配側溝工			36	
管渠工			36	
場所打水路工			36	
暗渠工			36	
1-3-22 集水樹工		街渠工		37
1-3-23 現場塗装工			37	
第4節 基礎工	1-4-1 一般事項	切込砂利		38
		砕石基礎工		38
		割ぐり石基礎工		38
		均しコンクリート		38
	1-4-3 基礎工(護岸)	現場打		38
		プレキャスト		38
	1-4-4 既製杭工	既製コンクリート杭		38
		鋼管杭		38
		H鋼杭		38
		鋼管ソイルセメント杭		39
1-4-5 場所打杭工			39	
1-4-6 深礎工			39	

【第3編 土木工事共通編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基準	頁
第4節 基礎工	1-4-7 オープンケーソン基礎工			40
	1-4-8 ニューマチックケーソン 基礎工			40
	1-4-9 鋼管矢板基礎工			40
	1-4-10 木杭工			40
第5節 石・ブロック (張) 積工	1-5-3 コンクリートブロック工	コンクリートブロック 積		41
		コンクリートブロック 張り		41
		連節ブロック張り		42
		天端保護ブロック		42
	1-5-4 緑化ブロック工		第3篇 1-5-3	41
1-5-5 石積（張）工		第3篇 1-5-3	41	
6節 一般舗装工		道路工		43
	1-6-6 橋面防水工	シート系橋面防水層		43
	1-6-7 アスファルト舗装工 1-6-8 半たわみ性舗装工 1-6-9 排水性舗装工	下層路盤工		44
		上層路盤工 (粒度調整路盤工)		44
		上層路盤工（セメント （石灰）安定処理工		44
		加熱アスファルト安定 処理工		44
		基層工		45
		表層工		45
	1-6-10 透水性舗装工	路盤工		45
		表層工		45
	1-6-11 グースアスファルト舗装工	加熱アスファルト安定 処理工		46
		基層工		46
		表層工		46
	1-6-12 コンクリート舗装工	下層路盤工		47
		上層路盤工 (粒度調整路盤工)		47
		セメント（石灰・瀝青） 安定処理工		47
		アスファルト中間層		47
		コンクリート舗装版工		48
		転圧コンクリート版工 (下層路盤工)		48
		転圧コンクリート版工 (粒度調整路盤工)		48
		転圧コンクリート版工 (セメント（石灰・瀝青） 安定処理工)		49
		転圧コンクリート版工 (アスファルト中間層)		49
		転圧コンクリート版工		49
1-6-13 薄層カラー舗装工	下層路盤工		50	
	上層路盤工 (粒度調整路盤工)		50	
	上層路盤工（セメント （石灰）安定処理工		50	
	加熱アスファルト安定 処理工		50	
	基層工		51	

【第3編 土木工事共通編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基準	頁
第6節 一般舗装工	1-6-14 ブロック舗装工	下層路盤工		51
		上層路盤工 (粒度調整路盤工)		51
		上層路盤工（セメント （石灰）安定処理工		51
		加熱アスファルト安定 処理工		52
		基層工		52
	1-6-15 路面切削工			52
第7節 地盤改良工	1-7-2 路床安定処理工			53
	1-7-3 置換工			53
	1-7-4 表層安定処理工	表層安定処理工		54
		サンドマット海上		54
	1-7-5 パイルネット工			54
	1-7-6 サンドマット工			54
	1-7-7 パーチカルドレーン工	サンドドレーン工		55
		ペーパードレーン工		55
		袋詰式サンドドレーン 工		55
	1-7-8 締固め改良工	サンドコンパクション パイル工		55
	1-7-9 固結工	粉末噴射攪拌工		55
		高圧噴射攪拌工		55
		スラリー攪拌工		55
生石灰パイル工			55	
中層混合処理			56	
第10節 仮設工	1-10-5 土留・仮締切工	H鋼杭		57
		鋼矢板		57
		アンカー工		57
		連節ブロック張り工		57
		締切盛土		57
		中詰盛土		58
	1-10-8 連続地中壁工（壁式）			58
	1-10-9 連続地中壁工（柱列式）			58
第11節 軽量盛土工	1-11-2 軽量盛土工		第1篇 2-4-3	28
第12節 工場製作工	1-12-1 一般事項	鍛造費（金属支承工）		59
		鍛造費 （大型ゴム支承工）		60
		仮設材製作工		61
		刃口金物製作工		61
	1-12-3 桁製作工	仮組検査を実施する場合		62
		シミュレーション仮組 検査を実施する場合		62 63
		仮組検査を実施しない 場合		64
	1-12-4 検査路製作工			65
	1-12-5 鋼製伸縮継手製作工			65
	1-12-6 落橋防止装置製作工			65
	1-12-7 橋梁用防護柵製作工			65
	1-12-8 アンカーフレーム製作工			65
	1-12-9 プレビーム用桁製作工			65
	1-12-10 鋼製排水管製作工			66
	1-12-11 工場塗装工			66

【第3編 土木工事共通編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基準	頁
第13節 橋梁架設工	1-13-3 架設工（クレーン架設）	（鋼橋）		67
	1-13-4 架設工 （ケーブルクレーン架設）	（鋼橋）		67
	1-13-5 架設工 （ケーブルエレクション架設）	（鋼橋）		67
	1-13-6 架設工（架設桁架設）	（鋼橋）		67
	1-13-7 架設工（送出し架設）	（鋼橋）		67
	1-13-8 架設工 （トラベラークレーン架設）	（鋼橋）		67
	1-13 架設工（コンクリート橋）			68
	1-13 架設工支保工（固定）			68
	1-13 架設工支保工（移動）			68
	1-13 架設桁架設（片持架設）			68
	1-13 架設桁架設（押出し架設）			68
第14節 法面工（共通）	1-14-2 植生工	種子散布工		68
		張芝工		68
		筋芝工		68
		市松芝工		68
		植生シート工		68
		植生マット工		68
		植生筋工		68
		人工張芝工		68
		植生穴工		68
		植生基材吹付工		68
		客土吹付工		68
	1-14-3 吹付工	コンクリート		69
		モルタル		69
	1-14-4 法枠工	現場打法枠工		69
現場吹付法枠工			69	
プレキャスト法枠工			69	
1-14-6 アンカー工			70	
1-14-7 かご工	じゃかご	第6編 1-5-13	98	
	ふとんかご	第6編 1-5-13	98	
第15節 擁壁工（共通）	1-15-1 一般事項	現場打擁壁工		70
	1-15-2 プレキャスト擁壁工			70
	1-15-3 補強土壁工	補強土（テールアルメ）壁工法		71
		多数アンカー式補強土壁工法		71
		ジオテキスタイルを用いた補強土工法		71
1-15-4 井桁ブロック工			71	
第16節 床版工	1-16-2 床版工			72
第18節 耕地復旧工	1-18-2 水田復旧工		第4編 1-3-1	73
	1-18-3 畑地復旧工		第4編 1-3-1	73
第19節 水路復旧工	1-19-2 土水路工			72

【第4編 農地編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基 準	頁
<b>第1章 ほ場整備工</b>				
第3節 整地工	1-3-1 整地工	ほ場整地工・整地面積		73
		表土扱い		73
		基盤造成・表土整地		73
		畦畔復旧		73
	1-3-4 暗渠排水工	暗渠排水工・吸水渠		74
集水渠・導水渠			74	
第4節 用水路工 （開水路）	1-4-2 法面整形工		第1編 2-3-5	28
	1-4-3 植生工		第3編 1-14-2	68
	1-4-4 用水路工		第3編 1-3-21	36
第5節 用水路工 （管水路）	1-5-1 管水路工	畑地かんがい施設工 スプリンクラー		74
第6節 排水路工	1-6-2 法面整形工		第1編 2-3-5	28
	1-6-3 植生工		第3編 1-14-2	68
	1-6-4 排水路工		第3編 1-3-21	36
第7節 道路工	1-7-2 盛土工		第1編 2-3-3	28
	1-7-3 路体盛土工		第1編 2-4-3	27
	1-7-4 路床盛土工		第1編 2-4-4	28
	1-7-9 アスファルト舗装工		第3編 1-6-7	44
	1-7-10 コンクリート舗装工		第3編 1-6-12	47
	1-7-11 砂利舗装工			74
<b>第2章 農用地造成工</b>				
第3節 基盤工	2-3-1 暗渠排水工		第4編 1-3-4	74
	2-3-2 造成土工	テラス（階段畑）		75
		改良山成		75
第4節 法面工	2-4-1 植生工		第3編 1-14-2	68
	2-4-2 吹付工		第3編 1-14-3	69
第5節 畑面工	2-5-1 畑面工	畑面工（造成面積）		74
		耕起深耕		75
		土壌改良		75
	2-5-3 畑面暗渠排水工		第3編 1-3-4	74
第6節 道路工	2-6 道路工	耕作道		75
	2-6-2 盛土工		第1編 2-3-3	27
	2-6-3 路体盛土工		第1編 2-4-3	28
	2-6-4 路床盛土工		第1編 2-4-4	28
	2-6-7 アスファルト舗装工		第3編 1-6-7	44
	2-6-8 コンクリート舗装工		第3編 1-6-12	47
	2-6-9 砂利舗装工		第4編 1-7-11	74
第7節 排水路工	2-7-1 排水路工		第3編 1-3-21	36
<b>第3章 水路工</b>				
第3節 土工	3-3-2 盛土工		第1編 2-3-3	27
	3-3-3 法面整形工		第1編 2-3-5	28
第5節 基礎工	3-5-1 既製杭工		第3編 1-4-4	38
第6節 開渠工	3-6-2 現場打ち開渠工	現場打水路	第3編 1-3-21	36
		現場打水路 組立水路		76
	3-6-3 プレキャスト開渠工	小型水路 （U字側溝、フリューム等）	第3編 1-3-21	36
		大型フリューム、L形水路		76
	その他	コンクリート法覆工 アスファルト法覆工		77
		ブロック積水路 鉄筋コンクリート柵渠		77

【第4編 農地編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基 準	頁
第6節 開渠工	その他	ライニング水路 連節ブロック コンクリートマット		77
第10節 水路付帯工	3-10-2 安全施設	ネットフェンス等	第3編 1-3-7	30
第11節 擁壁工	3-11-2 現場打擁壁工		第3編 1-15-1	70
	3-11-3 プレキャスト擁壁工		第3編 1-15-2	70
	3-11-4 石積工		第3編 1-5-5	42
	3-11-5 コンクリートブロッ ク工		第3編 1-5-3	41
第12節 法面工	3-12-1 植生工		第3編 1-14-2	68
	3-12-2 吹付工		第3編 1-14-3	69
第13節 耕地復旧工	3-13-1 水田復旧工		第3編 1-18-2	73
	3-13-2 畑地復旧工		第3編 1-18-3	73
第14節 道路復旧工	3-14-2 路体盛土工		第1編 2-4-3	28
	3-14-3 路床盛土工		第1編 2-4-4	28
	3-14-5 アスファルト舗装工		第3編 1-6-7	44
	3-14-6 コンクリート舗装工		第3編 1-6-12	47
	3-14-7 砂利舗装工		第4編 2-6-9	76
	3-14-8 道路用側溝工		第3編 1-3-21	36
	3-14-9 安全施設工	ガードレール等	第3編 1-3-8	31
	3-14-10 区画線工		第3編 1-3-9	31
	3-14-11 縁石工		第3編 1-3-5	30
第4章 管水路工				
第3節 土工	4-3-3 盛土工		第1編 2-3-3	27
	4-3-4 法面整形工		第1編 2-3-5	28
第5節 管体基礎工	4-5-1 砂基礎工			78
	4-5-2 碎石基礎工			78
	4-5-3 コンクリート基礎工			78
第6節 管体工		硬質ポリ塩化ビニル管		78
		強化プラスチック複合管		78
		ダクタイル鋳鉄管		78
		遠心力鉄筋コンクリート管		78
第5章 頭首工				
第3節 土工	5-3-2 盛土工		第1編 2-3-3	27
	5-3-3 法面整形工		第1編 2-3-5	28
第4節 可動堰本体工	5-4-2 既製杭工		第3編 1-4-4	38
	5-4-3 場所打杭工		第3編 1-4-5	39
	5-4-4 オープンケーソン基礎工		第3編 1-4-7	40
	5-4-5 ニューマチックケー ソン基礎工		第3編 1-4-8	40
	5-4-6 止水矢板工		第3編 1-3-4	30
第5節 固定堰本体工	5-5-2 既製杭工		第3編 1-4-4	38
	5-5-3 場所打杭工		第3編 1-4-5	39
	5-5-4 オープンケーソン基礎工		第3編 1-4-7	40
	5-5-5 ニューマチックケー ソン基礎工		第3編 1-4-8	40
	5-5-6 止水矢板工		第3編 1-3-4	30
第6節 護床工	5-6-2 根固めブロック工	十字ブロック カーテンブロック 異形ブロック	第6編 1-7-3 第6編 1-7-3 第6編 1-7-3	99 99 99
	5-6-4 沈床工	そだ沈床 木工沈床 改良沈床	第6編 1-7-5 第6編 1-7-5 第6編 1-7-5	99 99 99

【第4編 農地編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基 準	頁
第6節 護床工	5-6-5 捨石工		第6編 1-7-6	99
	5-6-6 かご工		第6編 1-5-13	98
第9節 管理橋上部工	5-9-2 プレテンション桁製作 工（購入工）	けた橋	第3編 1-3-12	32
		スラブ橋	第3編 1-3-12	32
	5-9-3 ポストテンション桁製 作工		第3編 1-3-13	32
	5-9-4 プレキャストブロック 桁購入工		第3編 1-3-13	33
	5-9-5 プレキャストブロック 桁組立工		第3編 1-3-14	33
	5-9-6 PCホーラスラブ製作工		第3編 1-3-15	33
	5-9-7 PC箱桁製作工		第3編 1-3-16	33
	5-9-8 架設工（クレーン架設）		第3編 1-13-3	67
	5-9-9 架設工（架設桁架設）		第3編 1-13-6	67
	5-9-10 架設支保工（固定）		第3編 1-13	68
	5-9-11 床版・横組工		第3編 1-16-2	72
	5-9-12 支承工		第8編 4-4-10	117
第6章 機場下部工				
第3節 土工	6-3-2 盛土工		第1編 2-3-3	27
	6-3-3 法面整形工		第1編 2-3-5	28
第4節 機場本体工	6-4-2 既製杭工		第3編 1-4-4	38
	6-4-3 場所打杭工		第3編 1-4-5	39
	6-4-4 矢板工		第3編 1-3-4	30
	6-4-5 本体工		第6編 5-3-6	103
	6-4-6 燃料貯油槽工		第6編 5-3-7	103
第5節 遊水地工	6-5-2 既製杭工		第3編 1-4-4	39
	6-5-3 場所打杭工		第3編 1-4-5	39
	6-5-4 矢板工		第3編 1-3-4	30
	6-5-5 側壁工		第3編 1-15-1	71
	6-5-6 コンクリート床版工		第6編 5-4-7	103
	6-5-7 現場打ち水路工		第3編 1-3-21	36
第8章 ため池改修工				
第3節 堤体工	8-3-4 盛土工	堤体工		79
第5節 洪水吐工	8-5-1 洪水吐工		第4編 3-6-2	76
第6節 取水施設工	8-6-1 取水施設工-	樋管工		79
		水路トンネル		80

【第5編 治山編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基 準	頁
<b>第1章 溪間工</b>				
第3節 コンクリート 治山ダム工	1-3-3 コンクリート治山ダム 本体工	コンクリート治山ダム 本体工		81
	1-3-4 側壁工	側壁工(コンクリート)		81
	1-3-6 洗掘防止対策	水叩工(コンクリート)		81
第4節 鋼製治山ダム工	1-4-2 工場製作工	鋼製類ダム製作工		82
	1-4-5 鋼製ダム本体工	鋼製ダム本体工(不透過型)		83
		鋼製ダム本体工(透過型)		83
	1-4-6 鋼製側壁工	鋼製側壁工		83
第5節 木製治山ダム工	1-5-3 木製治山ダム工	木製治山ダム工		84
	木製流路工	流路工(木製)		84
第6節 護岸工	1-6-4 コンクリート護岸工	護岸工(コンクリート)		85
第7節 根固工	1-7-3 根固めブロック工	根固めブロック工	第6編 1-7-3	99
	1-7-4 かご工	かご工	第6編 1-5-13	98
	1-7-5 沈床工	沈床工	第6編 1-7-5	99
第8節 水制工	1-8-1 水制工	水制工		85
第9節 流路工	1-9-1 流路工	流路工(コンクリート三面張り)		86
<b>第2章 山腹工</b>				
第4節 のり切工	2-4-1 のり切工	のり切工		86
第5節 土留工	2-5-2 土留工	土留工(コンクリート)		86
	2-5-4 土留工	土留工(石積)		86
		土留工(コンクリートブロック積)		86
	2-5-5 土留工	土留工(丸太積)		87
	2-5-7 土留工	土留工(鋼製枠)		87
	2-5-8 土留工	土留工(鉄線かご)		87
第7節 水路工	2-7-2 水路工	水路工(コンクリート)		88
	2-7-3 水路工	水路工(練張及び空張)		88
	2-7-4 水路工	水路工(コルゲートフリューム)		88
	2-7-5 水路工	水路工(張芝)		88
	2-7-6 水路工	水路工(土のう等緑化二次製品)		88
	2-7-7 水路工	水路工 (鋼製及びコンクリート二次製品)		88
		水路工(木製)		88
第8節 暗きょ工	2-8-4 暗きょ工	暗きょ工(硬質塩ビ管類)		89
第9節 のり枠工	2-9 のり枠工	のり枠工(丸太)		89
		簡易のり枠工		89
第10節 吹付工	2-10-2 特殊吹付工	特殊モルタル吹付工		89
第11節 柵工	2-11-2 柵工	柵工(丸太)		90
	2-11-3 柵工	柵工(ネット類)		90
第12節 筋工	2-12-2 階段切付工	階段切付工		90
	2-12-3、4、5 筋工	石、丸太、その他緑化二次製品		90
第13節 伏工	2-13-2 伏工	伏工(むしろ)		91
	2-13-3 伏工	伏工(緑化二次製品)		91
第16節 落石防護工	2-16-3 落石防護柵工	落石防護柵工	第8編 1-10-5	108
	2-16-4 落石防護網工	落石防護網工	第8編 1-10-4	108
	2-16-5 落石防護土留工	落石防護土留工		91
	2-16-6 固定工	固定工(ロープ伏工)		91
<b>第3章 海岸防災林造成</b>				
第3節 防潮工	3-3-1 防潮堤、防潮護岸工	防潮堤(波返し工)		92
		防潮堤(直立堤)		92
		防潮堤(被覆工)、コンクリート、 アスファルト		92
	3-3-2 消波工、消波堤、突堤、根固工	根固工	第6編 1-7-3	99

【第5編 治山編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基 準	頁
第4節 砂丘造成	3-4-1 堆砂工（堆砂垣、丘頂 柵工）			93
	3-4-2 盛土工	盛土工		93
第5節 森林造成	3-5-1 生育基盤盛土工	客土工		93
	3-5-2 防風工	防風工		94
	3-5-4 静砂工（静砂垣）	静砂工（静砂垣）		94
	3-5-5 植栽工	植栽工（大苗木）		94
		植栽工（中・小苗木）		94
植栽工（地被類）			94	
第4章 森林整備				
第3節 森林造成	4-3-4 植栽	植栽		95
第4節 防潮工	4-4-4 本数調整伐、受光伐、 除伐	本数調整伐、受光伐、除伐		95
	4-4-5 枝落とし	枝落とし		95
第5節 歩道整備	4-5-1 歩道作設	歩道作設		95
		階段工（丸太）		95
第5章 保安林管理道				
第1節 適用		木製ブロック積工		96
		木製路面排水工		96

【第6編 河川編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基 準	頁
<b>第1章 築堤・護岸</b>				
第1節 築堤護岸				97
第3節 護岸基礎工	1-3-3 基礎工		第3編 1-4-3	38
	1-3-4 矢板工		第3編 1-3-4	30
第4節 矢板護岸工	1-4-3 笠コンクリート 工		第3編 1-4-3	38
	1-4-4 矢板工		第3編 1-3-4	30
第5節 法覆護岸工	1-5-3コンクリートブロック工	コンクリートブロック	第3編 1-5-3	41
		コンクリート被覆		77
	1-5-4 護岸付属物工			98
	1-5-5 緑化ブロック工		第3編 1-5-4	41
	1-5-6 環境護岸ブロック工		第3編 1-5-3	41
	1-5-7 石積(張)工		第3編 1-5-5	41
	1-5-8 法枠工		第3編 1-14-4	69
	1-5-9 多自然護岸工	巨石張り	第3編 1-3-19	35
		巨石積み	第3編 1-3-19	35
		かごマット	第3編 1-3-19	35
	1-5-10 吹付工		第3編 1-14-3	69
	1-5-11 植生工		第3編 1-14-2	69
	1-5-12 覆土工		第1編 2-3-5	28
	1-5-13 羽口工	じゃかご		98
ふとんかご			98	
かご枠			98	
第6節 擁壁護岸工	1-6-3 場所打擁壁工		第3編 1-15-1	70
	1-6-4 プレキャスト擁壁工		第3編 1-15-2	70
第7節 根固め工	1-7-3 根固めブロック工			99
	1-7-5 沈床工			99
	1-7-6 捨石工			99
	1-7-7 かご工	じゃかご	第6編 1-5-13	98
ふとんかご		第6編 1-5-13	98	
第8節 水制工	1-8-3 沈床工			99
	1-8-4 捨石工		第6編 1-7-6	99
	1-8-5 かご工	じゃかご	第6編 1-5-13	98
		ふとんかご	第6編 1-5-13	98
1-8-8 杭出し水制工	杭出し水制工		98	
<b>第2章 樋門・樋管</b>				
第3節 樋門・樋管本体工	2-3-3 既製杭工		第3編 1-4-4	39
	2-3-4 場所打杭工		第3編 1-4-5	39
	2-3-5 矢板工		第3編 1-3-4	30
	2-3-6 函渠工	本体工		100
		ヒューム管		100
		P C管		100
		コルゲートパイプ		100
		ダクタイル鋳鉄管		100
		P C函渠	第3編 1-3-20	100
	2-3-7 翼壁工			100
2-3-8 水叩工			100	
第4節 護床工	2-4-3 根固めブロック工		第6編 1-7-3	99
	2-4-5 沈床工		第6編 1-7-5	99
	2-4-6 捨石工		第6編 1-7-6	99
	2-4-7 かご工	じゃかご	第6編 1-5-13	98
		ふとんかご	第6編 1-5-13	98

【第6編 河川編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基 準	頁	
第5節 水路工	2-5-3 側溝工		第3編 1-3-21	36	
	2-5-4 集水枡工		第3編 1-3-22	37	
	2-5-5 暗渠工		第3編 1-3-21	36	
	2-5-6 樋門接続暗渠工		第3編 1-3-20	35	
第6節 付属物設置工	2-6-3 防止柵工		第3編 1-3-7	30	
	2-6-7 階段工			101	
第3章 水門					
第3節 工場製作工	3-3-3 桁製作工		第3編 1-12-3	62	
	3-3-4 鋼製伸縮継手製作工		第3編 1-12-5	65	
	3-3-5 落橋防止装置製作工		第3編 1-12-6	65	
	3-3-6 鋼製排水管製作工		第3編 1-12-10	66	
	3-3-7 橋梁用防護柵製作工		第3編 1-12-7	65	
	3-3-9 仮設材製作工		第3編 1-12-1	61	
	3-3-10 工場塗装費		第3編 1-12-11	66	
第4節 水門本体工	3-4-4 既製杭工		第3編 1-4-4	39	
	3-4-5 場所打杭工		第3編 1-4-5	39	
	3-4-6 矢板工（遮水矢板）		第3編 1-3-4	30	
	3-4-7 床版工			101	
	3-4-8 堰柱工			101	
	3-4-9 門柱工			101	
	3-4-10 ゲート操作台工			101	
	3-4-11 胸壁工			101	
	3-4-12 翼壁工		第6編 2-3-7	100	
	3-4-13 水叩工		第6編 2-3-8	100	
	第5節 護床工	3-5-3 根固めブロック工		第6編 1-7-3	99
		3-5-5 沈床工		第6編 1-7-5	99
		3-5-6 捨石工		第6編 1-7-6	99
3-5-7 かご工		じゃかご	第6編 1-5-13	98	
		ふとんかご	第6編 1-5-13	98	
第6節 付属物設置工	3-6-3 防止柵工		第3編 1-3-7	30	
	3-6-8 階段工		第6編 2-6-7	101	
第7節 鋼管理橋上部工	3-7-4 架設工（クレーン架設）		第3編 1-13-3	67	
	3-7-5 架設工（ケーブルクレーン架設）		第3編 1-13-4	67	
	3-7-6 架設工（ケーブルエレクション架設）		第3編 1-13-5	67	
	3-7-7 架設工（架設桁架設）		第3編 1-13-6	67	
	3-7-8 架設工（送出し架設）		第3編 1-13-7	67	
	3-7-9 架設工（トラバラークレーン架設）		第3編 1-13-8	67	
	3-7-10 支承工		第8編 4-4-10	117	
第8節 橋梁現場塗装工	3-8-2 現場塗装工		第3編 1-3-23	37	
第9節 床版工	3-9-2 床版工		第3編 1-16-2	72	
第10節 橋梁付属物工 （鋼管理橋）	3-10-2 伸縮装置工		第3編 1-3-18	34	
	3-10-4 地覆工		第8編 4-7-5	118	
	3-10-5 橋梁用防護柵工		第8編 4-7-6	118	
	3-10-6 橋梁用高欄工		第8編 4-7-7	118	
	3-10-7 検査路工		第8編 4-7-8	118	
第12節 コンクリート 管理橋上部工 （PC橋）	3-12-2 プレテンション桁 製作工（購入工）		第3編 1-3-12	32	
	3-12-3 ポストテンション桁 製作工		第3編 1-3-13	32	
	3-12-4 プレキャストセグメン ト製作工（購入工）		第3編 1-3-13	33	

【第6編 河川編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基 準	頁	
第12節 コンクリート 管理橋上部工 （PC橋）	3-12-5 プレキャストセグメ ント主桁組立工		第3編 1-3-14	33	
	3-12-6 支承工		第8編 4-4-10	117	
	3-12-7 架設工 （クレーン架設）		第3編 1-13-3	68	
	3-12-8 架設工（架設桁架設）		第3編 1-13-6	68	
	3-12-9 床版・横組工		第3編 1-16-2	72	
	3-12-10 落橋防止装置工		第8編 4-7-3	118	
第13節 コンクリート 管理橋上部工 （PCホロー スラブ橋）	3-13-3 支承工		第8編 4-4-10	117	
	3-13-4 落橋防止装置工		第8編 4-7-3	118	
	3-13-5 PCホロー スラブ製作工		第3編 1-3-15	33	
第14節 橋梁付属物工 （コンクリート 管理橋）	3-14-2 伸縮装置工		第3編 1-3-18	34	
	3-14-4 地覆工		第8編 4-7-5	118	
	3-14-5 橋梁用防護柵工		第8編 4-7-6	118	
	3-14-6 橋梁用高欄工		第8編 4-7-7	118	
	3-14-7 検査路工		第8編 4-7-8	118	
第16節 舗装工	3-16-5 アスファルト舗装工		第3編 1-6-7	44	
	3-16-6 半たわみ性舗装工		第3編 1-6-8	44	
	3-16-7 排水性舗装工		第3編 1-6-9	44	
	3-16-8 透水性舗装工		第3編 1-6-10	45	
	3-16-9 グースアスファルト 舗装工		第3編 1-6-11	46	
	3-16-10 コンクリート舗装工		第3編 1-6-12	47	
	3-16-11 薄層カラー舗装工		第3編 1-6-13	50	
	3-16-12 ブロック舗装工		第3編 1-6-14	51	
第4章 堰					
第3節 工場製作工	4-3-3 刃口金物製作工		第3編 1-12-1	61	
	4-3-4 桁製作工		第3編 1-12-3	62	
	4-3-5 検査路製作工		第3編 1-12-4	65	
	4-3-6 鋼製伸縮継手製作工		第3編 1-12-5	65	
	5-3-7 落橋防止装置製作工		第3編 1-12-6	65	
	4-3-8 鋼製排水管製作工		第3編 1-12-10	66	
	4-3-9 プレビーム用桁製作工		第3編 1-12-9	65	
	4-3-10 橋梁用防護柵製作工		第3編 1-12-7	65	
	4-3-12 アンカーフレーム桁 製作工		第3編 1-12-8	65	
	4-3-13 仮設材製作工		第3編 1-12-1	61	
	4-3-14 工場塗装工		第3編 1-12-11	66	
	第4節 可動堰本体工	4-4-3 既製杭工		第3編 1-4-4	39
		4-4-4 場所打杭工		第3編 1-4-5	39
		4-4-5 オープンケーソン基礎工		第3編 1-4-7	40
4-4-6 ニューマチック ケーソン基礎工			第3編 1-4-8	40	
4-4-7 矢板工			第3編 1-3-4	30	
4-4-8 床版工			第6編 3-4-7	101	
4-4-9 堰柱工			第6編 3-4-8	101	
4-4-10 問柱工			第6編 3-4-9	101	
4-4-11 ゲート操作台工			第6編 3-4-10	101	
4-4-12 水叩工			第6編 2-3-8	100	

【第6編 河川編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基 準	頁
第4節 可動堰本体工	4-4-13 閘門工			101
	4-4-14 土砂吐工			101
	4-4-15 取付擁壁工		第3編 1-15-1	70
第5節 固定堰本体工	4-5-3 既製杭工		第3編 1-4-4	38
	4-5-4 場所打杭工		第3編 1-4-4	39
	4-5-5 オープンケーソン基礎工		第3編 1-4-7	40
	4-5-6 ニューマチック ケーソン基礎工		第3編 1-4-8	40
	4-5-7 矢板工		第3編 1-3-4	30
	4-5-8 堰本体工			101
	4-5-9 水叩工			101
	4-5-10 土砂吐工			101
	4-5-11 取付擁壁工		第3編 1-15-1	70
	第6節 魚道工	4-6-3 魚道本体工		
第7節 管理橋下部工	4-7-2 管理橋橋台工			102
第8節 鋼管理橋上部工	4-8-4 架設工（クレーン架設）		第3編 1-13-3	67
	4-8-5 架設工 （ケーブルクレーン架設）		第3編 1-13-4	67
	4-8-6 架設工 （ケーブルエレクション架設）		第3編 1-13-5	67
	4-8-7 架設工（架設桁架設）		第3編 1-13-6	67
	4-8-8 架設工（送出し架設）		第3編 1-13-7	67
	4-8-9 架設工 （トラベラークレーン架設）		第3編 1-13-8	67
	4-8-10 支承工		第8編 4-4-10	117
第9節 橋梁現場塗装工	4-9-2 現場塗装工		第3編 1-3-23	66
第10節 床版工	4-10-2 床版工		第3編 1-16-2	72
第11節 橋梁付属物工 （鋼管理橋）	4-11-2 伸縮装置工		第3編 1-3-18	34
	4-11-4 地覆工		第8編 4-7-5	118
	4-11-5 橋梁用防護柵工		第8編 4-7-6	118
	4-11-6 橋梁用高欄工		第8編 4-7-7	118
	4-11-7 検査路工		第8編 4-7-8	118
第13節 コンクリート 管理橋上部工 （PC橋）	4-13-2 プレテンション桁 製作工（購入工）		第3編 1-3-12	32
	4-13-3 ポストテンション桁 製作工		第3編 1-3-13	32
	4-13-4 プレキャストセグメ ント製作工（購入工）		第3編 1-3-13	33
	4-13-5 プレキャストセグメ ント主桁組立工		第3編 1-3-14	33
	4-13-6 支承工		第8編 4-4-10	117
	4-13-7 架設工 （クレーン架設）		第3編 1-13-3	67
	4-13-8 架設工（架設桁架設）		第3編 1-13-6	67
	4-13-9 床版・横組工		第3編 1-16-2	72
	4-13-10 落橋防止装置工		第8編 4-7-3	118
	第14節 コンクリート 管理橋上部工 （PCホロー スラブ橋）	4-14-3 支承工		第8編 4-4-10
4-14-4 落橋防止装置工			第8編 4-7-3	118
4-14-5 PCホロースラブ 製作工			第3編 1-3-15	33
4-15-3 支承工			第8編 4-4-10	117
第15節 コンクリート 管理橋上部工 （PC箱桁橋）	4-15-4 PC箱桁製作工		第3編 1-3-16	33
	4-15-5 落橋防止装置工		第8編 4-7-3	118

【第6編 河川編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基 準	頁	
第16節 橋梁付属物工 (コンクリート管理橋)	4-16-2 伸縮装置工		第3編 1-3-18	34	
	4-16-4 地覆工		第8編 4-7-5	118	
	4-16-5 橋梁用防護柵工		第8編 4-7-6	118	
	4-16-6 橋梁用高欄工		第8編 4-7-7	118	
	4-16-7 検査路工		第8編 4-7-8	118	
第18節 付属物設置工	4-18-3 防止柵工		第3編 1-3-7	30	
	4-18-7 階段工		第6編 2-6-7	101	
第5章 排水機場工					
第3節 機場本体工	5-3-3 既製杭工		第3編 1-4-4	39	
	5-3-4 場所打杭工		第3編 1-4-5	39	
	5-3-5 矢板工		第3編 1-3-4	30	
	5-3-6 本体工			103	
	5-3-7 燃料貯油槽工			103	
第4節 沈砂池工	5-4-3 既製杭工		第3編 1-4-4	39	
	5-4-4 場所打杭工		第3編 1-4-5	39	
	5-4-5 矢板工		第3編 1-3-4	30	
	5-4-6 現場打擁壁工		第3編 1-15-1	70	
	5-4-7 コンクリート床版工			103	
	5-4-8 ブロック床版工		第6編 1-7-3	99	
	5-4-9 現場打水路工		第3編 1-3-21	36	
第5節 吐出水槽工	5-5-3 既製杭工		第3編 1-4-4	39	
	5-5-4 場所打杭工		第3編 1-4-5	39	
	5-5-5 矢板工		第3編 1-3-4	30	
	5-5-6 本体工		第6編 5-3-6	103	
第6章 床止め・床固め					
第3節 床止め工	6-3-4 既製杭工		第3編 1-4-4	39	
	6-3-5 矢板工		第3編 1-3-4	30	
	6-3-6 本体工	床固め本体工			104
		植石張り		第3編 1-5-5	41
		根固めブロック		第6編 1-7-3	99
	6-3-7 取付擁壁工		第3編 1-15-1	70	
	6-3-8 水叩工	水叩工		第6編 2-3-8	100
		石張り		第3編 1-3-19	35
根固めブロック			第6編 1-7-3	99	
第4節 床固め工	6-4-4 本堤工		第6編 6-3-6	104	
	6-4-5 垂直壁工		第6編 6-3-6	104	
	6-4-6 側壁工			104	
	6-4-7 水叩工		第6編 2-3-8	100	
第5節 山留擁壁工	6-5-3 コンクリート擁壁工		第3編 1-15-1	70	
	6-5-4 ブロック積み擁壁工		第3編 1-5-3	41	
	6-5-5 石積み擁壁工		第3編 1-5-5	41	
	6-5-6 山留擁壁基礎工		第3編 1-4-3	38	

【第7編 地すべり編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基 準	頁	
第1章 地すべり防止工					
第3節 法面工	1-3-2 植生工		第3編 1-14-2	68	
	1-3-3 吹付工		第3編 1-14-3	69	
	1-3-4 法枠工		第3編 1-14-4	69	
	1-3-5 かご工	じゃかご		第6編 1-5-13	98
		ふとんかご		第6編 1-5-13	98
	1-3-6 アンカー工（プレキャストコンクリート板）		第3編 1-14-6	70	
	1-3-6 抑止アンカー工		第3編 1-14-6	70	
1-3-6 鉄筋挿入工（ロックボルト工）			106		
第4節 擁壁工	1-4-3 既製杭工		第3編 1-4-4	39	
	1-4-4 現場打擁壁工		第3編 1-15-1	70	
	1-4-5 プレキャスト擁壁工		第3編 1-15-2	70	
	1-4-6 補強土壁工		第3編 1-15-3	71	
	1-4-7 井桁ブロック工		第3編 1-15-4	71	
	1-4-8 落石防護工		第8編 1-10-4、 1-10-5	108	
	1-4-9 土留・仮締切工		第3編 1-10-5	57	
第5節 水路工	1-5-3 承水路・排水路工	現場打U型水路工	第3編 1-3-21	36	
	1-5-4 明暗渠工			105	
	1-5-5 暗渠工		第3編 1-3-21	36	
	1-5-6 現場打水路工		第3編 1-3-21	36	
	1-5-7 集水枡		第3編 1-3-22	37	
第6節 地下水排除工	1-6-4 集排水ボーリング工			106	
	1-6-5 集水井工			106	
第7節 地下水遮断工	1-7-3 場所打擁壁工		第3編 1-15-1	70	
	1-7-4 固結工		第3編 1-7-9	55	
	1-7-5 矢板工		第3編 1-3-4	30	
第8節 抑止杭工	1-8-3 既製杭工		第3編 1-4-4	38	
	1-8-4 場所打杭工		第3編 1-4-5	39	
	1-8-5 シャフト工（深礎工）		第3編 1-4-6	39	
	1-8-6 合成杭			106	
第9節 排土工及び 押え盛土工	1-9-2 排土工		第1編 2-3-2	27	
	1-9-3 押え盛土工		第1編 2-3-3	27	

【第8編 道路編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基 準	頁
第1章 道路改良				
第1節 適用		道路工		107
第3節 工場製作工	1-3-2 遮音壁支柱製作工	遮音壁支柱製作工		107
		工場塗装工	第3編 1-12-11	66
第4節 地盤改良工	1-4-2 路床安定処理工		第3編 1-7-2	53
	1-4-3 置換工		第3編 1-7-3	53
	1-4-4 サンドマット工		第3編 1-7-6	54
	1-4-5 パーチカルドレーン工		第3編 1-7-7	55
	1-4-6 締め固め改良工		第3編 1-7-8	55
	1-4-7 固結工		第3編 1-7-9	55
第5節 法面工	1-5-2 植生工		第3編 1-14-2	68
	1-5-3 法面吹付工		第3編 1-14-3	69
	1-5-4 法枠工		第3編 1-14-4	69
	1-5-6 アンカー工	アンカー工	第3編 1-14-6	70
	1-5-7 かご工	じゃかご	第6編 1-5-13	98
ふとんかご		第6編 1-5-13	98	
第6節 擁壁工	1-6-3 既製杭工		第3編 1-4-4	39
	1-6-4 現場打杭工		第3編 1-4-5	39
	1-6-5 現場打擁壁工		第3編 1-15-1	70
	1-6-6 プレキャスト擁壁工		第3編 1-15-2	70
	1-6-7 補強土壁工	補強土（テールアルメ）壁工法	第3編 1-15-3	71
		多数アンカー式補強土壁工法	第3編 1-15-3	71
		ジオテキスタイルを用いた補強土壁工法	第3編 1-15-3	71
	1-6-8 井桁ブロック工		第3編 1-15-4	71
第7節 石・ブロック積 （張）工	1-7-3 コンクリートブロック 工		第3編 1-5-3	41
	1-7-4 石積（張）工		第3編 1-5-5	41
第8節 カルバート工	1-8-4 既製杭工		第3編 1-4-4	39
	1-8-5 現場打杭工		第3編 1-4-5	39
	1-8-6 現場打函渠工			107
	1-8-7 プレキャストカルバート工	プレキャストボックス工 プレキャストパイプ工	第3編 1-3-20	35
第9節 排水構造物 （小型水路工）	1-9-3 側溝工	プレキャストU型側溝工、 コルゲートフリューム工、 L型側溝工、自由勾配側溝工	第3編 1-3-21	36
	1-9-4 管渠工		第3編 1-3-21	36
	1-9-5 集水樹・マンホール工		第3編 1-3-22	37
	1-9-6 地下排水工	地下排水工 （暗渠工）	第3編 1-3-21	36
	1-9-7 現場打水路工	現場打U型側溝工	第3編 1-3-21	36
	1-9-8 排水工 （小段排水・縦排水）		第3編 1-3-21	36
第10節 落石雪害防止工	1-10-4 落石防止網工			108
	1-10-5 落石防護柵工			108
	1-10-6 防雪柵工			108
	1-10-7 雪崩予防柵工			109
第11節 遮音壁工	1-11-4 遮音壁基礎工			109
	1-11-5 遮音壁本体工			109

【第8編 道路編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基準	頁
<b>第2章 舗装</b>				
第3節 地盤改良工	2-3-2 路床安定処理工		第3編 1-7-2	53
	2-3-3 置換工		第3編 1-7-3	53
第4節 舗装工	2-4-5 アスファルト舗装工		第3編 1-6-7	45
	2-4-6 半たわみ性舗装工		第3編 1-6-8	45
	2-4-7 排水性舗装工		第3編 1-6-9	45
	2-4-8 透水性舗装工		第3編 1-6-10	45
	2-4-9 グースアスファルト舗装工		第3編 1-6-11	46
	2-4-10 コンクリート舗装工		第3編 1-6-12	47
	2-4-11 薄層カラー舗装工		第3編 1-6-13	51
	2-4-12 ブロック舗装工		第3編 1-6-14	51
	2-4 歩道路盤工・取合舗装路盤工・路肩舗装路盤工			110
	2-4 歩道舗装工・取合舗装工・路肩舗装工・表層工			110
第5節 排水構造物工 （路面排水工）	2-5-3 側溝工		第3編 1-3-21	36
	2-5-4 管渠工		第3編 1-3-21	36
	2-5-5 集水柵（街渠柵）・マンホール工		第3編 1-3-22	37
	2-5-6 地下排水工		第3編 1-3-21	36
	2-5-7 場所打水路工		第3編 1-3-21	36
	2-5-8 排水工（小段排水路・縦排水）		第3編 1-3-21	36
	2-5-9 排水性舗装用路肩排水工			111
第6節 縁石工	2-6-3 縁石工		第3編 1-3-5	30
第7節 踏掛版工	2-7-4 踏掛版工	コンクリート工		111
		ラバーシュー		111
		アンカーボルト		111
第8節 防護柵工	2-8-3 路側防護柵工		第3編 1-3-8	30
	2-8-4 防止柵工		第3編 1-3-7	30
	2-8-6 車止めポスト工		第3編 1-3-7	30
第9節 標識工	2-9-3 小型標識		第3編 1-3-6	30
	2-9-4 大型標識	標識基礎工		111
		標識柱工		111
第10節 区画線工	2-10-2 区画線工		第3編 1-3-9	31
第11節 道路附属施設工	2-11-4 道路附属物工	視線誘導標 距離標	第3編 1-3-10	31
第12節 橋梁附属施設工	2-12-2 伸縮装置工		第3編 1-3-18	34
<b>第3章 橋梁下部工</b>				
第3節 工場製作工	3-3-2 刃口金物製作工		第3編 1-12-1	61
	3-3-3 鋼製橋脚製作工			112
	3-3-4 アンカーフレーム製作工		第3編 1-12-8	65
	3-3-5 工場塗装工		第3編 1-12-11	66
第4節 橋台工	3-4-3 既製杭工		第3編 1-4-4	38
	3-4-4 場所打杭工		第3編 1-4-5	39
	3-4-5 深礎工		第3編 1-4-6	39
	3-4-6 オープンケーソン基礎工		第3編 1-4-7	40
	3-4-7 ニューマチックケーソン基礎工		第3編 1-4-8	40
	3-4-8 橋台躯体工			113

【第8編 道路編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基準	頁
第5節 RC橋脚工	3-5-3 既製杭工		第3編 1-4-4	38
	3-5-4 場所打杭工		第3編 1-4-5	39
	3-5-5 深礎工		第3編 1-4-6	39
	3-5-6 オープンケーソン 基礎工		第3編 1-4-7	40
	3-5-7 ニューマチック ケーソン基礎工		第3編 1-4-8	40
	3-5-8 鋼管矢板基礎工		第3編 1-4-9	40
	3-5-9 橋脚躯体工	張出式		114
		重力式		114
		半重力式		114
		ラーメン式	115	
第6節 鋼製橋脚工	3-6-3 既製杭工		第3編 1-4-4	38
	3-6-4 場所打杭工		第3編 1-4-5	39
	3-6-5 深礎工		第3編 1-4-6	39
	3-6-6 オープンケーソン 基礎工		第3編 1-4-7	40
	3-6-7 ニューマチック ケーソン基礎工		第3編 1-4-8	40
	3-6-8 鋼管矢板基礎工		第3編 1-4-9	40
	3-6-9 橋脚フーチング工	I型・T型		115
		門型		116
	3-6-10 橋脚架設工	I型・T型		116
		門型		116
	3-6-11 現場継手工	現場継手工		116
	3-6-12 現場塗装工		第3編 1-3-23	37
第7節 護岸基礎工	3-7-3 基礎工		第3編 1-4-3	38
	3-7-4 矢板工		第3編 1-3-4	30
第8節 矢板護岸工	3-8-3 笠コンクリート工		第3編 1-4-3	38
	3-8-4 矢板工		第3編 1-3-4	30
第9節 法覆護岸工	3-9-2 コンクリート ブロック工		第3編 1-5-3	41
	3-9-3 護岸付属物工		第6編 1-5-4	98
	3-9-4 緑化ブロック工		第3編 1-5-4	41
	3-9-5 環境護岸ブロック工		第3編 1-5-3	41
	3-9-6 石積（張）工		第3編 1-5-5	41
	3-9-7 法枠工		第3編 1-14-4	69
	3-9-8 多自然護岸工	巨石張り・巨石積み	第3編 1-3-19	35
		かごマット	第3編 1-3-19	35
	3-9-9 吹付工		第3編 1-14-3	69
	3-9-10 植生工		第3編 1-14-2	68
	3-9-11 覆土工		第1編 2-3-5	28
	3-9-12 羽口工	じゃかご	第6編 1-5-13	98
ふとんかご		第6編 1-5-13	98	
かご枠		第6編 1-5-13	98	
連節ブロック張り		第3編 1-5-3	42	
第10節 擁壁護岸工	3-10-3 場所打擁壁工		第3編 1-15-1	70
	3-10-4 プレキャスト擁壁工		第3編 1-15-2	70
第4章 鋼橋上部				
第3節 工場製作工	4-3-3 桁製作工		第3編 1-12-3	62
	4-3-4 検査路製作工		第3編 1-12-4	65
	4-3-5 鋼製伸縮継手製作工		第3編 1-12-5	65
	4-3-6 落橋防止装置製作工		第3編 1-12-6	65

【第8編 道路編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基準	頁
第3節 工場製作工	4-3-7 鋼製排水管製作工		第3編 1-12-10	66
	4-3-8 橋梁用防護柵製作工		第3編 1-12-7	65
	4-3-9 橋梁用高欄製作工			117
	4-3-11 アンカーフレーム 製作工		第3編 1-12-8	65
	4-3-12 工場塗装工		第3編 1-12-11	66
第4節 鋼橋架設工	4-4-4 架設工（クレーン架設）		第3編 1-13-3	67
	4-4-5 架設工 （ケーブルクレーン架設）		第3編 1-13-4	67
	4-4-6 架設工 （ケーブルエレクション架設）		第3編 1-13-5	67
	4-4-7 架設工（架設桁架設）		第3編 1-13-6	67
	4-4-8 架設工（送出し架設）		第3編 1-13-7	67
	4-4-9 架設工 （トラベラークレーン架設）		第3編 1-13-8	67
	4-4-10 支承工			117
第5節 橋梁現場塗装工	4-5-3 現場塗装工		第3編 1-3-23	37
第6節 床版工	4-6-2 床版工	床版・横組工	第3編 1-16-2	72
第7節 橋梁付属物工	4-7-2 伸縮装置工		第3編 1-3-18	34
	4-7-3 落橋防止装置工			118
	4-7-5 地覆工			118
	4-7-6 橋梁用防護柵工			118
	4-7-7 橋梁用高欄工			118
4-7-8 検査路工				118
第5章 コンクリート橋上部				
第3節 工場製作工	5-3-2 プレベーム用桁製作工		第3編 1-12-9	65
	5-3-3 橋梁用防護柵製作工		第3編 1-12-7	65
	5-3-4 鋼製伸縮継手製作工		第3編 1-12-5	65
	5-3-5 検査路製作工		第3編 1-12-4	65
	5-3-6 工場塗装工		第3編 1-12-11	66
第4節 PC橋工	5-4-2 プレテンション桁製作工（購入工）	けた橋	第3編 1-3-12	32
		スラブ橋	第3編 1-3-12	32
	5-4-3 ポストテンション桁製作工		第3編 1-3-13	32
	5-4-4 プレキャストセグメント製作工（購入工）		第3編 1-3-12	32
	5-4-5 プレキャストセグメント主桁組立工		第3編 1-3-14	33
	5-4-6 支承工		第8編 4-4-10	117
	5-4-7 架設工（クレーン架設）		第3編 1-13-3	67
	5-4-8 架設工（架設桁架設）		第3編 1-13-6	67
	5-4-9 床版・横組工		第3編 1-16-2	72
	5-4-10 落橋防止装置工		第8編 4-7-3	118
第5節 プレベーム桁橋工	5-5-2 プレベーム桁製作工（現場）			118
	5-5-3 支承工		第8編 4-4-10	117
	5-5-4 架設工（クレーン架設）		第3編 1-13-3	67
	5-5-5 架設工（架設桁架設）		第3編 1-13-6	67
	5-5-6 床版・横組工		第3編 1-16-2	72
5-5-9 落橋防止装置工		第8編 4-7-3	118	
第6節 PCホロー スラブ橋工	5-6-3 支承工		第8編 4-4-10	117
	5-6-4 PCホロースラブ製作工		第3編 1-3-15	33
	5-6-5 落橋防止装置工		第8編 4-7-3	118

【第8編 道路編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基準	頁
第7節 RCホロースラブ 橋工	5-7-3 支承工		第8編4-4-10	117
	5-7-4 RC場所打ホロースラブ 製作工		第3編1-3-15	33
	5-7-5 落橋防止装置工		第8編4-7-3	118
第8節 PC版桁橋工	5-8-2 PC版桁製作工		第3編1-3-16	33
第9節 PC箱桁橋工	5-9-3 支承工		第8編4-4-10	117
	5-9-4 PC箱桁製作工		第3編1-3-16	33
	5-7-5 落橋防止装置工		第8編4-7-3	118
第10節 PC片持箱桁橋 工	5-10-2 PC片持箱桁製作工		第3編1-3-16	33
	5-10-3 支承工		第8編4-4-10	117
	5-10-4 架設工（片持架設）		第3編1-13	67
第11節 PC押出し箱桁 橋工	5-11-2 PC押出し箱桁製作工		第3編1-3-16	33
	5-11-3 架設工（押出し架設）		第3編1-13	67
第12節 橋梁付属物工	5-12-2 伸縮装置工		第3編1-3-18	34
	5-12-4 地覆工		第8編4-7-5	118
	5-12-5 橋梁用防護柵工		第8編4-7-6	118
	5-12-6 橋梁用高欄工		第8編4-7-7	118

【第8編 道路編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基準	頁
林道工関係		林道工 土工		119
		路盤工（砂利）		119
		コンクリート路面工		119
		林道擁壁工 （現場打擁壁工）	第3編1-15-1	71
		林道擁壁工 （コンクリートブロック 積）	第3編1-5-3	41
		林道擁壁工 （プレキャスト擁壁 工）	第3編1-15-2	70
		林道擁壁工 （補強土壁工）	第3編1-15-3	70
		路側防護柵工	第3編1-3-8	31

【第9編 公園編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基準	頁
第1章 基盤整備				
第3節 敷地造成工	1-3-2 表土保全工	表土掘削		120
	1-3-4 掘削工		第1編 2-3-2	27
	1-3-5 盛土工		第1編 2-3-3	27
	1-3-6 路床盛土工		第1編 2-4-4	28
	1-3-7 法面整形工		第1編 2-4-5	29
	1-3-9 路床安定処理工		第3編 1-7-2	53
第4節 公園土工	1-4-2 小規模造成工	小規模掘削	第1編 2-3-2	27
		小規模敷均・締固め	第1編 2-3-3	27
第5節 植栽基盤工	1-5-3 透水層工	開渠排水		120
		暗渠排水		120
	1-5-4 土層改良工	普通耕		120
		深耕		120
		混層耕		120
		心土破碎		120
	1-5-5 土性改良工	土性改良		121
		中和剤施用		121
		除塩		121
		施肥		121
	1-5-6 表土盛土工	盛土（流用表土）		121
		盛土（発生表土）		121
		盛土（採取表土）		121
		盛土（購入表土）		121
	1-5-7 人工地盤工	押さえコンクリート		121
		人工地盤排水層		121
		フィルター 防根シート		121
立排水浸透柵			121	
第6節 法面工	1-6-3 法面ネット工	法面ネット		122
	1-6-4 植生工	1. 種子散布	第3編 1-14-2	68
		2. 客土シート	第3編 1-14-2	68
		3. 植生マット	第3編 1-14-2	68
		4. 公園種子帯	第3編 1-14-2	68
		5. 公園張芝	第3編 1-14-2	68
		6. 公園筋芝	第3編 1-14-2	68
		7. 公園市松芝	第3編 1-14-2	68
		8. 人工張芝	第3編 1-14-2	68
		9. 植生穴	第3編 1-14-2	68
		10. 客土吹付	第3編 1-14-2	68
		11. 植生基材吹付	第3編 1-14-2	68
	1-6-5 法枠工	1. 現場打法枠	第3編 1-14-4	69
		2. 現場吹付法枠	第3編 1-14-4	69
		3. プレキャスト法枠	第3編 1-14-4	69
4. 金属製法枠		第3編 1-14-4	69	
1-6-6 編柵工	編柵		122	
1-6-7 かご工	1. じゃかご	第6編 1-5-13	98	
	2. ふとんかご	第6編 1-5-13	98	
第7節 軽量盛土工	1-7-2 軽量盛土工		第1篇 2-4-3	28

【第9編 公園編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基準	頁	
第8節 擁壁工	1-8-4 場所打擁壁工		第3編 1-15-1	70	
	1-8-5 プレキャスト擁壁工	1. プレキャストL型擁壁	第3編 1-15-2	70	
		2. プレキャスト逆T型擁壁	第3編 1-15-2	70	
		3. 側溝付プレキャスト擁壁	第3編 1-15-2	70	
	1-8-6 補強土壁工		第3編 1-15-3	71	
	1-8-7 コンクリートブロック工		第3編 1-5-3	41	
	1-8-8 石積工	1. 崩れ積			122
		2. 面積	第3編 1-5-5	41	
		3. 玉石積	第3編 1-5-5	41	
		4. 小端積	第3編 1-5-5	41	
		5. こぶだし積	第3編 1-5-5	41	
		6. 切石積	第3編 1-5-5	41	
		7. 間地石積	第3編 1-5-5	41	
		8. 雑割石積	第3編 1-5-5	41	
		9. 雑石積	第3編 1-5-5	41	
		10. 割石積	第3編 1-5-5	41	
		11. 雑割石張	第3編 1-5-5	41	
12. 雑石張		第3編 1-5-5	41		
13. 石積高さ調整				122	
1-8-9 土留め工				122	
第9節 公園カルバート工		1. 現場打カルバート工	第8編 1-8-6	107	
		2. プレキャストカルバート工	第3編 1-3-20	35	
第2章 植栽					
第3節 植栽工	2-3-10 樹木養生工	1. 防風ネット		123	
		2. 養生柵		123	
	2-3-11 樹名板工	埋込型樹名板		123	
	2-3-12 根囲い保護工			123	
第3章 施設整備					
第4節 雨水排水設備工	3-4-6 側溝工	1. L型側溝	第3編 1-3-21	36	
		2. 管（函）渠型側溝	第3編 1-3-21	36	
		3. プレキャストU型側溝	第3編 1-3-21	36	
		4. プレキャスト皿型側溝	第3編 1-3-21	36	
		5. コルゲートフリューム	第3編 1-3-21	36	
		6. 自由勾配側溝	第3編 1-3-21	36	
		7. 特殊円形側溝	第3編 1-3-21	36	
		8. 現場打L型側溝	第3編 1-3-22	37	
		9. 現場打側溝	第3編 1-3-22	37	
		10. 公園素掘側溝	第3編 1-19-2	72	
	3-4-7 管渠工	1. コルゲートパイプ	第3編 1-3-21	36	
	3-4-8 集水樹・マンホール工	1. 街渠樹	第3編 1-3-22	37	
		2. 集水樹	第3編 1-3-22	37	
		3. 浸透樹	第3編 1-3-22	37	
		4. プレキャスト街渠樹	第3編 1-3-22	37	
		5. プレキャスト集水樹	第3編 1-3-22	37	

【第9編 公園編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基準	頁
第4節 雨水排水設備工	3-4-8 集水枡・マンホール工	6.塩化ビニル製枡	第3編1-3-22	36
		7.マンホール	第3編1-3-22	36
		8.プレキャストマンホール	第3編1-3-22	36
		9.公園マンホール	第3編1-3-22	36
		10.浸透マンホール	第3編1-3-22	36
		枡高さ調整 マンホール高さ調整		123
	3-4-9 地下排水工	1.透水コンクリート管	第3編1-3-21	36
		2.化学繊維管	第3編1-3-21	36
		3.地下排水	第3編1-3-21	36
	3-4-10 公園水路工	現場打水路	第3編1-3-21	36
		プレキャスト水路	第3編1-3-21	36
第5節 汚水排水設備工	3-5-4 管渠工	1.コルゲートパイプ	第3編1-3-21	36
	3-5-5 汚水枡・マンホール工	1.汚水枡	第3編1-3-22	37
		2.塩化ビニル製枡	第3編1-3-22	37
		3.マンホール	第3編1-3-22	37
4.公園マンホール		第3編1-3-22	37	
第6節 電気設備工	3-6-3 照明設備工	1.ハンドホール		124
		2.ハンドホール高さ調整		124
		3.引込柱		124
		4.分電盤		124
		5.分電盤高さ調整		124
		6.照明灯基礎		124
	3-6-6 電線管路工	1.電線管		124
		2.電線		124
		3.埋設シート		124
	第7節 園路広場整備工	3-7-5 アスファルト舗装工	1.下層路盤工	第3編1-6-7
2.上層路盤工			第3編1-6-7	44
3.基層工			第3編1-6-7	44
4.表層工			第3編1-6-7	44
3-7-6 排水性舗装工		1.下層路盤工	第3編1-6-7	44
		2.上層路盤工	第3編1-6-7	44
		3.基層工	第3編1-6-7	44
		4.表層工	第3編1-6-7	44
3-7-8 アスファルト系舗装工				125
3-7-9 コンクリート系舗装工				125
3-7-10 土系舗装工				125
3-7-11 レンガ・タイル系舗装工				125
3-7-12 木系舗装工				125
3-7-13 樹脂系舗装工				125
3-7-14 石材系舗装工	1.砂利舗装		125	
	2.砕石舗装		125	
	3.平石張舗装		125	
	4.ごろた石張舗装		125	
	5.玉石張舗装		125	
	6.野面平石張舗装		125	
	7.修景割板石張舗装		125	
	8.修景切板石張舗装		125	
	9.割板石張舗装		125	
	10.小舗石張舗装		125	

【第9編 公園編】

章、節	条	枝番（工種）	準用する 出来形管理基準	頁
第7節 園路広場整備工	3-7-14 石系園路工	11. 切板石張舗装		125
		12. 延段		125
	3-7-16 園路縁石工		第3編 1-3-5	30
	3-7-17 区画線工		第3編 1-3-9	31
	3-7-18 階段工	1. コンクリート階段	第6編 2-6-7	101
		2. コンクリートブロック階段	第6編 2-6-7	101
		3. 野面石階段	第6編 2-6-7	101
		4. 割石階段	第6編 2-6-7	101
		5. 切石階段	第6編 2-6-7	101
6. 丸太階段		第6編 2-6-7	101	
7. 擬木階段		第6編 2-6-7	101	
第10節 サービス施設整備工	3-10-3 時計台工			126
	3-10-4 水飲み場工・洗い場工			126
	3-10-5 ベンチ・テーブル工			126
	3-10-6 野外炉工			126
	3-10-8 サイン施設工			126
第11節 管理施設整備工	3-11-6 柵工			127
	3-11-7 車止め工			127
第12節 建築施設組立設置工	3-12-3 四阿工他	四阿基礎		127

【別表】

記号	名 称	頁
ア	管水路（コンクリート二次製品）のジョイント間隔長	128
イ	管水路（ダクタイル鋳鉄管）のジョイント間隔規格値	130
ウ	管水路（強化プラスチック複合管）のジョイント間隔規格値	131

# 出来形管理基準及び規格値

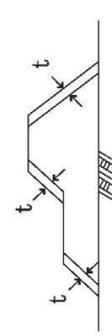
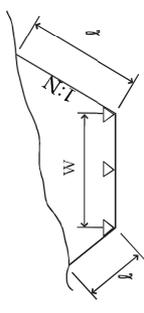
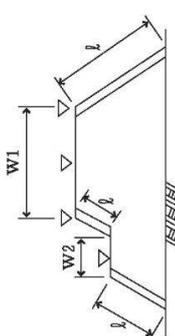
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1	2	3	2		掘削土工 (切土工)	基準高	±50	施工延長40m(測点間隔25mの場合) は50m)につき1ヶ所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工 ヶ所につき2ヶ所。 基準高は掘削部の両端で測定。 ただし、※TSにより管理する場合は、 設計図書の測点毎。 基準高は掘削部の両端で測定する。		
						法長	-200			
1	2	3	2		盛土工	法長	法長の-4%	1 施工箇所毎		
						勾配	-100			
1	2	3	3		盛土工	延長	-0.5分	1 施工箇所毎		
						延長	-100			
1	2	3	4		盛土補強工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基準高	-50	施工延長40m(測点間隔25mの場合) は50m)につき1ヶ所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2ヶ所。 ただし、※TSにより管理する場合は、 設計図書の測点毎。 基準高は各法層で測定。		
						厚さ	-50			
1	2	3	4		盛土補強工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	控え	設計値以上	1 施工箇所毎		
						長さ	設計値以上			

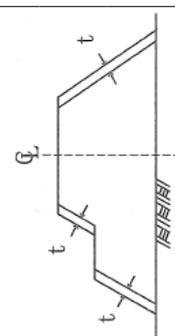
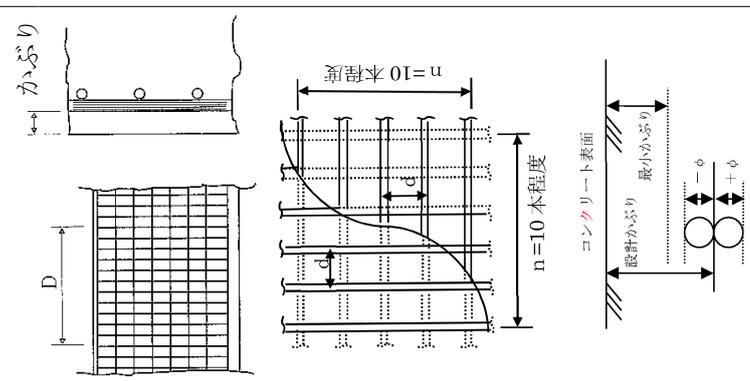
※施工管理データ(基本設計データ及び出来形計測データ)を掲載したトータルステーション(以下「TS」という。)

「TSを用いた出来形管理要領(土工編)」(平成24年3月29日付け国官技第347号、国総公第85号)を参考とする。

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
1 共通編	2 土工	3 河川・治山土工	5		法面整形盛土(盛土部)	厚さ	※-30	施工延長40m(測点間隔25mの場合)は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。			
						法長	-100				
						勾配	法長-2%				
						勾配	N				
						厚さ	-25				
						幅	-100				
	2	4 道路土工	2			掘削土工(切土工)	厚さ	±50	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。  ただし、※TSにより管理する場合は、設計図書の測点毎。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 1 施工箇所毎		
							法長	-200			
							勾配	法長の-4%			
							幅	-100			
							勾配	N			
							延	-0.5分			
3	4				路体盛土(盛土部)	厚さ	±50	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 ただし、※TSにより管理する場合は、設計図書の測点毎。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 1 施工箇所毎			
						法長	-100				
						勾配	法長の-2%				
						幅	-100				
						勾配	N				
						延	-0.5分				

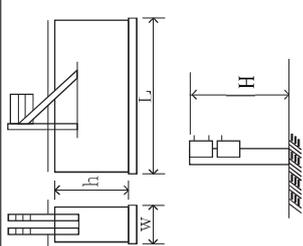
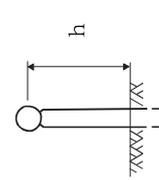
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1	2	4	5		法 面 整 工 ( 盛 土 部 )	厚	※-30	施工延長 40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。		
						法 長 ℓ	-100			
					勾 配 N	ℓ < 5m ℓ ≥ 5m	法長の-2%			
					組 立	平 均 間 隔 d か ぶ り t	-0.5分 ±φ 設計かぶり±φ かつ最小かぶり 以上	$d = D / (n - 1)$ D : n 本間の延長 n : 10 本程度とする φ : 鉄筋径 工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに対して各面で1ヶ所以上測定する。最小かぶりは、コンクリート標準示方書（設計編：標準7編2章2.1）参照 ただし、道路橋示方書の適用を受ける橋については、道路橋示方書（Ⅲコンクリート橋・コンクリート部材編5.2）による。 注1) 重要構造物かつ主鉄筋について適用する。 注2) 橋梁コンクリート床版行（PC橋含む）の鉄筋については第3編1-16-2床版工を適用する 注3) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外）の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する。		

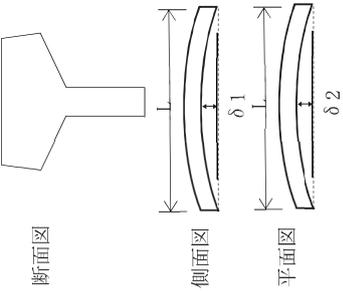
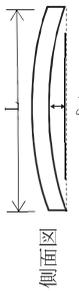
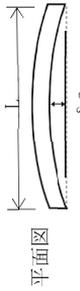
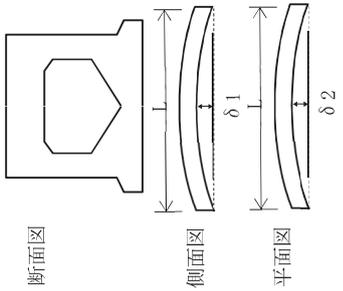
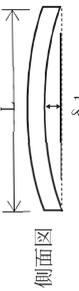
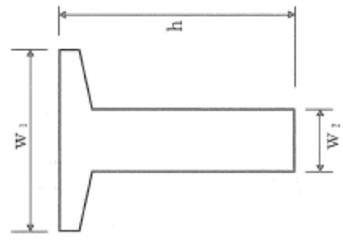
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	1	3	4		矢板工 〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう矢板)	基準高	±50	基準高は、施工延長40m(測点間隔25mの場合)は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 変位は、施工延長20m(測点間隔25mの場合)は25m)につき1ヶ所、延長20m(又は25m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
						根入	設計値以上			
						偏位 θ(ずれ)	100			
			5		縁石工 (縁石・アスカープ)	延長	-200	1ヶ所/1施工箇所		
			6		小型標識工	設置高さ	設計値以上	1ヶ所/1基		
基礎	-30	基礎1基毎								
根入	設計値以上									
			7		防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	幅	-30	単独基礎10基につき1基、10基以下 のものは2基測定。測定箇所は1基につき1ヶ所測定。 1ヶ所/1施工箇所		
高さ	-30									
パイプ取付高	+30 -20									
			8	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	-30	施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 1ヶ所/1施工箇所		
高さ	-30									
ビーム取付高	+30 -20									

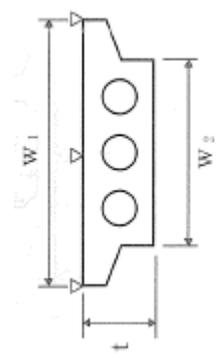
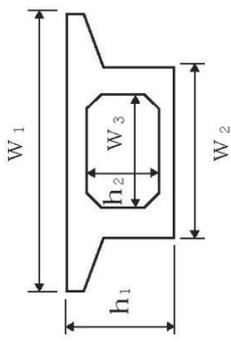
単位：mm

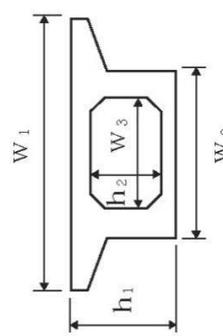
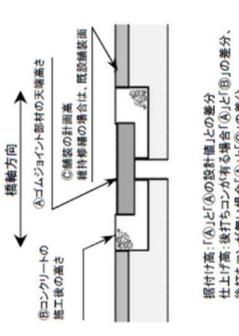
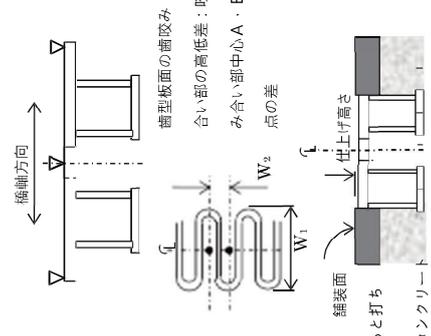
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	1	3	8	2	路側防護柵工 (ガードケープル)	基礎	幅 W	1ヶ所/1基礎毎		※ワイヤロープ式防護柵にも適用する。
							高さ h			
							延長 L			
					ケープル取付高 H	+30 -20	1ヶ所/1施工箇所			
			9		区画線工	厚 (溶融式のみ)	設計値以上	各線種毎に、1ヶ所ステープレスにより測定。		
			10		道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高 さ h	±30	1ヶ所/10本 10本以下の場合は、2ヶ所測定。		
			11		コンクリート面塗装工	塗料使用量	鋼道路橋防食便覧Ⅱ-82「表Ⅱ.5.5 各塗料の標準使用量と標準膜厚」の標準使用量以上。	塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入量(充缶数)と、塗付作業終了時に使用量(空缶数)を確認し、各々必要量以上であることを確認する。 1ロットの大きさは500㎡とする。		

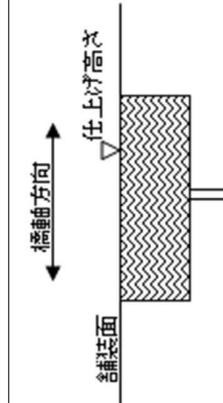
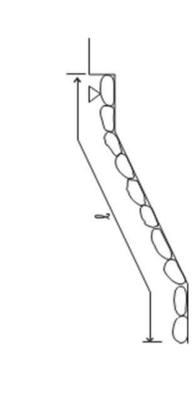
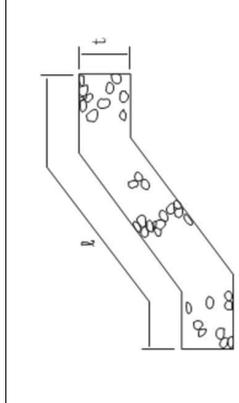
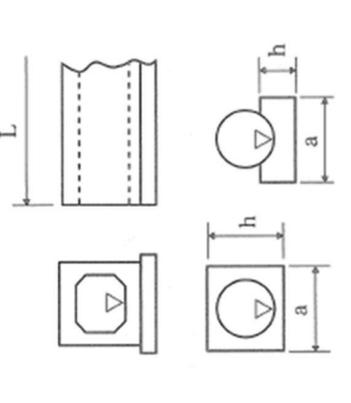
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
3	1	3	12	1	プレテンション桁製 作工 (購入工) (けた橋)	桁長 L (m)	±L/1000	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とす る。 なお、JISマーク表示品を使 用する場合は、製造工場の 発行するJISに基づく試験成 績表に替えることができ る。	断面図 			
						断面の外形寸法	±5		側面図 			
						橋桁のそり δ <sub>1</sub>	±8		平面図 			
						橋桁のそり δ <sub>2</sub>	±10					
						横方向の曲がり δ <sub>2</sub>	±10					
						桁長 L (m)	L ≤ 10m ±10 L > 10m ±L/1000		桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とす る。 なお、JISマーク表示品を使 用する場合は、製造工場の 発行するJISに基づく試験成 績表に替えることができ る。		断面図 	
						断面の外形寸法	±5				側面図 	
						橋桁のそり δ <sub>1</sub>	±8				平面図 	
						橋桁のそり δ <sub>2</sub>	±10					
						横方向の曲がり δ <sub>2</sub>	±10					
						幅 (上) W <sub>1</sub>	+10 -5				桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プ レストレッシング後に測 定。 桁断面寸法測定箇所は、両 端部、中央部の3ヶ所とす る。 なお、JISマーク表示品を使 用する場合は、製造工場の 発行するJISに基づく試験成 績表に替えることができ る。 ℓ：支間長 (m)	
						幅 (下) W <sub>2</sub>	±5					
高さ h	+10 -5											
桁支間長 ℓ	ℓ < 15m ±10 ℓ ≥ 15m ±(ℓ-5) か つ-30 mm以内											
横方向最大タワミ	0.8ℓ											

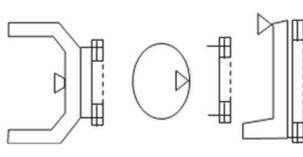
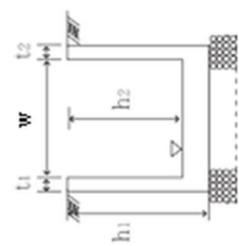
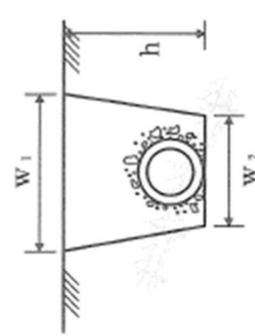
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	1	3	13	2	プレキヤストセグメント桁製作工 (購入工)	桁 長 $\ell$	—	桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所にて測定。		
						断面の外形寸法(mm)	—			
3	1	3	14		プレキヤストセグメント主桁組立工	桁 支 間 長 $\ell$	$\ell < 15m$ $\pm 10$	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ所とする。 $\ell$ ：支間長 (m)		
						横方向最大タワミ	$\ell \geq 15m$ $\pm (0-5)$ か つ-30mm以内			
3	1	3	15		P Cホロースラブ製作工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$	桁全数について測定。 基準高は、1径間あたり2ヶ所(支点付近)で1箇所あたり両端と中央部の3点、幅及び高さは1径間あたり両端と中央部の3ヶ所。 ※鉄筋の出来形管理基準は第3編1-16-2床版工に準ずる。 $\ell$ ：桁長 (m)		
						幅 $W_1, W_2$	-5~+30			
3	1	3	16	1	P C箱桁製作工	厚 さ $t$	-10~+20	桁全数について測定。 基準高は、1径間あたり2ヶ所(支点付近)で1箇所あたり両端と中央部の3点、幅及び高さは1径間あたり両端と中央部の3ヶ所。 ※鉄筋の出来形管理基準は第3編1-16-2床版工に準ずる。 $\ell$ ：桁長 (m)		
						桁 長 $\ell$	$\ell < 15m$ $\pm 10$ $\ell \geq 15m$ $\pm (0-5)$ か つ-30mm以内			
3	1	3	16	1	P C箱桁製作工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$	桁全数について測定。 基準高は、1径間あたり2ヶ所(支点付近)で1箇所あたり両端と中央部の3点、幅及び高さは1径間あたり両端と中央部の3ヶ所。 ※鉄筋の出来形管理基準は第3編1-16-2床版工に準ずる。 $\ell$ ：桁長 (m)		
						幅 (上) $W_1$	-5~+30			
3	1	3	16	1	P C箱桁製作工	幅 (下) $W_2$	-5~+30	桁全数について測定。 基準高は、1径間あたり2ヶ所(支点付近)で1箇所あたり両端と中央部の3点、幅及び高さは1径間あたり両端と中央部の3ヶ所。 ※鉄筋の出来形管理基準は第3編1-16-2床版工に準ずる。 $\ell$ ：桁長 (m)		
						内 空 幅 $W_3$	$\pm 5$			
3	1	3	16	1	P C箱桁製作工	高 さ $h_1$	+10 -5	桁全数について測定。 基準高は、1径間あたり2ヶ所(支点付近)で1箇所あたり両端と中央部の3点、幅及び高さは1径間あたり両端と中央部の3ヶ所。 ※鉄筋の出来形管理基準は第3編1-16-2床版工に準ずる。 $\ell$ ：桁長 (m)		
						内 空 高 さ $h_2$	+10 -5			
3	1	3	16	1	P C箱桁製作工	桁 長 $\ell$	$\ell < 15m$ $\pm 10$ $\ell \geq 15m$ $\pm (0-5)$ か つ-30mm以内	桁全数について測定。 基準高は、1径間あたり2ヶ所(支点付近)で1箇所あたり両端と中央部の3点、幅及び高さは1径間あたり両端と中央部の3ヶ所。 ※鉄筋の出来形管理基準は第3編1-16-2床版工に準ずる。 $\ell$ ：桁長 (m)		
							$\ell < 15m$ $\pm 10$ $\ell \geq 15m$ $\pm (0-5)$ か つ-30mm以内			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要								
3	1	3	16	2	PC押し出し箱桁製作工	幅（上） $W_1$	-5～+30	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準は第3編1-16-2床版工に準ずる。 ℓ：桁長（m）										
						幅（下） $W_2$	-5～+30											
						内空幅 $W_3$	±5											
						高さ $h_1$	+10 -5											
						内空高さ $h_2$	+10 -5											
						桁長 ℓ	ℓ < 15m				±10							
							ℓ ≥ 15m				±(ℓ-5) か ±30mm以内							
						3	18				3	1	伸縮装置工 (コンジョイント)	据付け高さ	±3	高さについては車道端部及び中央部付近の3点 表面の凹凸は長手方向（橋軸直角方向）に3mの直線定規で測って凹凸が3mm以下		
														表面の凹凸	3			
															仕上げ高さ			
18	2	3	2	伸縮装置工 (鋼製ジョイント)	高さ			据付け高さ	±3	高さについては車道端部、中央部において橋軸方向各3点計9点。 表面の凹凸は長手方向（橋軸直角方向）に3mの直線定規で測って凹凸が3mm以下 歯咬み合い部は車道端部、中央部の計3点。								
								橋軸方向各点設差の相対差	3									
					表面の凹凸			3										
					歯型板面の歯交み合い部の高低差			2										
					歯咬み合い部の縦方向間隔 $W_1$			±2										
					歯咬み合い部の横方向間隔 $W_2$			±5										
					仕上げ高さ			舗装面に対し 0～-2										

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	1	3	18	3	伸縮装置工 (埋設型ジョイント)	表面の凹凸	3	高さについては車道端部及び中央部付近の3点 表面の凹凸は長手方向（橋軸直角方向）に3mの直線定規で測って凹凸が3mm以下		
						仕上げ高さ	舗装面に対し 0～+3			
3	1	19	1	多自然型護岸工 (石張り、巨石積み)	基準高▽	±500	施工40m（測点間隔25mの場合）につき1ヶ所、 延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
					法長ℓ	-200				
					延長L	-200				
3	1	19	2	多自然型護岸工 (かごマット)	法長ℓ	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合）につき1ヶ所、 延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
					厚さt	-0.2t				
					延長L	-200				
3	20			プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基準高▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合）につき1ヶ所、 延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ※印は現場打部分のある場合 1施工箇所毎			
					※幅 a	-50				
					※高さ h	-30				
3					延長	L < 10m	-20			
					長	L ≥ 10m	-50			
						L ≥ 100m	-100			

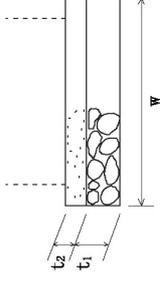
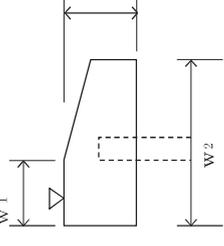
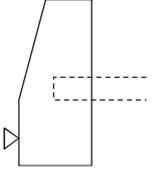
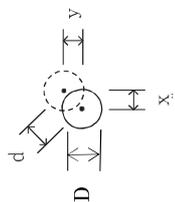
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要			
3	1	3	21	1	側溝工 (プレキャストU型側溝工) (L型側溝工) (自由勾配側溝工) (管渠工)	基準高 ▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25m) の場合は 50m) につき 1ヶ 所、延長 40m (又は 50m) 以 下のものは 1 施工箇所につ き 2ヶ所。					
							延長				L < 10m	-20	1 施工箇所毎
											L ≥ 10m	-50	
											L ≥ 100m	-100	
						基準高 ▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25m) の場合は 50m) につき 1ヶ 所、延長 40m (又は 50m) 以 下のものは 1 施工箇所につ き 2ヶ所。 (なお、製品使用の場合は、 製品寸法は、規格証明書等に よる)					
							厚さ t <sub>1</sub> , t <sub>2</sub>				-20		
											幅 w	-30	
											高さ h <sub>1</sub> , h <sub>2</sub>	-30	
						延長	L < 10m	-20	1 施工箇所毎				
							L ≥ 10m	-50					
							L < 100m	-50					
							L ≥ 100m	-100					
基準高 ▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25m) の場合は 50m) につき 1ヶ 所、延長 40m (又は 50m) 以 下のものは 1 施工箇所につ き 2ヶ所。											
	幅 W <sub>1</sub> , W <sub>2</sub>				-50								
					深さ h	-30							
						延長	L < 10m	-20	1 施工箇所毎				
L ≥ 10m	-50												
L ≥ 100m	-100												

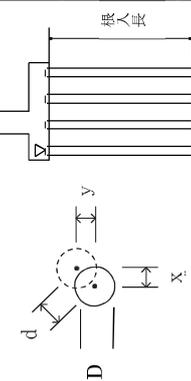
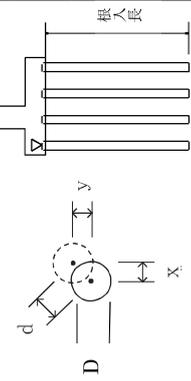
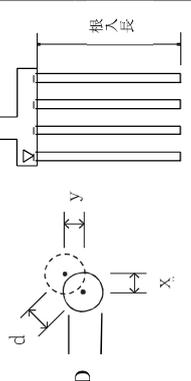
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	1	3	22		集水 水 (街渠柁)	基準高▽	±30	1ヶ所毎 ※は、現場打部分のある場合		
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20			
						※幅 $W_1, W_2$	-30			
						※高さ $h_1, h_2$	-30			
			23		現場塗装工	塗膜厚	<p>a. ロットの塗膜厚平均値は目標塗膜厚合計値の90%以上。</p> <p>b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。</p> <p>c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%以下。</p> <p>ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。</p>	<p>各層塗装終了時に測定。</p> <p>1 ロットの大きさは500㎡とする。</p> <p>1 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回を行い、その平均値をその点の測定値とする。</p> <p>ただし、1 ロットの面積が200㎡に満たない場合は10㎡ごとに1点とする。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 事 種 項	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
3	1	4	1		一 般 施 工 ( 切 込 砂 利 ) ( 砕 石 基 礎 工 ) ( 割 ぐ り 石 基 礎 工 ) ( 均 し コ ン ク リ ー ト )	幅	設計値以上	施工延長 40m (測点間隔 25m) の場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。					
						厚さ	-30						
						延長	各構造物の規格値による						
						3		基礎工 ( 護 岸 ) ( 現 場 打 )	基準高	▽	施工延長 40m (測点間隔 25m) の場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。		
									幅	w1, w2			
									高さ	h	-30		
									延長	L < 10m	-20		
										L ≥ 10m	-50		
										L < 100m	-100		
										L ≥ 100m	-100		
4	1	4	1	既 製 杭 工 ( 既 製 コ ン ク リ ー ト 杭 ) ( 鋼 管 杭 ) ( H 鋼 杭 )	基準高	▽	施工延長 40m (測点間隔 25m) の場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。						
					延長	L < 10m				-20			
						L ≥ 10m				-50			
						L < 100m	-100						
						L ≥ 100m	-100						
					基準高	▽	±30						
					傾斜	傾斜は、縦断方向 (道路線形方向、橋軸方向等) とそれに直交する横断方向の 2 方向で測定。		$d = \sqrt{x^2 + y^2}$					
					根入	長			設計値以上				
					偏心	量	d	D/4 以内かつ 100 以内					
					傾	斜	傾	1/100 以内					

単位：mm

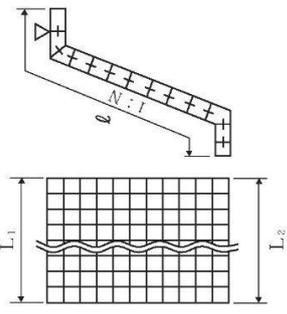
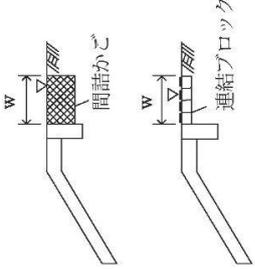
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3	1	4	4	2	既杭工 (鋼管ソイルセメント杭)	基準高	▽	全数について杭中心で測定。			
						根入	長				±50
						偏心量	d				設計値以上
						傾	斜				D/4 以内かつ 100 以内
						杭	D				1/100 以内
											設計値以上
					場所打杭工	基準高	▽	全数について杭中心で測定。			
						根入	長				±50
						偏心量	d				設計値以上
						傾	斜				100 以内
						杭	D				1/100 以内
											設計径 (公称径) -30 以上
深礎工	基準高	▽	全数について杭中心で測定。								
	根入	長				±50					
	偏心量	d				設計値以上					
	傾	斜				150 以内					
	杭	D				1/50 以内					
						設計径 (公称径) 以上					

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	土木工事共通編	4	7		オーブンケーン基礎	基準高 $\nabla$	$\pm 100$	長さ、幅、高さ、壁厚、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
						ケーンの長さ $l$	-50			
						ケーンの幅 $w$	-50			
						ケーンの高さ $h$	-100			
						ケーンの壁幅 $t$	-20			
						偏心量 $d$	300 以内			
						偏心量 $d$	300 以内			
		基準高 $\nabla$	$\pm 100$	長さ、幅、高さ、壁厚、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$					
		ケーンの長さ $l$	-50							
		ケーンの幅 $w$	-50							
		ケーンの高さ $h$	-100							
		ケーンの壁幅 $t$	-20							
		偏心量 $d$	300 以内							
		偏心量 $d$	300 以内							
		基準高 $\nabla$	$\pm 100$	基準高は、全数を測定。 偏心量は、1 基ごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$					
根入長	設計値以上									
偏心量 $d$	300 以内									
10	木杭工				基準高 $\nabla$	+75、-45	重要構造物は全数、それ以外は施工本数 20 本あたり 1 本測定し、20 本未満は 2 本測定する。支持杭については打止り沈下量を全数測定する。 D：杭径	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$		
					偏心量 $d$	225 以内				
					偏心量 $d$	$60 \leq D \leq 210$				

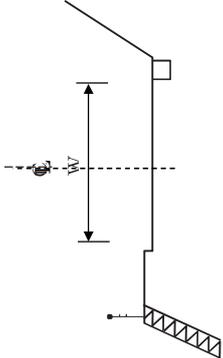
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
3	1	一般施工	5		コンクリートブロック工 （コンクリートブロック積） （コンクリートブロック張り） 緑化ブロック工 石積（張）工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。法長が変化する場合は変化点間の延長も測定。厚さは、法長3m未満の場合は、下端部及び上端部（天端より50cm下がり）の2ヶ所、3m以上の場合は、法長の中間部を加えた3ヶ所を測定。</p>			
						法長 $\ell$	-50				
						厚さ $\ell$	-100				
						厚さ（ブロック積張） 厚さ（ブロック） 厚さ（石積・張） $t_1$	-50				
						厚さ（裏込） $t_2$	-50				
						勾配 N	-0.5分				
						延長	L < 10m				-20
							L $\geq$ 10m				-50
							L < 100m				-50
							L $\geq$ 100m				-100
									<p><math>\ell &lt; 3\text{m}</math> は 2箇所測定 <math>\ell \geq 3\text{m}</math> は 3箇所測定</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	1	5	3		コンクリートブロック工 (連節ブロック張り)	基準高	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所。延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所に つき2ヶ所。		
						法長	-100			
						勾配	-0.5分			
						延長 L <sub>1</sub>	-20			
						L <sub>2</sub>	-50			
							-100			
					コンクリートブロック工 (天端保護ブロック)	基準高	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所。延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所に つき2ヶ所。		
						幅	-100			
						延長	-20			
						L < 10m	-50			
						L ≥ 10m	-100			
						L ≥ 100m	-100			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	1	6			道 路 工	幅	-25	幅は延長40m毎に1ヶ所の割とし測定する。		着前測量を実施し既設構造物（下層路盤の高さを確認すること。
						延長	-20 -50 -100			
			6		橋面防水工(シート系床版防水層)	シートの重ね幅	-20～+50	標準重ね幅100mmに対し、1施工箇所毎に目視と測定により全面を確認		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測定基準	測定箇所	摘要																																								
							個々の測定値	測定値の平均 $\bar{X}_n$																																												
								中規模以上	小規模以下																																											
3	1	一般舗装工	7	1	アスファルト舗装工 半たわみ性舗装工 排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高	±30	$\bar{X}_3 \sim$	±15	基準高、幅は延長40m毎に1ヶ所の割とし、基準高は道路中心線及びその端部で測定。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡毎に1個加算し、掘起して測定。	※工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコア一以外の方法(水糸による管理)ができる。																																									
													厚さ	-45	$\bar{X}_3$	-6																																				
																	幅	-50	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10																																
																					厚さ	-25	$\bar{X}_7 \sim$	-15																												
																									幅	-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20																								
																													厚さ	-30	$\bar{X}_3$	-5																				
																																	幅	-50	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6																
																																					厚さ	-25	$\bar{X}_7 \sim$	-8												
																																									幅	-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20								
																																													厚さ	-15	$\bar{X}_3$	-3				
																																																	幅	-50	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-4
幅	-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20																																																	
				厚さ	-30	$\bar{X}_3$	-5																																													
								幅	-50	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6																																									
												厚さ	-25	$\bar{X}_7 \sim$	-8																																					
																幅	-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20																																	
																				厚さ	-20	$\bar{X}_3$	-3																													
																								幅	-50	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-4																									
																												厚さ	-15	$\bar{X}_7 \sim$	-5																					
																																幅	-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20																	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測定基準	測定箇所	摘 要
							個々の測定値	測定値の平均 $\bar{X}_n$				
								中規模以上	小規模以下			
3	1	6	7	5	アスファルト舗装工 半たわみ性舗装工 排水性舗装工 (基層工)	厚  さ	-9	$\bar{X}_3$	-1	幅は延長 40m 毎に 1ヶ所の割合とし、厚さは 2,000 m <sup>2</sup> までは 3 個とし、2,000 m <sup>2</sup> を超える場合は 1,000 m <sup>2</sup> 毎に 1 個加算し、コーアを採取して測定。	コーア採取について 橋面舗装等でコーア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
								$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-2			
								$\bar{X}_7 \sim$	-3			
							幅	-25	$\bar{X}_3 \sim$	-10		
									$\bar{X}_3$	-1	幅は延長 40m 毎に 1ヶ所の割合とし、厚さは 2,000 m <sup>2</sup> までは 3 個とし、2,000 m <sup>2</sup> を超える場合は 1,000 m <sup>2</sup> 毎に 1 個加算し、コーアを採取して測定。	平坦性について ・カーブの多い山間地及び測定線の全線→一測線が 100m 未満の場合には省略することができる。 ・測定方法、測定箇所については、舗装調査・試験法便覧による。
									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-2		
							$\bar{X}_7 \sim$	-3				
							幅	-25	$\bar{X}_3 \sim$	-10		
									直読式 (足付き) ( $\sigma$ ) 1.75 mm 以下 3m プロファイルメーター ( $\sigma$ ) 2.4 mm 以下		平坦性	
10	1	透水性舗装工 (路盤工)	基準高	±50	$\bar{X}_3 \sim$	±15	基準高、幅は延長 40m 毎に 1ヶ所の割合とし、基準高は道路中心線及びその端部で測定。厚さは 2,000 m <sup>2</sup> までは 3 個とし、2,000 m <sup>2</sup> を超える場合は 1,000 m <sup>2</sup> 毎に 1 個加算し、掘起して測定。	※工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事:施工面積 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模工事:施工面積 2,000 m <sup>2</sup> 未満とする。なお、施工面積 300 m <sup>2</sup> 未満においては厚さ管理を掘り起こし及びコーア以外の方法(水糸による管理) ができる。				
						厚  さ			t<15cm -30	$\bar{X}_3$	-6	
										$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10	
										$\bar{X}_7 \sim$	-15	
						幅			-50	$\bar{X}_3 \sim$	-25	
										$\bar{X}_3$	-1	幅は延長 40m 毎に 1ヶ所の割合とし、厚さは 2,000 m <sup>2</sup> までは 3 個とし、2,000 m <sup>2</sup> を超える場合は 1,000 m <sup>2</sup> 毎に 1 個加算し、コーアを採取して測定。
										$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-2	
						$\bar{X}_7 \sim$			-3			
						幅			-25	$\bar{X}_3 \sim$	-10	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測定基準	測定箇所	摘 要
							個々の測定値		測定値の平均 $\bar{X}_n$			
							中規模以上	小規模以下				
3	1	6	11	1	グーアスアスファルト 舗 装 工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	$\bar{X}_3$	-3	※工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事:施工面積2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模工事:施工面積2,000 m <sup>2</sup> 未満とする。なお、施工面積300 m <sup>2</sup> 未満においては厚さ管理を掘り起こし及びコアー以外の方法(水糸による管理)ができる。  コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。  平坦性について ・カーブの多い山間地及び測定線の全線→測定線が100m未満の場合は省略することができる。	
									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-4		
									$\bar{X}_7 \sim$	-5		
							-25	$\bar{X}_3 \sim$	-20			
									幅	-10		
												$\bar{X}_3$
				$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-2							
				2	グーアスアスファルト 舗 装 工 ( 基 層 工 )	厚 さ	-9	-12	$\bar{X}_3$	-1		
									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-2		
									$\bar{X}_7 \sim$	-3		
						-25	$\bar{X}_3 \sim$	-10				
								幅	-10			
$\bar{X}_3$	-1											
$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-2											
3	グーアスアスファルト 舗 装 工 ( 表 層 工 )	厚 さ	-7	-7	$\bar{X}_3$	-1						
					$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-2						
					$\bar{X}_7 \sim$	-3						
		-25	$\bar{X}_3 \sim$	-10								
				幅	-10							
						$\bar{X}_3$	-1					
平坦性	直読式(足付き) ( $\sigma$ ) 1.75 mm以下 3m プロファイルメーター ( $\sigma$ ) 2.4 mm以下	-10										

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値	測定値の平均 $\bar{X}_n$				
								中規模以上	小規模以下			
3	1	6	12	1	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基準高	±30	$\bar{X}_3 \sim$	±15	基準高、幅は延長40m毎に1ヶ所の割とし、基準高は道路中心線及びその端部で測定。厚さは2,000 m <sup>2</sup> までは3個とし、2,000 m <sup>2</sup> を超える場合は1,000 m <sup>2</sup> 毎に1個加算し、掘起して測定。  幅は延長40m毎に1ヶ所の割とし、厚さは2,000 m <sup>2</sup> までは3個とし、2,000 m <sup>2</sup> を超える場合は1,000 m <sup>2</sup> 毎に1個加算し、掘起して測定。	※工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事:施工面積2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模工事:施工面積2,000 m <sup>2</sup> 未満とする。なお、施工面積300 m <sup>2</sup> 未満においては厚さ管理を掘り起こし及びコア一以外の方法(水糸による管理)ができる。  コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						厚さ	-45	$\bar{X}_3$	-6			
						幅	-50	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10			
								$\bar{X}_7 \sim$	-15			
								$\bar{X}_3 \sim$	-20			
								$\bar{X}_3$	-5			
								$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6			
								$\bar{X}_7 \sim$	-8			
								$\bar{X}_3 \sim$	-20			
								厚さ	-25			-30
								幅	-50			
						3	1	6	12			3
厚さ	-45	$\bar{X}_3$	-6									
幅	-50	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10									
		$\bar{X}_7 \sim$	-15									
		$\bar{X}_3 \sim$	-20									
		$\bar{X}_3$	-5									
		$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6									
		$\bar{X}_7 \sim$	-8									
		$\bar{X}_3 \sim$	-20									
		厚さ	-25	-30								
		幅	-50									
3	1	6	12	4	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層)					基準高	±30	
						厚さ	-45	$\bar{X}_3$	-6			
						幅	-50	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10			
								$\bar{X}_7 \sim$	-15			
								$\bar{X}_3 \sim$	-20			
								$\bar{X}_3$	-5			
								$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6			
								$\bar{X}_7 \sim$	-8			
								$\bar{X}_3 \sim$	-20			
								厚さ	-9	-12		
								幅	-25	-10		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要																		
							個々の測定値 中規模以上 小規模以下	測定値の平均 $\bar{X}_n$																						
3	1	6	12	5	コンクリート舗装工 (コンクリート舗 装版工)	厚  さ	-10	$\bar{X}_3$	-2.5	厚さは、各車線の中心付近で型 枠据付後各車線 100 m 毎に水 糸又はレベルにより 1 測点当た り横断方向に 3 ケ所以上測定。 幅は、延長 40m 毎に 1 ケ所の割 りで測定。平坦性は、各車線毎に版 縁から 1 m の線上、全延長とす る。なお、スリップフォーム工法 の場合は、厚さ管理に関し、打設 前に各車線の中心付近で各車線 200m 毎に水糸又はレベルによ り 1 測線当たり横断方向に 3 ケ 所以上路盤の基準高を測定し、 測定打設後に各車線 200m 毎に 両側の版端を測定する。	※工事規模の考え方 (舗装工関係 共通) 中規模工事：施工面積 2,000 m <sup>2</sup> 以 上とする。 小規模工事：施工面積 2,000 m <sup>2</sup> 未 満とする。なお、施工面積 300 m <sup>2</sup> 未満においては厚さ管理を掘 り起こし及びコアー以外の方法 (水糸による管理) ができる。 平坦性について ・カーブの多い山間地及び測定 線の全線→一測線が 100m 未満 の場合は省略することができる。 ・測定方法、測定箇所について は、舗装試験法便覧による																			
								$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-3.0																					
								$\bar{X}_7 \sim$	-3.5																					
								$\bar{X}_3 \sim$	-10																					
								平坦性	—				コンクリートの 硬化後 3m プロファイル ーターにより機 械舗設の場合 ( $\sigma$ ) 2.4 mm 以下 人力舗設の場合 ( $\sigma$ ) 3 mm 以下	$\pm 2$	隣接する各目地に対して、道路 中心線及び端部で測定。	※工事規模の考え方 (舗装工関係 共通) 中規模工事：施工面積 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模工事：施工面積 2,000 m <sup>2</sup> 未満とする。なお、施工面積 300 m <sup>2</sup> 未満においては厚さ管理を掘 り起こし及びコアー以外の方法 →水糸による管理ができる。  コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により 床版等に損傷を与える恐れのある 場合は、他の方法によること が出来る。														
																	日地段差	—	—	$\pm 2$	隣接する各目地に対して、道路 中心線及び端部で測定。									
																						基準高	$\pm 30$	$\bar{X}_3 \sim$	$\pm 15$	基準高、幅は延長 40m 毎に 1 ケ 所の割とし、基準高は道路中心 線及びその端部で測定。 厚さは 2,000 m <sup>2</sup> までは 3 個とし、 2,000 m <sup>2</sup> を超える場合は 1,000 m <sup>2</sup> 毎に 1 個加算し、掘り起こして測 定。  幅は延長 40m 毎に 1 ケ所の割と し、厚さは 2,000 m <sup>2</sup> までは 3 個 とし、2,000 m <sup>2</sup> を超える場合は 1,000 m <sup>2</sup> 毎に 1 個加算し、掘り起 して測定。				
																								$\bar{X}_3$	-6					
																								$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10					
																								$\bar{X}_7 \sim$	-15					
																								$\bar{X}_3 \sim$	-20					
																								厚  さ	-45		—	—	—	
幅	-50	—	—	—																										
					厚  さ	-25	—			—	—																			
												$\bar{X}_3$																		-5
												$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$																		-6
								$\bar{X}_7 \sim$	-8																					
								幅	-50			—	—	—																
															$\bar{X}_3 \sim$	-20														

単位：mm

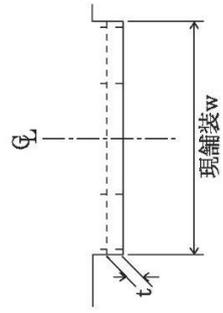
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
							個々の測定値 中規模以上 / 小規模以下	測定値の平均 $\bar{X}$					
3	1	6	12	8	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) セメント(石灰・瀝青)安定処理工	厚  さ	-25	-30	$\bar{X}_3$	-5	幅は延長 40m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは 2,000 m <sup>2</sup> までは 3個とし、2,000 m <sup>2</sup> を超える場合は 1,000 m <sup>2</sup> 毎に 1個加算し、掘起しもしくはコア一により測定。	工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模工事：施工面積 2,000 m <sup>2</sup> 未満とする。なお、施工面積 300 m <sup>2</sup> 未満においては厚さ管理を掘り起こし及びコア一以外の方法→水糸による管理ができる。 コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 平坦性について ・カーブの多い山間地、及び測定線の全線→測定線が 100m 未満の場合は省略することが出来る。 ・測定方法、測定箇所については、舗装試験法便覧による。	
									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6			
									$\bar{X}_7 \sim$	-8			
									$\bar{X}_3 \sim$	-20			
						9	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	厚  さ	-9	-12	$\bar{X}_3$	-1	幅は延長 40m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは 2,000 m <sup>2</sup> までは 3個とし、2,000 m <sup>2</sup> を超える場合は 1,000 m <sup>2</sup> 毎に 1個加算し、コア一を採取して測定
											$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-2	
											$\bar{X}_7 \sim$	-3	
											$\bar{X}_3 \sim$	-10	
						10	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	厚  さ	-15	-15	$\bar{X}_3$	-3	厚さは、各車線の中心付近で型枠据付後各車線 100 m 毎に水糸又はレベルにより 1 測点当たり横断方向に 3ヶ所以上測定。幅は、延長 40m 毎に 1ヶ所の割で測定。平坦性は、各車線毎に版縁から 1 m の線上、全延長とする。
											$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-4	
											$\bar{X}_7 \sim$	-5	
											$\bar{X}_3 \sim$	-10	
					平坦性	-	転圧コンクリートの硬化後、3m プロファイルメーターにより ( $\sigma$ ) 2.4 mm 以下	隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。					
									±2				

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要			
							個々の測定値		測定値の平均 $\bar{X}_n$						
							中規模以上	小規模以下							
3	1	6	13	1	薄層カララー舗装工 (下層路盤工)	基準高	±30	$\bar{X}_3 \sim$	±15	基準高、幅は延長40m毎に1ヶ所の割とし、基準高は道路中心線及びその端部で測定。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡毎に1個加算し、掘起して測定。	※工事規模の考え方（舗装工関係共通） 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコア一以外の方法（水糸による管理）ができる。				
							-45	$\bar{X}_3 \sim$	-6				厚さ		
														$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10
							-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20				幅		
														$\bar{X}_3$	-5
				$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6										
				-25	$\bar{X}_7 \sim$	-8	厚さ								
								$\bar{X}_3 \sim$	-20						
										$\bar{X}_3$	-5				
				-30	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6	幅								
								$\bar{X}_7 \sim$	-8						
$\bar{X}_3 \sim$	-20														
2	薄層カララー舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ	-25	$\bar{X}_3 \sim$	-5	幅は延長40m毎に1ヶ所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡毎に1個加算し、掘起して測定。	※工事規模の考え方（舗装工関係共通） 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコア一以外の方法（水糸による管理）ができる。								
									-30	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6				
												$\bar{X}_7 \sim$	-8		
			-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20				幅						
										$\bar{X}_3$	-5				
												$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6		
-25	$\bar{X}_7 \sim$	-8	厚さ												
				$\bar{X}_3 \sim$	-20										
						$\bar{X}_3$	-5								
-30	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6	幅												
				$\bar{X}_7 \sim$	-8										
						$\bar{X}_3 \sim$	-20								
3	薄層カララー舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚さ	-25	$\bar{X}_3 \sim$	-5	幅は延長40m毎に1ヶ所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡毎に1個加算し、掘起しもしくはコア一により測定。	※工事規模の考え方（舗装工関係共通） 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコア一以外の方法（水糸による管理）ができる。								
									-30	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6				
												$\bar{X}_7 \sim$	-8		
			-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20				幅						
										$\bar{X}_3$	-3				
												$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-4		
-15	$\bar{X}_7 \sim$	-5	厚さ												
				$\bar{X}_3 \sim$	-20										
						$\bar{X}_3$	-3								
-50	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-20	幅												
				$\bar{X}_7 \sim$	-5										
						$\bar{X}_3 \sim$	-20								
4	薄層カララー舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚さ	-15	$\bar{X}_3 \sim$	-3	幅は延長40m毎に1ヶ所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡毎に1個加算し、コア一を採取して測定。	※工事規模の考え方（舗装工関係共通） 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコア一以外の方法（水糸による管理）ができる。 コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。								
									-20	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-4				
												$\bar{X}_7 \sim$	-5		
			-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20				幅						
										$\bar{X}_3$	-3				
												$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-4		
-15	$\bar{X}_7 \sim$	-5	厚さ												
				$\bar{X}_3 \sim$	-20										
						$\bar{X}_3$	-3								
-50	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-20	幅												
				$\bar{X}_7 \sim$	-5										
						$\bar{X}_3 \sim$	-20								

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
							個々の測定値		測定値の平均 $\bar{X}_n$				
							中規模以上	小規模以下					
3	1	6	13	5	薄層カラー舗装工 ( 基 層 工 )	厚  さ			$\bar{X}_3$	幅は延長 40m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは 2,000 m <sup>2</sup> までは 3個とし、2,000 m <sup>2</sup> を超える場合は 1,000 m <sup>2</sup> 毎に 1 個加算し、コアを採取して測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。		
								-9	-12			-1	
												$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-2
												$\bar{X}_7 \sim$	-3
									-25			$\bar{X}_3 \sim$	-10
		14	1	1	ブロック舗装工 ( 下 層 路 盤 工 )	基 準 高			$\bar{X}_3 \sim$	基準高、幅は延長 40m 毎に 1ヶ所の割とし、基準高は道路中心線及びその端部で測定。厚さは 2,000 m <sup>2</sup> までは 3個とし、2,000 m <sup>2</sup> を超える場合は 1,000 m <sup>2</sup> 毎に 1 個加算し、掘起して測定。	※工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模工事：施工面積 2,000 m <sup>2</sup> 未満とする。なお、施工面積 300 m <sup>2</sup> 未満においては厚さ管理を掘り起こし及びコア一以外の方法(水糸による管理)ができる。		
							±30		±15				
									$\bar{X}_3$			-6	
								-45	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$			-10	
									$\bar{X}_7 \sim$			-15	
									$\bar{X}_3 \sim$			-20	
	2	1	2	ブロック舗装工 ( 上 層 路 盤 工 ) 粒度調整路盤工	厚  さ			$\bar{X}_3$	幅は延長 40m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは 2,000 m <sup>2</sup> までは 3個とし、2,000 m <sup>2</sup> を超える場合は 1,000 m <sup>2</sup> 毎に 1 個加算し、掘起して測定。				
								-5					
						-25	-30	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$			-6		
								$\bar{X}_7 \sim$			-8		
							-50	$\bar{X}_3 \sim$			-20		
	3	6	14	3	ブロック舗装工 ( 上 層 路 盤 工 ) セメント(石灰)安定処理工	厚  さ		$\bar{X}_3$	幅は延長 40m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは 2,000 m <sup>2</sup> までは 3個とし、2,000 m <sup>2</sup> を超える場合は 1,000 m <sup>2</sup> 毎に 1 個加算し、掘起しもしくはコア一により測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。			
											-5		
							-25	-30			$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6	
											$\bar{X}_7 \sim$	-8	
								-50			$\bar{X}_3 \sim$	-20	

単位：mm

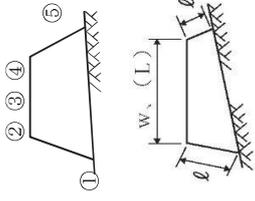
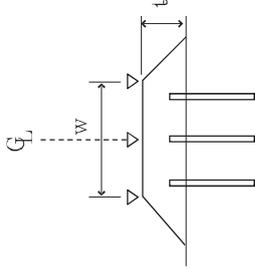
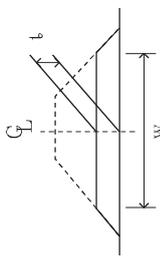
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
							個々の測定値		測定値の平均 $\bar{X}_n$				
							中規模以上	小規模以下					
3	1	6	14	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚さ			$\bar{X}_3$	幅は延長40m毎に1ヶ所の割合とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡毎に1個加算し、コアーを採取して測定。	※工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事:施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事:施工面積2,000㎡未満とする。なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘り起こし及びコアー以外の方法(水系による管理)ができる。  コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。		
							-15	-20	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$				-4
							-50		$\bar{X}_7 \sim$				-5
						幅		$\bar{X}_3 \sim$	-20				
						厚さ	-9	-12	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-2			
						幅	-25		$\bar{X}_3 \sim$	-10			
						厚さt	-7		-2				
						幅W	-25		-				
			15		路面切削工								



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要				
3	1	7	2		路床安定処理工	基準高	±50	施工延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。						
						施工厚さ	-50							
			幅			-100								
			延長			-200								
			3			置換工	基準高				±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合）は50m）につき1ヶ所。延長40m（50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 厚さは中心線及び端部で測定。		
			置換厚さ				-50							
			幅				-100							
			延長				-200							

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
3	1	7	4		表層安定処理工 (サンドマット海上)	基準高	特記仕様書に明示	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。			
						法長	-500				
						天端幅	W				-300
						天端延長	L				-500
						基準高	▽				±50
						厚さ	t				-50
			5		パイラルネット工	幅	W	-100		施工延長40m (測点間隔25mの場合)は50m)につき1ヶ所。 厚さは中心線及び両端で掘起して測定。 杭については、当該杭の項目に準ずる。	
						延長	L	-200			
						施工厚さ	t	-50			
						幅	W	-100			
						延長	L	-200			
6		サンドマット工	施工厚さ	t	-50		施工延長40m (測点間隔25mの場合)は50m)につき1ヶ所。 厚さは中心線及び両端で掘起して測定。				
			幅	W	-100						
			延長	L	-200						

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	1	7	7		バーチカルドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工)	位置・間隔 W	±100	100本に1ヶ所。100本以下は2ヶ所測定。1ヶ所に4本測定。ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とする 全本数		
						杭 径 D	設計値以上			
3	1	7	8		締 固 め 改 良 工 (サンドコンパクションパイル工)	打 込 長 さ h	設計値以上	全本数 計器管理にかえることができる。		
						位置・間隔 W	設計値以上			
3	1	9	9	1	固 結 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	基 準 高 $\nabla$	-50	100本に1ヶ所。 100本以下は2ヶ所測定。 1ヶ所に4本測定。		
						位置・間隔 W	D/4以内			
						杭 径 D	設計値以上	全本数 L = $\ell_1 - \ell_2$ $\ell_1$ は改良体先端深度 $\ell_2$ は改良体天端深度		
						深 度 L	設計値以上			

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	1	7	9	2	固 結 工 (中層混合処理)	基 準 高 $\nabla$ 施 工 厚 さ $t$ 幅 $W$ 延 長 $L$	設計値以上 設計値以上 設計値以上 設計値以上	1,000m <sup>3</sup> ~4,000m <sup>3</sup> につき1箇所、 または施工延長40m(測点間隔25 mの場合は50m)につき1箇所 1,000m <sup>3</sup> 以下、または施工延長40 m(50m)以下のものは1施工箇所 につき2箇所 施工厚さは施工時の改良深度確認を 出来形とする。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	1	1	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭板) (鋼矢板)	基準高	±50	基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所。延長40m(又は50m)以下のものは、1施工箇所につき2ヶ所。(任意仮設は除く)		
						根入	設計値以上			
						長さ				
2					土留・仮締切工 (アーカー工)	削孔深さ	設計深さ以上	全数 (任意仮設は除く)		
						配置誤差	100			
3					土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法	-100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎		
						延長	-200			
4					土留・仮締切工 (締切盛土)	基準高	-50	施工延長50mにつき1ヶ所。延長50m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 (任意仮設は除く)		
						天端幅	-100			
						長さ	-100			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	1	一般施工	土木工事共通編		土留・仮締切工 (中詰盛土)	基準高▽	-50	施工延長50mにつき1ヶ所。 延長50m以下のもは、1施工箇所につき2ヶ所。(任意仮設は除く)		
						基準高▽	±50	基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所。 延長40m(又は50m)以下のものについては1施工箇所につき2ヶ所。 変位は施工延長20m(測点間隔25mの場合は25m)につき1ヶ所。延長20m(又は25m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
						連壁の長さ $l$	-50			
						変位	300			
						壁体長L	-200			
						基準高▽	±50	基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所。 延長40m(又は50m)以下のものについては1施工箇所につき2ヶ所。 変位は施工延長20m(測点間隔25mの場合は25m)につき1ヶ所。延長20m(又は25m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
						連壁の長さ $l$	-50			
						変位	D/4以内			
						壁体長L	-200			

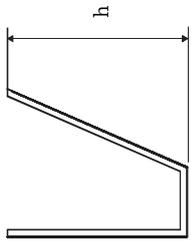
単位：mm

章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要				
3	1	12	1	工 造 費 支 承 工 ) 鋳 ( 金 属	上部構造物との接合用ボルト孔	孔の直径差 +2 -0 ボスの突起を基準とした 孔の位置ずれ 中心距離 ≤1000mm 1.0以下 ボスの突起を基準とした 孔の位置ずれ >1000mm 1.5以下 ドリル加工孔 ≤100mm +3 -1 >100mm +4 -2 孔の中心距離 ※1 JIS B 0403-1995 CT13 ボスの直径 +0 -1 ボスの高さ +1 -0 ボスの直径 +0 -1 ボスの高さ +1 -1	製品全数を測定。 ※1) ガス切断寸法を準用する。 ※2) 片面の削り加工の場合も含む。 ※3) ソールプレートとの接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4) 全移動量分の遊間が確保されているのかを要する。 ※5) 組立て後に測定 詳細は道路橋支承便覧参照						
					アンカーボルト用孔 (鑄放し)								
					センターボス								
					ボス								
					※								
					5								

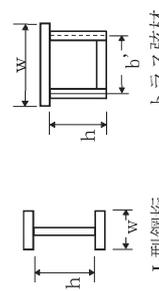
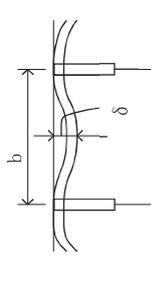
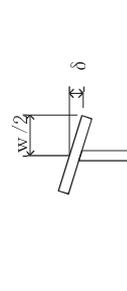
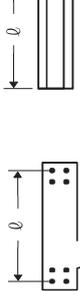
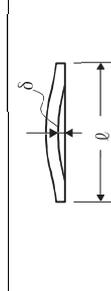
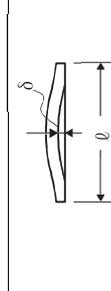
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	1	12	1	1	費 造 支 承 工 ) ( 金 属 工 )	上 各 の 橋 軸 及 び 直 角 方 向 の 長 さ 寸 法	JIS B 0403-1995 CT13	製品全数を測定。 ※1) ガス切断寸法を準用する。 ※2) 片面の削り加工の場合も含む。 ※3) ソールプレートの接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4) 全移動量の遊間が確保されているのかを要する。 ※5) 組立て後に測定 詳細は道路橋支承便覧参照		
							$\phi \leq 300\text{mm}$			
						$\phi > 300\text{mm}$	± $\phi/100$			
						上、下面加工仕上げ コンクリート構造用	±3			
							±3			
						組立高さ H	$H \leq 300\text{mm}$	(H/200+3) 小数点以下切り捨て		
							$H > 300\text{mm}$			
						普通寸法	鑄放し長さ寸法 ※2) ※3)	JIS B 0403-1995 CT14		
							鑄放し肉厚寸法 ※2)	JIS B 0403-1995 CT15		
							削り加工寸法	JIS B 0405-1991 粗級		
							ガス切断寸法	JIS B 0417-1979 B級		
						費 造 支 承 工 ) ( 大 型 ゴ ム 工 )	幅W 長さL 直径D	$W, L, D \leq 500$		
$500 < W, L, D \leq 1500\text{mm}$	0~+1%									
$1500 < w, L, D$	0~+15									
$t \leq 20\text{mm}$	±0.5									
$20 < t \leq 160$	±2.5%									
厚さ t	$160 < t$	±4								
	$W, L, D \leq 1000\text{mm}$	1								
相対誤差	$1000\text{mm} < W, L, D$	(W,L,D)/1000								

単位：mm

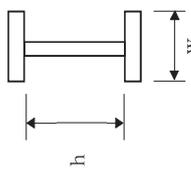
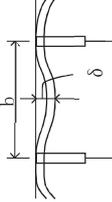
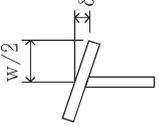
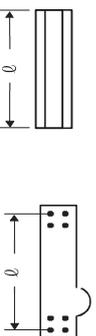
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	1	12	1	3	仮設材製作工	部材	$\phi \leq 10$	図面の寸法表示箇所で測定。		
						部材長 $\phi$ (m)	$\phi > 10$			
				4	刃口金物製作工	刃口高さ h (m)	$h \leq 0.5$	図面の寸法表示箇所で測定。		
							$0.5 < h \leq 1.0$			
					外周長 L (m)	$\pm (10+L/10)$				

単位：mm

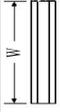
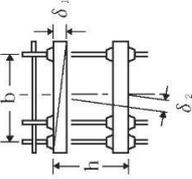
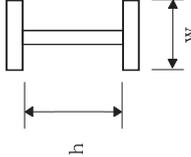
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
							W ≤ 0.5	±2	鋼桁等	トラス・アーチ等		
3	1	12	3	1	製作 (仮組立による検査を実施する場合) ※シミュレーション 仮組立検査を行う場合	フランジ幅 W (mm) 腹板高 h (mm) 腹板間隔 b' (mm)	W ≤ 0.5	±2	主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組などに 構造別に、5部材につき1個抜き 取った部材の中央付近を測定。 なお、JISマーク表示品を使用 する場合は、製造工場の発行す るJISに基づき試験成績表に替 えることができる。	トラス・アーチ等	 I型鋼桁 トラス弦材	
							0.5 < W ≤ 1.0	±3				
							1.0 < W ≤ 2.0	±4				
							2.0 < W	± (3 + W / 2)				
						部 材	板の平面度 δ (mm)	h / 250	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h : 腹板高 (mm) b : 腹板又はリップの間隔 (mm) w : フランジ幅 (mm)	鋼桁等		
								b / 150				
						精 度	フランジの直角度 δ (mm)	w / 200	原則として仮組立をしない状態の部材について主要部材全数を測定。	鋼		
						材 長	部材長 ℓ (m)	ℓ ≤ 10	±3	主要部材全数を測定。 ℓ : 部材長		
								ℓ > 10	±4			
部 材	トラス・アーチなど	ℓ ≤ 10	±2	主要部材全数を測定。 ℓ : 部材長								
		ℓ > 10	±3									
材 長	圧縮材の曲り δ (mm)	ℓ / 1000	※ 規格値のwに対する数値はm単位の数値である。 ただし「版の平面度 δ、フランジ直角度 δ、圧縮材の曲り δ」の規格値のh, b, wに代入する数値はmm単位の数値とする。	—								

編	章	節	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要					
							鋼桁等	トラス・アーチ等							
3	1	12	1	工 場 製 作 (仮組立による検査 を実施する場合) ※シミュレーション 仮組立検査を行う場 合	全長 L (m) 支間長 Ln (m)	$\pm (10+L/10)$ $\pm (10+Ln/10)$	各桁毎に全数を測定。		単径間の場合 多径間の場合 						
					主桁、主構の中心間距離 B(m)	$B \leq 2$ $B > 2$	$\pm 4$ $\pm (3+B/2)$	各支点及び各支間中央付近を測定。							
					主構の組立高さ h (m)	$h \leq 5$ $h > 5$	$\pm 5$ $\pm (2.5+h/2)$	— 両端部及び中心部を測定。							
					主桁、主構の通り $\delta$ (mm)	$L \leq 100$ $L > 100$	$5+L/5$ 25	最も外側の主桁又は主構について 支点及び支間中央のL点を測定。 L：測線上 (m)							
					主桁、主構のそり $\delta$ (mm)	$L \leq 20$ $20 < L \leq 40$ $40 < L \leq 80$ $80 < L \leq 200$	$-5 \sim +5$ $-5 \sim +10$ $-5 \sim +15$ $-5 \sim +25$	各主桁について 10～12m間 隔を測定。 L：主桁の支 間長 (m)							
					主桁、主構の橋 端における出入差 $\delta$ (mm)	$\pm 10$	— どちらか一方の主桁 (主構) 端を測定。								
					主桁、主構の鉛直度 $\delta$ (mm)	$3+h/1,000$	各主桁の両端を 支点及び支間中央 付近を測定。 h：主桁の高さ (mm)								
					現場継手部の隙間 $\delta_1, \delta_2$ (mm)	$\pm 5$	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 $\delta_1, \delta_2$ のうち大きいものを なお、設計値が5mm未満の場合は、 すき間の許容範囲の下限値を0mmと する。(例：設計値が3mmの場合、 すき間の許容範囲は0mm～8mm)								
					※ 規格値のL, B, hに代入する数値はm単位の数値とする。ただし「主桁、主構の鉛直度 $\delta$ 」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。										

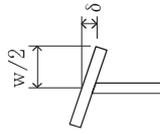
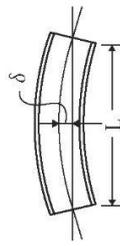
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	1	12	3	2	桁 (仮組立検査を実施 しない場合)	フランジ幅W (m) 腹板高h (m)	$W \leq 0.5$ $0.5 < W \leq 1.0$ $1.0 < W \leq 2.0$ $2.0 < W$	主桁、主構 各支点及び各支間中央付近を測 定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き 取った部材の中央付近を測定。	 I型鋼桁	
						部 材 精 度	$h/250$ $b/150$ $W/200$	主桁 各支点及び各支間中央付近を測 定。 h：腹板高 (mm) b：腹板又はリップの間隔 (mm) W：フランジ幅 (mm)	 	
						鋼桁等の部材 の腹板 鋼桁等のフラ ンジ鋼床版の デジット フランジの直角度 $\delta$ (mm) 部 材 長 $l$ (m)	$0 \leq 10$ $0 > 10$	主要部材全数を測定。 $\pm 3$ $\pm 4$		
※ 規格値のwに代入する数値はmm単位の数値である。 ただし「板の平面度 $\delta$ 、フランジ直角度 $\delta$ 」の規格値のh、b、wに代入する数値はmm単位の数値とする。										

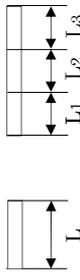
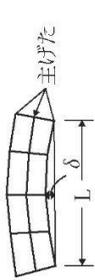
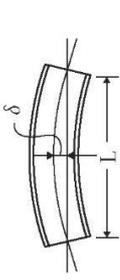
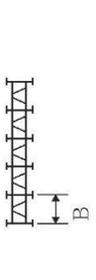
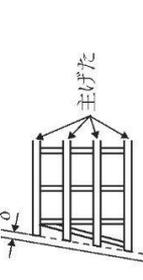
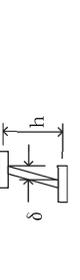
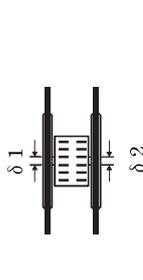
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	1	12	4		検査路製作工	部材長 $\ell$ (m)	$\ell \leq 10$ ±3	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						$\ell > 10$ ±4				
			5		鋼製伸縮継手製作工	部材長W(m)	0～+30	製品全数を測定。		
						仮組立時 組合せる伸縮装置との高さの差 $\delta_1$ (mm)	設計値±4			
						フィンガーの食い違い $\delta_2$ (mm)	±2			
			6		落橋防止装置製作工	部材長 $\ell$ (m)	$\ell \leq 10$ ±3	図面の寸法表示箇所にて測定		
						$\ell > 10$ ±4				
			7		橋梁用防護柵製作工	部材長 $\ell$ (m)	$\ell \leq 10$ ±3	図面の寸法表示箇所にて測定		
						$\ell > 10$ ±4				
8		アンカーフレーム製作工	仮組立時	上面水平度 $\delta_1$ (mm)	b/500	軸芯上全数測定。				
				鉛直度 $\delta_2$ (mm)	h/500					
				高さ h (mm)	±5					
				フランジ幅 w (m)	±3					
9		プレベーム用桁製作工	部材	腹板高 h (m)	$W \leq 0.5$ ±2	各支点及び各支間中央付近を測定。				
				フランジ幅 w (m)	$0.5 < W \leq 1.0$ ±3					
				腹板高 h (m)	$1.0 < W \leq 2.0$ ±4					
										次ページに続く

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	1	12	9		プレビーム用桁製作工	フランジの直角度 $\delta$ (mm)	$w/200$	各支点及び各支間中央付近を測定。		
						部 材 長 $l$ (m)	$l \leq 10$ $l > 10$	原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。		
						主桁のそり $\delta$	$L \leq 20$ $20 < L \leq 40$	各主桁について10～12m間隔を測定。		
10					鋼製排水管製作工	部材長 $l$ (m)	$l \leq 10$ $l > 10$	図面の寸法表示箇所を測定。		
					工 場 塗 装 工	塗 膜 厚	a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは500㎡とする。 1ロット当たり測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。 ただし、1ロットの面積が200㎡に満たない場合は10㎡ごとに1点とする。		

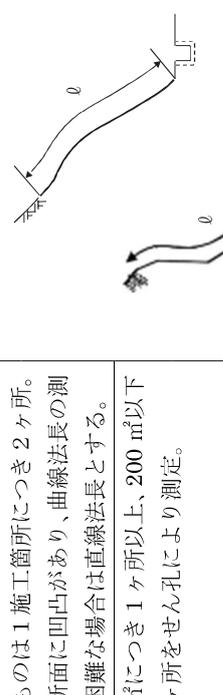
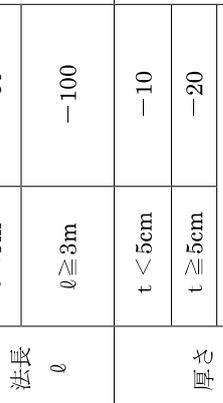
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	1	13	3		架設工（鋼橋） （ケーブルクレーン架設） （ケーブルクレーン架設） （ケーブルクレーン架設） （架設出し架設） （トラバラークレーン架設）	全長 L (m)	$\pm (20+L/5)$	各桁毎に全数測定。	単径間の場合 	
						支間長 Ln (m)	$\pm (20+Ln/5)$		多径間の場合	
						通り $\delta$ (mm)	$\pm (10+2L/5)$	L：主桁・主構の支間長 (m)		
						そり $\delta$ (mm)	$\pm (25+L/2)$	主桁、主構を全数測定。 L：主桁・主構の支間長 (m)		
						※主桁、主構の中心間距離 B(m)	$B \leq 2$ $\pm 4$ $B > 2$ $\pm (8+B/2)$			
						※主桁の橋端における出入差 $\delta$ (mm)	$\pm 10$	どちらか一方の主桁（主構）端を測定。		
						※主桁、主構の鉛直度 $\delta$ (mm)	$3+h/1,000$	各主桁の両端部を測定。 h：主桁・主構の高さ (mm)		
						※現場継手部のすき間 $\delta_1$ 、 $\delta_2$ (mm)	$\pm 5$	主桁、主構の全継手数のL/2を測定。 $\delta_1$ 、 $\delta_2$ のうち大きいものなお、設計値が5mm未満の場合は、すき間の許容範囲の下限値を0mmとする。（例：設計値が3mmの場合、すき間の許容範囲は0mm～8mm）		
								※は仮組立検査を実施しない工事に適用。		
<p>※規格値のL、Bに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「主桁、主構の鉛直度<math>\delta</math>」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。</p>										

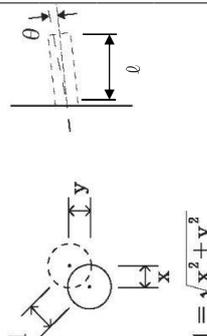
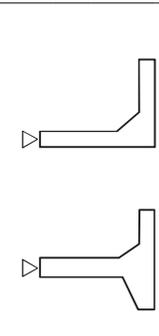
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要																		
3	1	13	橋 梁 架 設 工		架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (架設桁架設工) (架設工支保工) (固定架設) (移動架設) (架設桁架設) (片出し架設) (押し出し架設)	全 長・支 間	—	各桁毎に全数測定。 1連毎の両端及び支間中央について 各上下間を測定。 主桁を全数測定。																				
						桁の中心間距離	—																					
						そ り	—																					
							1	14	法 面 工 共 通	1	植 生 工 (種子散布工) (張 芝 工) (筋 芝 工) (市 松 芝 工) (植生シート工) (植生マット工) (植 生 筋 工) (人 工 張 芝 工) (植 生 穴 工)	切土 法長 $\phi$	$\phi < 5m$	—200	施工延長 40m (測点間隔 25m の場 合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇 所につき 2ヶ所。													
												$\phi \geq 5m$	法長の—4%															
												盛土 法長 $\phi$	$\phi < 5m$	—100														
												$\phi \geq 5m$	法長の—2%															
													2			2	植 生 工 (植生基材吹付工) (客土吹付工)	延長 L	L < 10m	—20	1 施工箇所毎。							
																		L ≥ 10m L < 100m	—50									
																		L ≥ 100m	—100									
																		法長 $\phi$	$\phi < 5m$	—200								
																								$\phi \geq 5m$	法長の—4%	施工面積 200㎡につき 1ヶ所、面積 200㎡以下のものは、1 施工箇所に つき 2ヶ所。 検査孔により測定。		
																								厚さ t	t < 5cm			—10
																								t ≥ 5cm	—20			
ただし、吹付面に凹凸があ る場合の最小吹付厚は、設 計厚の 50%以上とし、平 均厚は設計厚以上。	L < 10m	—20																										
																								延長 L	L ≥ 10m L < 100m	—50	1 施工箇所毎。	
																								L ≥ 100m	—100			
						法長 $\phi$	$\phi < 5m$	—200																				
																								$\phi \geq 5m$	法長の—4%	施工面積 200㎡につき 1ヶ所、面積 200㎡以下のものは、1 施工箇所に つき 2ヶ所。 検査孔により測定。		
																								厚さ t	t < 5cm			—10
																								t ≥ 5cm	—20			
												ただし、吹付面に凹凸があ る場合の最小吹付厚は、設 計厚の 50%以上とし、平 均厚は設計厚以上。	L < 10m	—20														
																								延長 L	L ≥ 10m L < 100m	—50	1 施工箇所毎。	
																								L ≥ 100m	—100			
																								法長 $\phi$	$\phi < 5m$	—200		
																								$\phi \geq 5m$	法長の—4%	施工面積 200㎡につき 1ヶ所、面積 200㎡以下のものは、1 施工箇所に つき 2ヶ所。 検査孔により測定。		
																								厚さ t	t < 5cm			—10
																								t ≥ 5cm	—20			
																								ただし、吹付面に凹凸があ る場合の最小吹付厚は、設 計厚の 50%以上とし、平 均厚は設計厚以上。	L < 10m			—20
																								延長 L	L ≥ 10m L < 100m	—50	1 施工箇所毎。	
																								L ≥ 100m	—100			
																								法長 $\phi$	$\phi < 5m$	—200		
																								$\phi \geq 5m$	法長の—4%	施工面積 200㎡につき 1ヶ所、面積 200㎡以下のものは、1 施工箇所に つき 2ヶ所。 検査孔により測定。		
																								厚さ t	t < 5cm			—10
																								t ≥ 5cm	—20			
																								ただし、吹付面に凹凸があ る場合の最小吹付厚は、設 計厚の 50%以上とし、平 均厚は設計厚以上。	L < 10m			—20

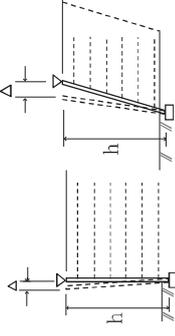
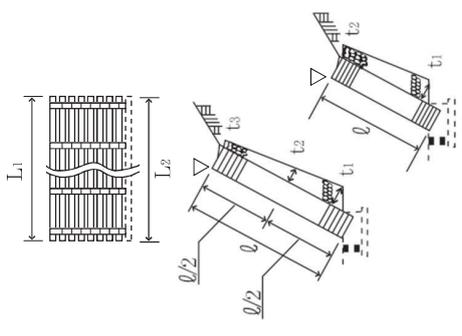
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要					
3	1	14	3		吹 付 工 (コンクリート) (モルタル)	法長 $\ell$	$\ell < 3m$	-50		<p>施工延長 40m につき 1 ケ所、40m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ケ所。測定断面に凹凸があり、曲線法長の測定が困難な場合は直線法長とする。</p> <p>200 m<sup>2</sup> につき 1 ケ所以上、200 m<sup>2</sup> 以下は 2 ケ所をせん孔により測定。</p>					
							$\ell \geq 3m$	-100							
						厚さ $t$	$t < 5cm$	-10							
							$t \geq 5cm$	-20							
						ただし、吹付面に凹凸のある場合の最小吹付厚は、設計厚の 50% 以上とし、平均厚は設計厚以上。									
						延長 $L$	$L < 10m$	-20							
					$L \geq 10m$		-50								
					4	1	4	1	法 枠 工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法長 $\ell$	$\ell < 10m$	-100	1 施工箇所毎。		<p>曲線部は設計図書による。</p>
											$\ell \geq 10m$	-200			
										幅 高 吹付枠中心間隔 $a$	$w$	-30			
											$h$	-30			
										延長	$L < 10m$	-20			
$L \geq 10m$	-50														
延長	$L < 100m$	-100													
	$L \geq 100m$	-100													
2	2	法 枠 工 (プレキャスト法枠工)	2	法長						$L < 10m$	-100	1 施工箇所毎。	<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 ケ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ケ所。</p>		
										$L \geq 10m$	-200				
										延長	$L < 10m$			-20	
											$L \geq 10m$			-50	
					延長	$L < 100m$	-100								
						$L \geq 100m$	-100								

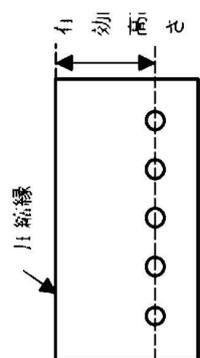
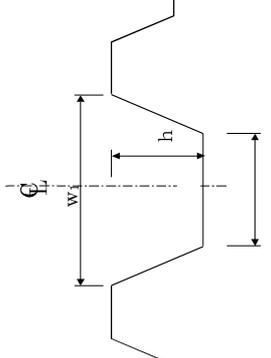
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	土 木 工 事 共 通 編	1 一 般 施 工	6		ア ン カ ー 工	削 孔 深 さ $\theta$	設計値以上	全数(任意仮設は除く)		
						配 置 誤 差 d	100			
						せ ん 孔 方 向 $\theta$	±2.5度			
						基 準 高 $\nabla$	±50			
						厚 さ t	-20			
						裏 込 め 厚 さ	-50			
						幅 w1, w2	-30			
						高 さ	-50			
						延 長	-100			
						1	15 擁 壁 工			
2		プレキャスト擁壁工	2							

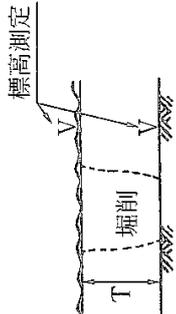
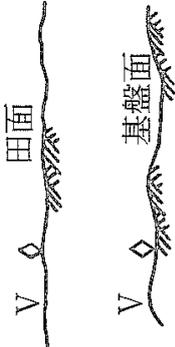
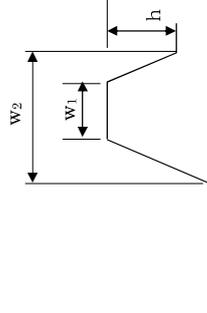
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要									
3	1	15	3		補強土壁工 (補強土(テールアル メ)壁工法) (多数アンカー式補強 土壁工法) (ジオテラススタイルを 用いた補強土壁工法)	基 準 高 ▽	±50	施工延長40m(又は50m)につき 1ヶ所、延長40m(又は50m)以 下のものは1施工箇所につき2ヶ 所。											
						高 度	-50												
						鉛 直 度 △	-100												
						控え長さ (補強材の設計長)	±0.03h かつ ±300 以内 設計値以上												
						延 長 L	L<10m				-20								
							L≥10m				-50								
							L<100m				-50								
							L≥100m				-100								
						4					井桁ブロック工	4		井桁ブロック工	基 準 高 ▽	±50	工延長40m(測点間隔25m)の場合 は50mにつき1ヶ所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2ヶ所。		
															法 長	-50			
厚 度	-100																		
勾 配	-50																		
勾 配 N	-0.5分																		
延 長 L1, L2	L<10m	-20																	
	L≥10m	-50																	
	L<100m	-50																	
	L≥100m	-100																	

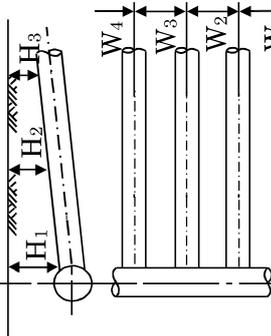
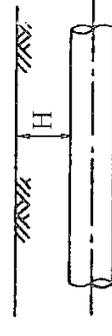
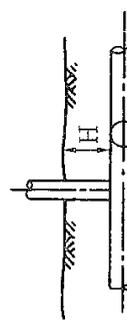
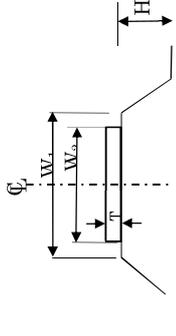
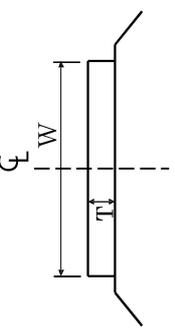
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要						
3	1	16	2		床 版 工	基 準 高	▽	±20	<p>基準高は、1径間当たり2ヶ所（支 点付近）で、1箇所当たり両端と 中央部の3点、幅は1径間当たり3 個所、厚さは型枠設置時におおむ ね10㎡に1ヶ所測定。 (床版の厚さは、型枠検査をもつ て代える。)</p>							
						幅	W	0～+30								
						厚  さ	t	-10～+20								
						鉄筋のかぶり		設計値以上	<p>1径間当たり3断面（両端及び中 央）測定。 1断面の測定箇所は断面変化毎1ヶ 所とする。</p>							
						鉄筋の有効高さ		±10								
						鉄筋間隔		±20	<p>1径間当たり3ヶ所（両端及び中 央）測定。 1箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋 は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加 工形状毎に2mの範囲を測定</p>							
						上記、鉄筋の有効高 さがマイナスの場 合		±10								
						19	水 路 復 旧 工	2		土 水 路 工	基 準 高	▽	±100	<p>工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき1ヶ所、延長40m （又は50m）以下のものは1施工 箇所につき2ヶ所。 基準高は指定した時。</p>		
											幅	W	-75			
											高  さ	h	-75			
施工延長	200m以上	-0.2%	1 施工箇所毎													
	200m未満	-400														

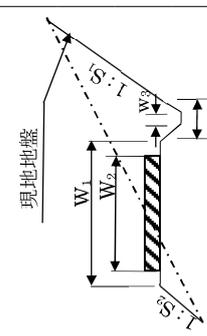
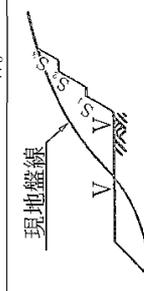
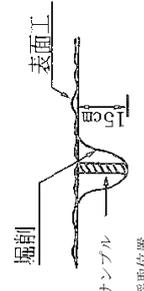
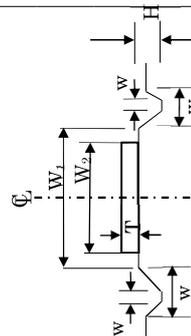
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
4	農地編	1	ほ場整備工	1	ほ場整備	各筆毎の面積 a	±5%	各筆毎の面積測定 及び全体面積測定		
					地整	全 体 面 積 A				
					地積					
					工積					
2	表土扱	い	表土扱	2	表土扱	厚 さ T	-20%	10a 当り 3 点以上 (標高差測定またはつぼ掘りによる。)		
					成地					
					地整					
					地積					
3	基盤土造成	成地	基盤土造成	3	基盤土造成	基 準 高 V	±150	10a 当り 3 点以上 (標高測定) 均平度は 1 筆の田面高低差で測定		
					均平度	◇	±50			
					均平度					
					均平度					
4	畦畔復旧	復旧	畦畔復旧	4	畦畔復旧	高 さ h	-50	施工延長おおむね 200m につき 1ヶ所の割合で測定する。施工延長を示さない場合は、1 耕区につき 1ヶ所の割合で測定する。		
					幅	W	-50			
					幅					
					幅					

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
4	1	3	4	1	暗 吸	布 設 深 H	-75	上下流の2ヶ所を測定する。 ただし、1本の布設長がおおむね100m以上のときは、中間点を加えた3ヶ所を測定する。		
					水 排	間 隔 W	±750			
					渠 水	500m以上	-0.2%			
					工 渠	500m未満	-1000			
					集 ( 支 線 )	布 設 深 H	-75	施工延長おおむね50mにつき1ヶ所の割合で測定。		
				導 ( 幹 線 )	500m以上	-0.2%				
						500m未満	-1000			
					畑地かんがい施設工	埋 設 深 H	-50	10a当り3ヶ所測定。		
					ス プ リ ン ク ラ ー					
					砂 利	高 さ H	±150	・幹線道路は施工延長50mにつき1ヶ所の割合で測定。 ・支線道路は施工延長おおむね200mに1ヶ所の割合で測定。		
					厚 さ T	-45				
						幅 W	-150			
						200m以上	-0.2%			
						200m未満	-400			
					砂 利 舗 装 工	幅 W	-150	施工延長おおむね50mにつき1ヶ所の割合で測定する。		
					厚 さ T	-45				
						50m以上	-0.2%			
						50m未満	-100			

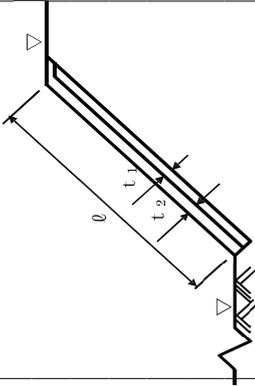
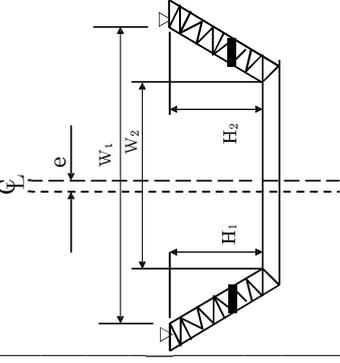
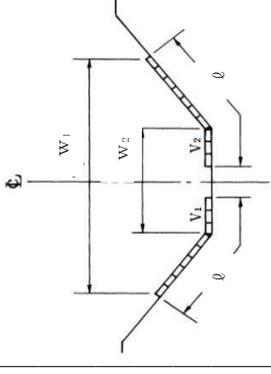
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
4	2	農地造成工	農地編	1	テ ( ラ 段 畑 ) ス	法 勾 配 S	+2分 -1分	テラス延長おおむね100m当たり 1ヶ所測定。 法勾配は指定した場合		
						幅 W1	-150			
						耕 起 幅 W2	-150			
						側 溝 幅 W3	-75			
				2	改 良 山 成	基 準 高 ▽	±300	基準高については切土部を40mメ ッシュ地点で測定する。法勾配に ついては40mメッシュ線と切土法 尻との交点で測定する。(測定間隔 はおおむね40m)		
4	5	畑面工	畑 ( 造 成 面 積 )	1	各 区 画 畑 面 積 a	±5%	各区画畑面積(造成面積)の測定 及び全体畑面積の測定 造成面積、基準高は指定した場合			
					基 準 高 V	±200				
				2	耕 起 深 耕	果樹 -75 野菜 -15	おおむね1ha当たり10ヶ所測定す るほか、つぼ細り2ヶ所/haとす る。			
				3	土 壊 改 良	p H 測 定	±0.5	おおむね50a当たり1ヶ所(深さ15 cm)改良材散布後2週間以上経過 して測定する。 地表から15cmの土壌を柱状に採取 し、良く混合する。 (試験方法…ガラス電極法)		
4	6	道路工	道 ( 耕 作 道 )		幅 W	-150	テラス延長おおむね100m当たり 1ヶ所測定。 側溝高さは指定した場合			
					厚 さ T	-45				
					側 溝 幅 w	-75				
					側 溝 高 さ H	-75				

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
4	3	6	2		現場打ち開渠工	基準高	±30	<p>施工延長40m（又は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は、水路中心線で測定。</p>			
						厚さ	-20				
						幅	-25				
						高さ	-25				
						中心線のズレ (e)	直線部				±50
							曲線部				±100
						施工延長	L < 10m				-20
							L ≥ 10m				-50
							L < 100m				-50
							L ≥ 100m				-100
						スパン長 (L)	直線部				±20
							曲線部				±30
3			3		<p>プレキャスト開渠工（鉄筋コンクリート大型フリユーム） （鉄筋コンクリートL形水路） （組立て水路）</p>	基準高	±30	<p>施工延長40m（又は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は、水路中心線で測定。 中心線のズレ（曲線部）についてはおおよそ10mにつき1ヶ所の割合で測定する。</p>			
						幅	-25				
						中心線のズレ (e)	直線部				±50
							曲線部				±100
						施工延長	L < 10m				-20
							L ≥ 10m				-50
							L < 100m				-50
							L ≥ 100m				-100

単位：mm

編	章	節	条	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要								
4	3	6	2	コンクリート法覆工 アスファルト法覆工	基準 高 $\nabla$	±50	施工延長40m (又は50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下 のもの1施工箇所につき2ヶ 所。										
					法長 $\phi$	-50											
					$\phi \geq 3m$	-100											
					厚さ $t < 100m$	-20											
					$t \geq 100m$	-30											
					裏込め材厚 $t$	-50											
					勾配 $N$	-0.5分											
					延長 $L$	$L < 10m$				-20							
						$L \geq 10m$				-50							
						$L < 100m$				-50							
						$L \geq 100m$				-100							
					3						3	ブルック積水路 鉄筋コンクリート柵渠	基準 高 $\nabla$	±50	施工延長40m (又は50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下 のもの1施工箇所につき2ヶ 所。		幅、高 さは柵 渠には 適用し ない。
幅 $W$	-40																
高さ $H$	-40																
中心線の ズレ (e)	直線部	±50															
	曲線部	±100															
延長 $L$	$L < 10m$	-20															
	$L \geq 10m$	-50															
	$L < 100m$	-50															
	$L \geq 100m$	-100															
				ライニング水路 連結プロック コンクリートマット			基準 高 $\nabla$	±75	施工延長40m (又は50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下 のもの1施工箇所につき2ヶ 所。								
							幅 $W$	-75									
							法長 $\phi$	-50									
					$\phi \geq 2m$	-100											
					施工延長	$L < 10m$	-20										
						$L \geq 10m$	-50										
						$L < 100m$	-50										
						$L \geq 100m$	-100										

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
4	農地編	5	管体基礎工		管体基礎等 (砂基礎等)	高さ	H	<p>施工延長40m (又は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。</p> <p>基礎材が異なる場合は種類毎に測定する。 高さ(H)の管理は、<math>V_2 - V_1</math>で算出するものとする。</p>					
						幅	W						
4	管水路工	6	管体工		水路 (硬質ポリ塩化ビニル管)	基準高	$\nabla$	<p>施工延長40m (又は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。</p> <p>中心線のズレは指定した場合 中心線のズレ(曲線部)についてはおおむね10mに1ヶ所の割合で測定する。</p> <p>施工管理基準に基づく様式16-1～16-2(継手チェックシート)を作成する</p>					
						中心線のズレ(e)	(e)						
						埋設深(H)	(H)						
						延長	200m以上						
						延長	200m未満						
							ジョイント間隔(Z)				様式16-1 16-2 (継手チェックシートによる)		
						基準高	被圧地下水 のない時				<p>施工延長40m (又は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。</p> <p>中心線のズレ(曲線部)についてはおおむね10mに1ヶ所の割合で測定する。</p> <p>ジョイント間隔については1本毎測定し、施工管理基準に基づく様式16-3～16-8(継手チェックシート)を作成する</p>		<p>管底での測定作業が困難な場合は、管頂まで埋戻後にV1、eを測定する。</p>
						高	被圧地下水 のある時						
						$\nabla$							
												中心線のズレ(e)	
			ジョイント間隔(Z)										
			施工	200m以上									
			延長	200m未満									

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
4	8	た め 池 改 修 工	4		堤 体 盛 立 工	基 準 高	±100	施工延長 40m (測点間隔 25m の場 合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m(又は 50m)以下のものは 1 施 工箇所につき 2ヶ所。 基準高は、各法肩で測定。 1 鋼土の幅は盛土高 1m毎に管理す る。 2 測定は原則として、水平距離と す るが、法長の場合は斜距離とす る。 3 出来形測定と写真は同一箇所 で 4 出来形図は横断面図面を利用して 作成する。 1 施工箇所毎		
						堤 幅	-100			
						法	-100			
						勾 配	-0.5 分			
4	6	取 水 施 設 工	1	1	樋 管 工 同 上 付 帯 構 造 物 (土 砂 吐 ゲ ー ト 等)	延 長	-200	基準高、幅、厚さ、高さ、中心線 のズレについては施工延長 10mに つき 1ヶ所の割合で測定する。 ジョイント間隔については、1本 毎に測定する。 箇所単位のものについては適宜構 造図の寸法表示箇所を測定する。		1 基準高▽は管底を原則とする。 2 プレキャストコンクリート製品 使用の場合である。 3 底樋がトンネルの場合は水路ト ンネルに準ずる。 3 斜樋等付帯構造物は 3 編 1-4-3 基礎工(護岸)に準ずる。ただし、 基準高▽は、取水孔(ゲート中心) の標高とし、高さ(H)は斜面直角 方向とする。
						基 準 高	±30			
						幅	-20			
						厚 さ	-40			
						高 さ	-40			
						中心線 のズレ (e)	±50			
						直線部	±100			
						曲線部	±100			
						延 長	-150			

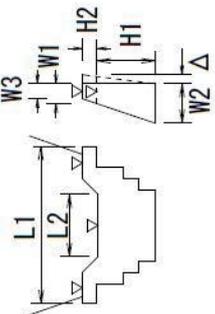
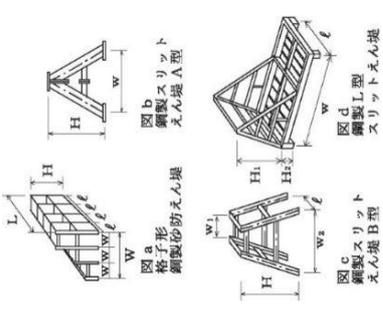
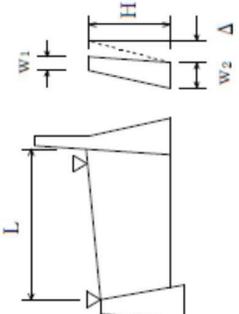
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
4	8	た め 池 改 修 工	1	2	水 路 ト ン ネ ル	基 準 高 V	±50	1. 基準高、幅、巻厚、高さについては1スパンに1ヶ所の割合で測定する。 2. 巻厚 ・コンクリート打設前の巻立空間を1スパンの終点において図に示す①～⑩の各点で測定する。 ・コンクリート打設後の復工コンクリートについて1スパンの端面(施工継目)において図に示す①～⑩の各点で測定する。 ・削孔による巻厚の測定は図の①において50mにつき1ヶ所、②③④において100mにつき1ヶ所、⑤の割合で行う。ただし、トンネル延長が100m未満のものについては2ヶ所以上の削孔を行い巻厚測定を行う。 3. 中心線のズレ 直線部は50mにつき1ヶ所、曲線部は1スパンにつき1ヶ所の割合で測定する。		
						幅 W	-40			
						巻 厚 T	-0			
						高 さ H	-40			
						中心線のズレ (e)	±100			
						曲線部	±150			
						150m 以上	-0.1%			
						150m 未満	-150			
						施工延長				

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
5	1	3	3		コンクリート治山ダム 本体	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	設計図に表示してある箇所 で測定。		
						天端幅 $a_1$	$-30$			
						放水路幅 $a_2$ $a_3$	$-30$			
						堤敷幅 $b$	$-30$			
						放水路長 $l_1$ $l_2$	$\pm 50$			
						インクラ長 $l_3$	$-50$			
						堤長 $L_1$ $L_2$	$-50$			
5	1	3	4		側壁 (コンクリート)	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 図面の寸法表示箇所を測定。</li> <li>2 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。</li> <li>3 長さは、天端中心線の水平延長、又は測点に直角な水平延長を測定。</li> </ol>		
						幅 $w_1, w_2$	$-30$			
						長さ $L$	$-50$			
5	1	3	6		水叩工 (コンクリート)	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	基準高、幅、延長は設計図に表示してある箇所 で測定。厚さは目地及びその中間点で測定。		
						幅 $w$	$-30$			
						厚さ $t$	$-30$			
						長さ $l$	$-50$			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5	1	4	2		工場製ダム製作工 (鋼製類ダム製作工 (仮組立時))	部材の水平度	10	全数を測定。	<p>図 a 格子形鋼製砂防えん堤 図 b 鋼製スリットえん堤 A 型 図 c 鋼製スリットえん堤 B 型 図 d 鋼製 L 型スリットえん堤</p>	
						堤 長 L	±30			
						堤 長 $\ell$	±10			
						堤 幅 W	±30			
						堤 幅 w	±10			
						高 さ H	±10			
						ベースプレートの高さ	±10			
						本体の傾き	±H/500			

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
5	1 溪間工	4 鋼製治山ダム工	5		鋼製ダム本体工 (不透過型)	水通し部	堤高▽	±50	1. 図面に表示してある箇所で測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高の+の規格は適用しない。				
							長さ L1、L2	-50					
							幅 W1、W3	±50					
							下流側倒れ△	±0.02H1					
							袖高▽	±50					
							幅 W2	±50					
			下流側倒れ△	±0.02H2									
								袖部	堤長L (格)	±50	設計図に表示してある箇所で測定。 土台分及び袖部等コンクリート治山ダム本体工による。 (備考) 格：格子型鋼製砂防えん堤 A：鋼製スリットえん堤 A型 B：鋼製スリットえん堤 B型 L：鋼製スリットえん堤 L型		
			堤長ℓ (格・B・L)	±10									
			堤幅W (格)	±30									
			堤幅w	±10									
			高さH	±10									
6					鋼製側壁工	基準高▽	±50	設計図に表示してある箇所で測定。 ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。					
						長さ L	±100						
						幅 W1, W2	±50						
						下流側倒れ△	±0.02H						
						高さH	-50						
							-100						

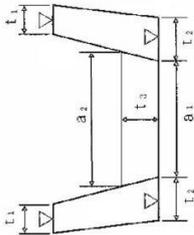
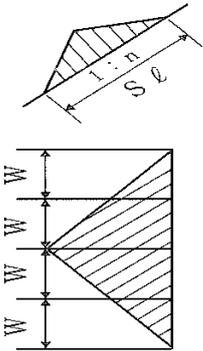
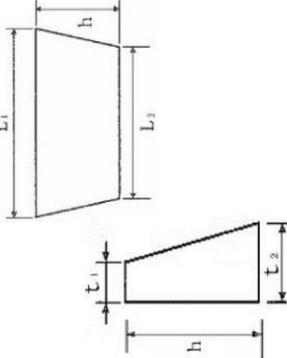
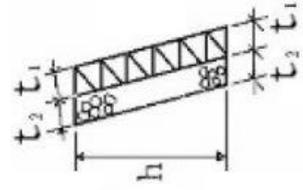
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5	治山編	1	溪間工	5	木製治山ダム工	基準高	▽	±100		図面の寸法表示箇所。
						天端幅	a	-50		
堤敷幅	a <sub>4</sub>	-50								
放水路長	l <sub>1</sub> l <sub>2</sub>	-50								
堤長	L <sub>1</sub> L <sub>2</sub>	-50								
丸太間隔	L	200以内								
丸太径	d	-10%								
丸太本数	m	設計値以上								
5	治山編	1	溪間工	5	流路製工 (木製)	基準高	▽	±100		図面の寸法表示箇所。
						厚さ	t <sub>1</sub> , t <sub>2</sub> , t <sub>3</sub>	-50		
幅	a <sub>1</sub> , a <sub>2</sub>	-50								
長さ	L	-200								
丸太間隔	L	200以内								
丸太径	d	-10%								
丸太本数	m	設計値以上								

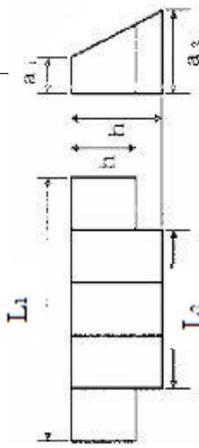
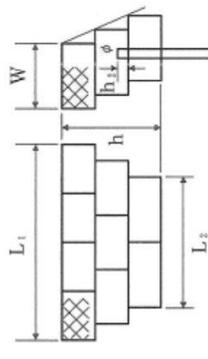
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
5	1	溪間工	5		護岸工 (コンクリート)	基準高	±30	1 施工単位に3ヶ所			
						断面幅	-30				$a_1, a_2$
						長さ	-50				$L_1, L_2$
8	水制工	1		水制工	方向角	±7°	全数を測定				
					基準高	±50				$\theta$	
					幅	-30				W	
						長さ	-30		$l$		
						高さ	-30		h		
						延長	-150		L		

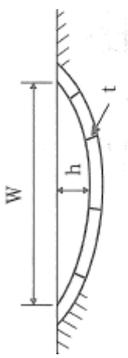
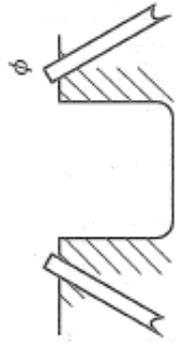
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
5	1	9	1		流 路 (コンクリート三面張り)	基 準 高	±30	設計図に表示してある箇所を測定。			
						厚 さ	-30				
						幅	-30				
						長 さ	-50				
	2	4	のり切工	1		のり切工	幅	-100	各断面ごと		
							法 勾 配	-0.5分			
							法 長	-4%			
	5	5	土留工	2		土留工 (コンクリート)	基 準 高	±50	1 施工単位に3ヶ所		
							延 長	-50			
							高 さ	-50			
							厚 さ	-100			
4			4		土留工 (石積積) (コンクリートブロック積)	基 準 高	±50	図面の表示箇所を測定。 断面、形状等の変化点毎に測定する。  ※延長の規格値は、 L<5mの場合 (L/-100)=-50とし、 L>20mの場合 (L/-100)=-200とする。			
						延 長	L/-100 (-50~-200の範囲で設定する。)※				
						高 さ	-50				
						厚 さ	-50				

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5	2	5	5		土 ( 丸太留積 )	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	1 施工箇所につき3ヶ所以上。 丸太間隔、丸太径は全体の10%程度 測定。	図面の寸法表示箇所。	
						延 長 $L_1, L_2$	-200			
						高 度	-50			
						高 さ	-100			
						厚 さ $t$	-50			
						丸太間隔 $L$	200 以内			
						丸太径 $d$	-10%			
						丸 太 本 数 $m$	設計値以上			
						基 準 高	$\pm 50$			
						延 長 $L_1, L_2$	-50			
5	2	5	7		土 ( 鋼製枠 )	高 度	-50	1 施工単位に3ヶ所以上		
						高 さ	-100			
						幅 $a_1, a_2$	-50			
						基 準 高	$\pm 50$			
						延 長 $L_1, L_2$	-200			
						高 度	-50			
						高 さ	-100			
						幅 $a_1, a_2$	-50			
						基 準 高	$\pm 50$			
						延 長 $L_1, L_2$	-200			
5	2	5	8		土 ( 鉄線かご枠 )	高 度	-50	1 施工単位3ヶ所以上 止め杭については杭数の10%程度 測定。		
						高 さ	-50			
						幅 $W$	-50			
						止め杭、高さ $h_2$	100			
						止め杭、末口径 $\phi$	-10%			
						基 準 高	$\pm 50$			
						延 長 $L_1, L_2$	-200			
						高 度	-50			
						高 さ	-50			
						幅 $W$	-50			

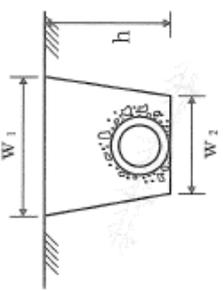
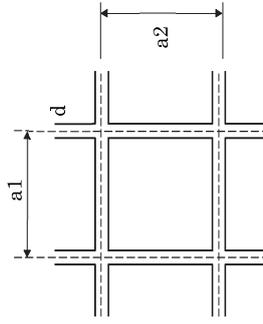
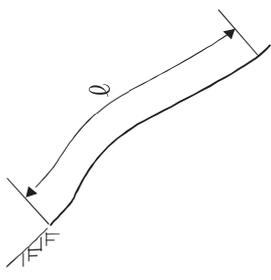
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
5	2	7	3		水 (コンクリート) (練張及び空張)	幅	W	-50		延長については各スパン 他項目は各スパン1ヶ所		
						深 さ	h	-50				
						厚 さ	t	-20				
						延 長	ℓ	-1%				
						延長	L < 10m	-20				
							L ≥ 10m L < 100m	-50				
	4	7				水 (コルゲートフリューム等) (練張及びコンクリート二次製品)	延長	L ≥ 100m	-100		延長については各スパン 止め杭については杭数の10%程度 測定。	
							止め杭、末口径φ		-10%			
							幅	W <sub>1</sub> 、W <sub>2</sub>	-75			
								深 さ	h			-75
								延 長	ℓ			-400
							5	2	7			6
幅	a	±100										
高 さ	h	±100										
延長	L ≤ 5m	-100										
	L > 5m L < 20m	-L/50										
丸太間隔	L	200以内										
丸太径	d	-10%										
丸太本数	m	設計値以上										

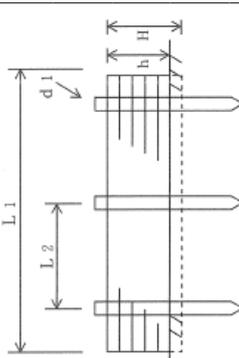
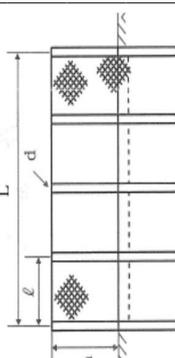
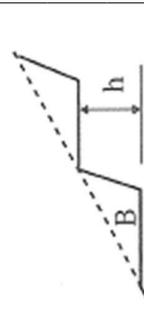
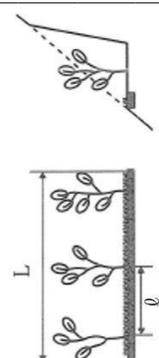
図面の寸法表示箇所。

延長については各スパン。  
他項目は各スパン1ヶ所。  
丸太間隔、丸太径は全体の10%程度測定。

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要							
5	2	8	4		暗きよ工 (硬質塩ビ管類)	幅	$W_1, W_2$	-50	各スパンごと1ヶ所								
						深	さ h	-30									
						延長		$L < 10m$	-20	各スパン							
								$L \geq 10m$	-50								
								$L < 100m$	-50								
							延長	$L \geq 100m$	-100								
							9	のり砕工			のり丸砕工	法	$L \leq 5m$	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合) は50m)につき1ヶ所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇所に つき2ヶ所。 砕延長100mにつき1ヶ所、100m 以下のものは1施工箇所に2ヶ所。 延長1施工箇所毎。		図面の寸法表示箇所。
												長	$L > 5m$	-L/50			
													$L < 20m$	-400			
													$L \geq 20m$	-400			
砕	$L \leq 5m$	±200															
延長	$L > 5m$	-100															
	$L < 20m$	-L/50															
	$L \geq 20m$	-400															
	丸太径	d	-10%														
	面積	A	-1.5%														
	10	吹付工	2		特殊モルタル吹付工	砕	中心間隔	$L_1$	±100	施工延長40mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2 箇所。 1施工箇所毎。							
						高さ	h	-30									
						幅	$L_2$	-30									
						法	長	$l < 5m$	-200								
						ℓ	$l \geq 5m$	法長の-4%									
						延長	$L < 10m$	-20									
						L	$L \geq 10m$	-50									
							$L < 100m$	-100									
						吹	付	重	設計値以上								
								量	施工面積200㎡につき1箇所、面 積200㎡以下のものは、1施工箇 所につき2ヶ所								

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要			
5	治山編	2	山腹工	11	柵工	柵 (丸太)	延長 L	-1.5%	延長は全箇所、地上高、杭間隔、未口径は杭数の10%程度測定。杭の使用本数は全数測定。				
							柵高 H	-50					
							地上高 h	-50					
							杭の使用本数 n	$L_1/L_2$ 以上					
							杭間隔 L <sub>2</sub>	200以内					
							杭の未口径 d <sub>1</sub>	-10%					
							横木の未口径 d <sub>2</sub>	-10%					
							延長	-200				延長は全箇所、地上高、杭間隔、未口径は杭数の10%程度測定。杭の使用本数は全数測定。	
							地上高 h	-3%					
							杭の使用本数 n	$(L/\ell) + 1$ 以上					
杭間隔 ℓ	200以内												
杭の未口径 d	-10%												
幅	-150	延長、幅は全箇所測定。ただし、高さは設計図書に示された場合のみ200mmにつき1ヶ所測定。											
高さ	±150												
延長	-1.5%												
幅	-150			同上 苗木間隔は植付本数の10%程度測定。									
高さ	±150												
苗木間隔 ℓ	±200												
延長	-1.5%												

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
5	2	13	2 3		伏 (むしろ) (緑化二次製品)	延 長	L	-1.5%		設計図書に表示に基づき延長、面積のいずれかを測定。	
						面 積	A	-1.5%			
		16	落石防護工	5		落石防護土留工	延 長	L ≤ 5m	-100	1 施工箇所毎	図面の寸法表示箇所。
								L > 5m	-L/50		
								L < 20 m			
								L ≥ 20 m	-400		
					高 さ	h	±100	1 施工箇所につき3ヶ所以上。 丸太間隔、丸太径は全体の10%程度測定。			
					丸太間隔	L	200以内				
					丸太径	d	-10%				
					丸太本数	m	設計値以上				
		6	固 定 工			固 定 工 (ロープ伏工)	主ロープ設置間隔	管理基準軸	2.0m±0.2m	管理基準軸毎	
								そ の 他	2.0m±0.5m	500m <sup>2</sup> につき1格子(2m×2m)	
補助ロープ間隔	概ね均等なこと							随時			
	管理基準軸 (L ≤ 4m)						±0.4m	管理基準軸毎			
主ロープ延長L	管理基準軸 (4m < L L ≤ 20m)						±0.5m				
	管理基準軸 (20m < L)						±0.5m				
	その他 (L ≤ 20m)	±0.5m	1 施工単位毎								
	その他 (20m < L)	±0.5m	20m (10 スパン) 毎								
アンカー	削孔長さ	削孔角度 α	90°+15° ～ 90°-40°	設計値以上	設計値以上	設計値以上	設計値以上	施工本数の25%			

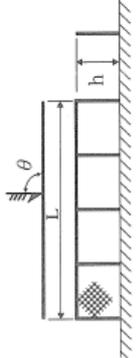
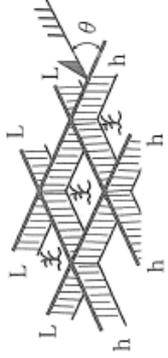
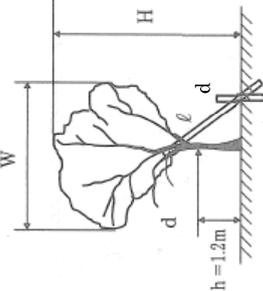
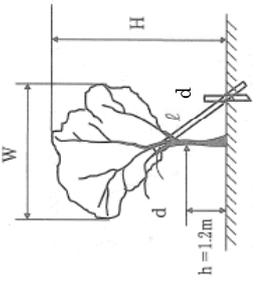
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5	治山編	3	1		防 ( 波 返 し 工 ) 堤 潮	基 準 高	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合 は50m) につき1ヶ所、 延長40m (又は50m) 以下のものは1 施工箇所につき2ヶ所。  1 施工箇所毎		
						幅	a1, a2			
						高	h < 3m h1 ~ h3			
						さ	h ≥ 3m h1 ~ h3			
						延長	L < 10m			
							L ≥ 10m L < 100m L ≥ 100m			
						基 準 高	±50			
						幅	a1, a2			
						高	h < 3m			
						さ	h ≥ 3m			
						法 匀 配	n1 n2			
						延長	L < 10m L ≥ 10m L < 100m L ≥ 100m			
5	治山編	3	1		防 ( 直 立 堤 ) 堤 潮	基 準 高	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合 は50m) につき1ヶ所、 延長40m (又は50m) 以下のものは1 施工箇所につき2ヶ所。  1 施工箇所毎		
						幅	a1, a2			
						高	h < 3m			
						さ	h ≥ 3m			
						法 匀 配	n1 n2			
						延長	L < 10m L ≥ 10m L < 100m L ≥ 100m			
						基 準 高	±50			
						幅	a1, a2			
						高	h < 3m			
						さ	h ≥ 3m			
						法 匀 配	n1 n2			
						延長	L < 10m L ≥ 10m L < 100m L ≥ 100m			
5	治山編	3	1		防 ( 被 覆 工 ) 堤 潮 コ ン ス ト ア リ ア ル	基 準 高	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合 は50m) につき1ヶ所、 延長40m (又は50m) 以下のものは1 施工箇所につき2ヶ所。  1 施工箇所毎		
						法	φ < 3m φ ≥ 3m			
						長	φ ≥ 3m			
						厚 さ	t ≤ 100 t > 100			
						裏 込 材 厚 t	t			
						法 匀 配 n	n			
						延長	L < 10m L ≥ 10m L < 100m L ≥ 100m			
						基 準 高	±50			
						法	φ < 3m φ ≥ 3m			
						長	φ ≥ 3m			
						厚 さ	t ≤ 100 t > 100			
						裏 込 材 厚 t	t			
法 匀 配 n	n									

単位：mm

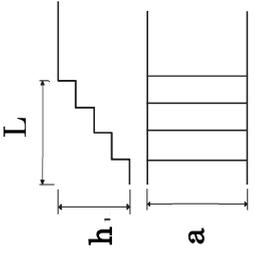
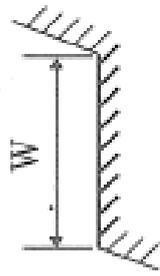
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
5	3	3	2		根 固 工	ブロック幅 a	-20	ブロック個数40個に1個の割で測定。 施工延長40m(測点間隔25mの場合合は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所				
						ブロック長さ b	-20					
						ブロック厚さ t	-20					
						基準高▽	±300					
						層積み	±t/2					
						乱積み	-200					
						幅 B	-t/2					
						延長L(層積み)	-200					
						延長L(乱積み)	-t/2					
						方 向 θ	±7度				方向は設計図書で示された場合のみ、1施工箇所毎3ヶ所以上測定。高さは杭本数の10%程度測定、延長は全ヶ所測定。 施工延長40m(測点間隔25mの場合合は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は各法層で測定	
						高 さ h	±75					
						延 長 L	-1.5%					
基 準 高 ▽	-50											
幅 W1, W2	-100											
延 長 L	-200											
法 勾 配 n, m	-0.5分											
基準高▽	t < 1.5m -50 t ≥ 1.5m -200											
法長ℓ	ℓ < 5m -50 ℓ ≥ 5m -2%											
幅 W	-100											
5	3	4	1		堆 砂 盛 土 工 (砂 垣)	方 向 θ	±7度	方向は設計図書で示された場合のみ、1施工箇所毎3ヶ所以上測定。高さは杭本数の10%程度測定、延長は全ヶ所測定。 施工延長40m(測点間隔25mの場合合は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は各法層で測定				
						高 さ h	±75					
5	3	5	1		生 育 基 盤 盛 土 工	方 向 θ	±7度	方向は設計図書で示された場合のみ、1施工箇所毎3ヶ所以上測定。高さは杭本数の10%程度測定、延長は全ヶ所測定。 施工延長40m(測点間隔25mの場合合は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は各法層で測定				
						高 さ h	±75					

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
5	3	5	2	防風	工	方向	±7度	方向は設計図書で示された場合のみ、1施工箇所毎3ヶ所以上測定。高さは杭本数の10%程度測定、延長は全ヶ所測定。		
						高さ	±75			
						延長	-1.5%			
5	3	5	4	静	砂	方向	±7度	方向は設計図書で示された場合のみ、1施工箇所毎3ヶ所以上測定。高さは杭本数の10%程度測定、延長は全ヶ所測定。		
						高さ	±75			
						延長	-1.5%			
						植栽本数	設計値以上	植栽本数は全本数測定		
5			5	植	大	本数	設計値以上	20本につき1本測定。ただし、最低5本とする。		
						樹高	設計値以上			
						枝張り	設計値以上			
						目通り(幹周)C	設計値以上			
						支柱長さ	設計値以上			
						支柱未口径	-10%			
5				植	中	本数	設計値以上	100本につき1本測定。ただし、最低3本とする。		
						樹高	設計値以上			
						葉張り	設計値以上			
						目通り(幹周)C	設計値以上			
						支柱長さ	設計値以上			
						支柱未口径	-10%			
						面積	-1.5%	1植栽区画につき3ヶ所以上測定し、面積は全部測定。		
					辺長	-50				
						L ≤ 50m	-50			
						L > 50m	-100			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5	治山編	4 森林整備	4	4	植	栽	A	-1.5%		
						本数	n	設計値以上		
5	治山編	4 森林整備	4	4	本数調整伐、受光伐、除伐	施工率	A	-1.5%		
						調整率	n	-5%		
5	治山編	4 森林整備	4	4	伐倒本数	C	設計値以上			
5	治山編	5 歩道整備	1	5	枝落し	施工率	A	-1.5%		
						枝落し高	h	設計値以上		
5	治山編	5 歩道整備	1	5	歩道作設	枝落し本数	n	設計値以上		
						幅	W	-150		
5	治山編	5 歩道整備	1	5	歩道作設	延長	L	-1.5%		
5	治山編	5 歩道整備	1	5	階段丸	階段幅	a	-50		
						高さ	h	-100		
5	治山編	5 歩道整備	1	5	階段丸	延長	L	-50		
						段数	n	設計値以上		
5	治山編	5 歩道整備	1	5	階段丸	丸太径	d	-10%		
						丸太本数	m	設計値以上		



図面の寸法表示箇所。

1 施工箇所毎。  
丸太径は全体の10%程度測定

延長は全ヶ所測定。  
幅は50mにつき1ヶ所測定。

施工率は全面積に対する実施率。  
枝落し高及び枝落し本数の測定は標準地を設けて測定。ただし、設計図書に示された場合のみ測定。

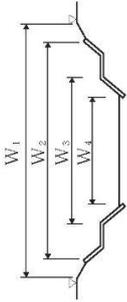
施工率は全面積に対する実施率。  
調整率の測定は標準地(20m×20m)を設け10ha未満3ヶ所、10ha以上は10ha増すごとに1ヶ所行う。ただし、2ha以下は2ヶ所(地形により標準地を設けられない場合は面積400㎡と等しい数箇所を1ヶ所とすることはできる)伐倒本数については設計図書で示された伐倒総本数を測定。

標準地(20m×20m)を10ha当たり3ヶ所設けて測定、ただし、2ha以下は2ヶ所設けて測定。

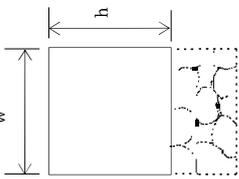
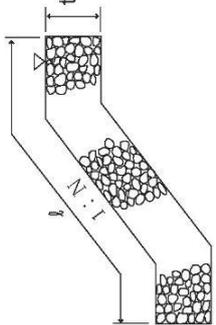
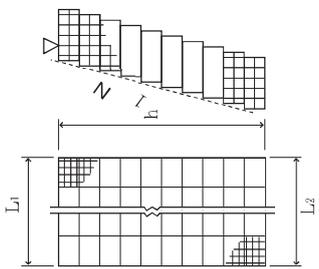
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
5	治山編	1			木製ブロック積工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40m (測点間隔25mの場合 は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇 所につき2ヶ所。	図面の寸法表示箇所。			
						法	$\theta < 3m$				-50	
						長	$\theta \geq 3m$					-100
						控	厚 $t$				-50	
						法	勾 配 $n$				-0.5分	
						延 長	$L < 10m$				-20	1 施工箇所毎
							$L \geq 10m$				-50	
							$L < 100m$					
							$L \geq 100m$				-100	
						丸 太 径 $d$	$-10\%$				施工延長40m (測点間隔25mの場合 は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1 施工箇所 につき2ヶ所。	
木製路面排水工	幅	$a_1, a_2$	-10	1 施工箇所毎	図面の寸法表示箇所。							
	高さ	$h_1, h_2$	-10									
	延長	$L$	-10									

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
6	河川編	1	築堤護岸	1	適用	基準高	±50	基準高・河川幅は施工延長40m(測点間隔25mの場合)は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所(又は2ヶ所)。		基準高は護岸工の天端と計画堤防天端の高さが同じ場合は規格値を-0とす。法線は座標管理して座標値とする。復元位置(参考値±10mm以内)国土交通省公共測量作業規定第5編第4節適用		
						河川幅	$W_1 \sim W_4$					
						延長	$L < 10m$				-20	1 施工箇所毎
							$L \geq 10m$ $L < 100m$				-50	
$L \geq 100m$	-100											

単位：mm

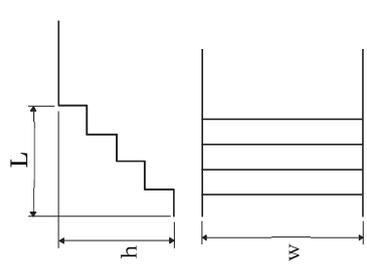
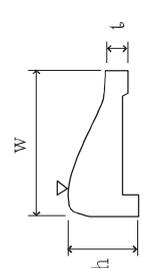
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
6	1	5	4		護岸付属物工	幅	w	-30			
						高さ	h	-30			
	13					羽 (じやかご)	基準高	▽	±50		施工延長40m(測点間隔25mの場合)は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。  1 施工箇所毎
							法長	φ<3m	-50		
								φ≥3m	-100		
								厚さ t	-50		
								勾配 N	-0.5分		
							延長	L<10m	-20		
								L≥10m	-50		
								L<100m	-100		
								L≥100m	-100		
					羽 (ふとんかご) (かご枠)	高さ	h	-100			
						基準高	▽	±50			
						勾配	N	-0.5分			
						延長	L<10m	-20			
							L≥10m	-50			
							L<100m	-100			
	L≥100m	-100									

単位：mm

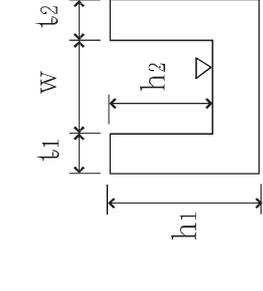
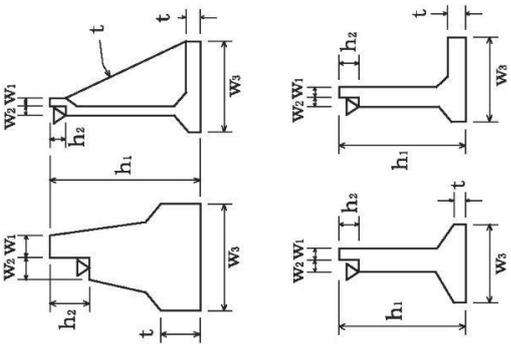
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
6	河川編	7	3		根固めブロック工	基準高	±100	施工延長40（測点間隔25mの場合 は50m）につき1ヶ所、延長40m （又は50m）以下のものは1施工 箇所につき2ヶ所。 幅、厚さは40個につき1ヶ所測 定。 1 施工箇所毎				
						層積						
						厚さ	t					
						幅	W <sub>1</sub> W <sub>2</sub>					
						延長	L <sub>1</sub> L <sub>2</sub>					
						延長	L <sub>1</sub> L <sub>2</sub>					
		5					沈床工	乱積		施工延長40（測点間隔25mの場合 は50m）につき1ヶ所、延長40m （又は50m）以下のものは1施工 箇所につき2ヶ所。 1 施工箇所毎 1 組毎		
								基準高	±150			
								幅	±300			
								延長	±200			
6					捨石工	基準高	-100	施工延長40（測点間隔25mの場合 は50m）につき1ヶ所、延長40m （又は50m）以下のものは1施工 箇所につき2ヶ所。 1 組毎				
						幅	-100					
						延長	-200					
8					杭出し水制工	基準高	±50	1 組毎				
						幅	±300					
						方向	±7°					
						延長	-200					

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要									
6	河川編	2 樋門・樋管	6		函 ( 本 体 工 )	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	柔構造樋門の場合は埋戻前(載荷前)に測定する。 函渠寸法は、両端、施工継手箇所及び 図面の寸法表示箇所にて測定。 門柱、操作台等は、図面の寸法表示箇 所で測定。 プレキヤラスト製品使用の場合は、製品 寸法を規格証明書で確認するものと し、『基準高』と『延長』を測定。											
						厚 さ $t_1 \sim t_8$	-20												
						幅 $w_1, w_2$	-30												
						内 空 幅 $w_3$	-30												
						内 空 高 $h_1$	$\pm 30$												
						延 長 L	$L < 10m$				-20								
							$L \geq 10m$ $L < 20m$				-50								
							$L \geq 20m$				-50								
						6					3 樋門・樋管本体工	6	2	函 ( ヒ ュ ー ム 管 ) ( P C 管 ) ( コ ル ゲ ー ト パ イ プ ) ( ダ ク タ イ ル 鋳 鉄 管 )	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長40m(又は50m)につき1ヶ 所、延長40m(又は50m)以下のもの は1施工箇所につき2ヶ所。 1 施工箇所毎		
															延 長 L	$L < 10m$			
$L \geq 10m$ $L < 20m$	-50																		
$L \geq 20m$	-100																		
基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$																		
厚 さ t	-20																		
幅 w	-30																		
高さ h	$\pm 30$																		
延長 L	-50																		
7	8				翼 水 壁 叩			基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$										
						厚 さ t	-20												
						幅 w	-30												
						高さ h	$\pm 30$												
						延長 L	-50												

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
6	2	樋門・樋管	7		階 段 工	幅	w	-30	1 回/1 施工箇所				
						高さ	h	-30					
						延長	L	-30					
						段数	数	±0段					
	3	水門	4	7 8 9 10 11		床 堰 門 ゲ ー ト 胸 版 柱 柱 操 作 台 壁 工 工 工 工 工	基準高	▽	±30	図面の寸法表示箇所 で測定。			
							厚さ	t	-20				
							幅	w	-30				
							高さ	h	±30				
							延長	L	-50				
			4	堰	4	13 14		閘 門 砂 吐 工 工	基準高	▽	±30	図面の寸法表示箇所 で測定。	
									厚さ	t	-20		
									幅	w	-30		
高さ									h	±30			
延長									ℓ	-50			
5	固定堰本体工	8 9 10			堰 水 土 体 叩 砂 吐 工 工 工	基準高	▽	±30	基準高、幅、高さ、厚さは両端、 施工継手箇所及び構造図の寸法表 示箇所 で測定。				
						厚さ	t	-20					
						幅	w	-30					
						高さ	h	±30					
						堰長	L < 20m	-50					
						L	L ≥ 20m	-100					

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要									
6	河川編	4	堰		魚道本体工	基準高▽	±30	<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合）は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1ヶ所。なお、製品使用の場合は、製品寸法については規格証明書による。</p>											
						厚さ t, t2	-20												
						幅 w	-30												
						高さ h, h2	-30												
						延長	L < 10m				-20								
							L ≥ 10m				-50								
							L < 100m				-50								
							L ≥ 100m				-100								
											7	管理橋下部工		管理橋橋台工	基準高▽	±20	<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は図面の寸法表示所で測定。</p>		
															厚さ t	-20			
															天端幅 w1 (橋軸方向)	-10			
															天端幅 w2 (橋軸方向)	-10			
															敷幅 w3 (橋軸方向)	-50			
高さ h1	-50																		
胸壁の高さ h2	-30																		
天端長 l1	-50																		
敷長 l2	-50																		
胸壁間距離 l	±30																		
支点長及び中心線の変化	±50																		

単位：mm

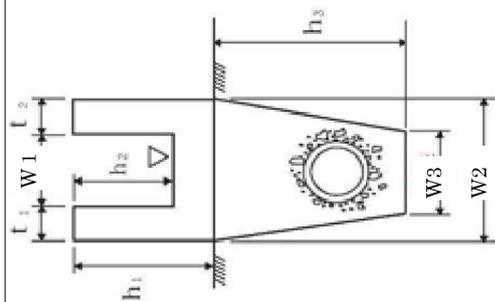
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
6	5	3	6		本 体 工	基 準 高	±30	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						厚 さ	-20			
幅	-30									
高 さ	±30									
延 長	-50									
7			7		燃 料 貯 油 槽 工	基 準 高	±30	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						厚 さ	-20			
幅	-30									
高 さ	±30									
延 長	-50									
7	4	沈 砂 工	7		コ ン ク リ ー ト 床 版 工	基 準 高	±30	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						厚 さ	-20			
幅	-30									
高 さ	±30									
延 長	-50									

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
6 河川編	6 床止め・床固め	3 床止め工	6		本 体 (床固め本体工)	基 準 高	±30	図面に表示してある箇所で測定。		
						天 端 幅	W <sub>1</sub> , W <sub>3</sub>			
						堤 幅	W <sub>2</sub>			
						延 長	L <sub>1</sub> 、L <sub>2</sub>			
						水 通 幅	φ <sub>1</sub> 、φ <sub>2</sub>			
							±50			
8		水 叩			工	基 準 高	±30	基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。		
						厚 さ	t			
						幅	W			
						延 長	L			
							±30			
							-100			
6	4 床固め		6		側 壁	基 準 高	±30	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 図面の寸法表示箇所で測定。</li> <li>2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。</li> <li>3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は測点に直角な水平延長を測定。</li> </ol>		
						天 端 幅	W <sub>1</sub>			
						堤 幅	W <sub>2</sub>			
						延 長	L			
							±30			
							-100			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
7	1	地すべり防止工	8		鉄筋挿入工 (ロックボルト工)	削孔深さ L	設計値以上	全数	挿入状況については、全数立会い確認を実施し、確認した記録(様式17)をまとめて検査時に提出するものとする。	
						削孔径 R	設計値以上	全数の5%以上かつ3本以上(ピット設置時又は交換時)		
7	1	地すべり防止工	8		鉄筋挿入工 (ロックボルト工)	配置誤差 d	100	全数の5%以上かつ3本以上	ただし、立会い確認以外の別な方法として、施工後、非破壊試験により鉄筋の長さを確認する場合には、測定方法について監督員と協議しなければならぬ。	
						せん孔方向 $\theta$	$\pm 2.5$ 度	全数の5%以上かつ3本以上		
7	1	地すべり防止工	8		鉄筋挿入工 (ロックボルト工)	鉄筋(ロックボルト)の挿入状況	挿入状況立会い (目視確認) 規格値「なし」	全数	非破壊試験により測定する場合には、測定者は測定機器の操作方法及びその評価方法について十分な知識を有する者とする。 また、資格等(講習会の受講等も含む)が必要となる測定機器を使用する場合は、当該資格等を有する者とする。	
						鉄筋の長さ (非破壊試験による測定時)	+40~-20	全数		
5	水路工	明暗渠工	4		明暗渠工	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長40m(測点間隔25mの場合)	削孔深さ、鉄筋(ロックボルト)挿入状況については、監督員が全数量の5%かつ3本以上確認するものとする。また、削孔径、配置誤差、せん孔方向については、監督員が全数量の3%かつ2本以上確認するものとする。	
						厚さ $t_1, t_2$	-20	は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のは1施工箇所につき2ヶ所。		
							幅	-30		(なお、製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による。)
						高さ $h_1, h_2$	-50			
							深さ $h_3$	-30		
						延長	$L < 10m$	-20		
							$L \geq 10m$	-50		
							$L < 100m$	-100		

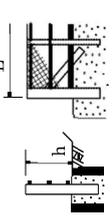


編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
7	1	6	4		集排水ボーリング工	削孔深さ $\phi$	設計値以上	全数		
						配置誤差 $d$	100			
						せん孔方向 $\theta$	$\pm 2.5$ 度			
7	1	6	5		集水井工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	※水平、開度 $\delta$ は削除 (R3.11) 全数測定。 偏心量は、頭部と底面の差を測定。 基準高、深さについては4ヶ所測定。 径は中心点をとる直角2方向とし上下の2ヶ所測定。		
						偏心量 $d$	150			
7	1	8	6		合杭工	長さ $L$	-100	全数測定。		
						巻立て幅 $W$	-50			
7	1	8	6		合杭工	巻立て厚さ $t$	-80	全数測定。		
						径 $D$	-80			
7	1	8	6		合杭工	基準高	$\pm 50$	全数測定。		
						偏心 $d$	D/4以内かつ100以内			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要																	
8	1	1	適用		道 路 工	基 準 高	±30	基準高、幅は延長40m毎に1ヶ所の割とし。基準高は道路中心線及びその両端で測定する。		道路中心線は座標管理の場合は座標値とする。復元位置(参考値 ±10mm以内)																	
						幅	$W, w_1, w_2$				-25																
						延 長	$L < 10m$				-20																
							$L \geq 10m$				-50																
							$L \geq 100m$				-100																
						3	工場製作工				遮音壁支柱製作工	部 材		部材長 $l$ (m)	$\pm 3 \dots l \leq 10$	図面の寸法表示箇所での測定。											
															$\pm 4 \dots l > 10$												
															6				場所打函渠工	場 所 打 函 渠 工	基 準 高	▽	高さ $t_1 \sim t_4$	±30	両端、施工継手及び函面の寸法表示箇所での測定。		
																								-20			
																								幅 (内法) W			
高 さ h	±30																										
	-20																										
施 工 延 長	$L < 10m$	-20																									
	$L \geq 10m$	-50																									
	$L \geq 100m$	-100																									

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要				
8	1	10	4		落石防止網工	幅	w	-200	1 施工箇所毎					
						延長	L	-100						
						高さ	h	±30						
						延長	L < 10m	-20						
								L ≥ 10m	-50					
								L < 100m	-100					
								L ≥ 100m	-100					
			6			6		防雪柵工	高さ	h	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所、施工延長 40m(又は50m)以下のものは1施 工箇所につき2ヶ所。 基礎1基毎		
									基礎	幅 w1, w2	-30			
									基礎	高さ h	-30			
									延長	L < 10m	-20			
										L ≥ 10m	-50			
L < 100m	-100													
L ≥ 100m	-100													

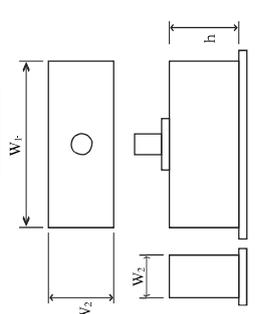
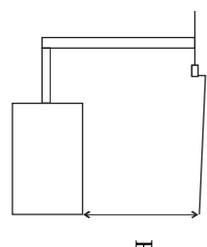
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要									
8	1	10	7		雪崩予防柵工	高さ h	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所、施工延長 40m (又は50m)以下のものは1施 工箇所につき2ヶ所。 基礎1基毎  全数  1 施工箇所毎											
						基礎幅 w1, w2	-30												
						高さ h	-30												
						ア 打込み ℓ	-10%												
						ン カ 埋込み ℓ	-5%												
						ー 長													
						延長													
						L < 10m	-20												
						L ≥ 10m	-50												
						L < 100m													
						L ≥ 100m	-100												
						幅 w	-30												
高さ h	-30																		
延長 L	-100																		
8	1	11	4		遮音壁基礎工	幅 w	-30	施工延長40m (測点間隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所、施工延長 40m (又は50m)以下のものは1施 工箇所につき2ヶ所。 1 施工箇所毎											
						高さ h	-30												
						延長 L	-100												
						間隔 w1, w2	±15												
						ずれ a	10												
						ねじれ b-c	5												
						倒れ d	h × 0.5%												
						高さ h	+30, -20												
						延長 L	-100												
						1 施工箇所毎													
						8	1				5	5		遮音壁本体工	間隔 w1, w2	±15	施工延長5スパンにつき1ヶ所		
															支柱				
高さ h	+30, -20																		
延長 L	-100																		
1 施工箇所毎																			

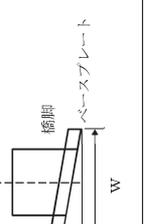
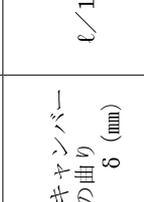
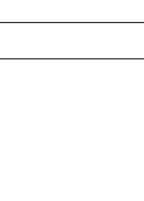
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要					
							個々の測定値		測定値の平均 $\bar{X}$								
							中規模以上	小規模以下									
8	2	4		1	歩道 取合 路肩 舗装 舗装 路盤 路盤 路盤 路盤 路盤 路盤 路盤	基準高	±50	$\bar{X}_3 \sim$	±15	基準高、幅は延長40m毎に1ヶ所の割とし、基準高は、道路中心線及びその端部で測定。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とする。	※工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘り起こし及びコア一以外の方法(水糸による管理)ができる。 コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る						
							t<15cm	$\bar{X}_3$	-6								
							t≥15cm	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10								
							-45	$\bar{X}_7 \sim$	-15								
							-100	$\bar{X}_3 \sim$	-25								
							2	歩道 取合 路肩 表	舗装 舗装 舗装 層			厚さ	-9	$\bar{X}_3$	-1	幅は延長40m毎に1ヶ所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコア一を採取して測定。	
													幅	-30	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$		-2
															$\bar{X}_7 \sim$		-3
															$\bar{X}_3 \sim$		-10

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要												
8	2	5	9		排水性舗装用路肩排水工	基 準 高	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合 は50m) につき1ヶ所、延長40 m (又は50m) 以下のものは1施 工箇所につき2ヶ所。														
						延 長	L<10m				-20	1 施工箇所毎										
							L≥10m				-50											
							L<100m				-100											
						L≥100m	-100															
						7		踏掛版工	4		沓掛版工 (コンクリート工)	基 準 高	±20	1ヶ所/1踏掛版								
												各 部 の 長 さ					±30					
													各 部 の 厚 さ				±20					
													各 部 の 長 さ				±20					
												厚 さ	-									
												9		標識工	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	中 心 の ず れ	±20	基礎-基礎毎		
																		ア ン カ ー 長	±20			
幅w1、w2	-30																					
高 さ h	±30																					
2		大型標識工 (標識柱工)	2		大型標識工 (標識柱工)													設 置 高 さ H	設置値以上	1ヶ所/1基		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
8	道路編	鋼橋下部	3		鋼製橋脚製作工	脚柱とベースプレート の鉛直度 $\delta$ (mm)	$w/500$	各脚柱、ベースプレートを測定。			
						部 材	ベースプレート		孔の位置		$\pm 2$
							孔の径 d	0~5	全数を測定。		
					仮 組 立 時	柱の中心 間隔、 対角長 L (m)	$\pm 5 \dots$ $L \leq 10m$ $\pm 10 \dots$ $10 < L \leq 20$ $m$ $\pm (10 + (L - 20) / 10)$ $\dots 20m < L$	両端部および片持梁部を測定。			
						はりのキャンバー 及び柱の曲り $\delta$ (mm)	$l/1,000$	各主構の各格点を測定。	 側面図 正面図		
						柱の鉛直度 $\delta$ (mm)	$10 \dots H \leq 10$ $H/1,000$ $\dots H > 10$	各柱及び片持ばり部を測定。	 側面図 正面図		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
8	3	4	8		橋台躯体	基準高	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。  支承アンカーボルトの箱抜きの規格値の平面位置は杏座の中心ではなく、アンカーボルトの箱抜きの中心で測定。  アンカーボルト孔の鉛直度は箱抜きを横軸方向、橋軸直角方向で十字に切った2隅で計測		
						厚さ	-20			
						天端幅 (橋軸方向)	-10			
						天端幅 (橋軸方向)	-10			
						敷幅 (橋軸方向)	-50			
						高さ	-50			
						胸壁の高さ	-30			
						天端長	-50			
						敷長	-50			
						胸壁間距離	±30			
						支間長及び中心線の変位	±50			
						アンカーボルトの箱抜き規格値	-20～+10			
平面位置	±20									
アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下									

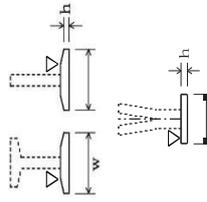
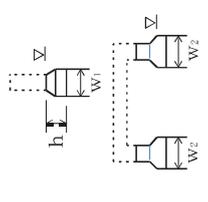
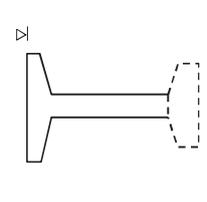
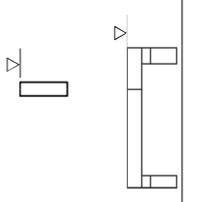
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
8 道路編	3 橋梁下部	5 R C 橋脚工	9		橋脚張出力式(半重)	基準高	±20	橋脚方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。「道路橋箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。  支承アンカーボルトの箱抜きの規格値の平面位置は省座の中心ではなく、アンカーボルトの箱抜きの中心で測定。  アンカーボルト孔の鉛直度は箱抜きを横軸方向、橋軸直角方向で十字に切った2隅で計測		
						厚さ	-20			
						天端幅 (橋軸方向)	-20			
						敷幅 (橋軸方向)	-50			
						高さ	-50			
						天端長 $l_1$	-50			
						敷長 $l_2$	-50			
						橋脚中心間距離 $l$	±30			
						支間長及び中心線の變位	±50			
						アーカーボルトの箱抜き規格値	-20～+10			
						平面位置	±20			
						アーカーボルト孔の鉛直度	1/50以下			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要							
8	道路編	3	橋梁下部	5	R C 橋脚工	橋脚駆体工 (ラーメン式)	9					<p>橋脚中心間距離 <math>\ell</math></p>					
													基準高	$\nabla$	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。	
													厚さ	t	-20		
													天端幅	$W_1$	-20		
													敷幅	$W_2$	-20	支承アンカーボルトの箱抜きの規格値の平面位置は沓座の中心ではなく、アンカーボルトの箱抜きの中心で測定。	
													高さ	h	-50	アンカーボルト孔の鉛直度は箱抜きを横軸方向、橋軸直角方向で十字に切った2隅で計測	
													長さ	$\ell$	-20		
													橋脚中心間距離	$\ell$	±30		
													支間長及び変位 中心線の変位		±50		
													計画高		-20~+10		
													平面位置		±20		
アンカーボルト孔の鉛直度		1/50以下															
アンカーボルトの箱抜き規格値																	

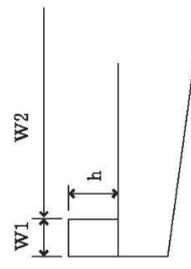
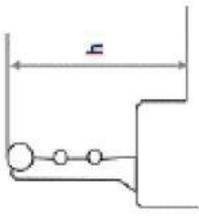
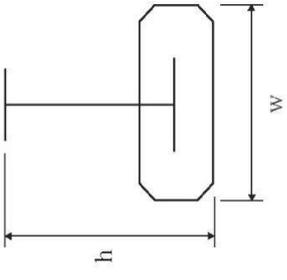
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
8	3	鋼製橋脚工	9	1	橋脚 (I型・T型)	基準高	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						幅 (橋軸方向)	-50			
						高さ	-50			
						長さ	-50			
						長さ	-50			
			10	2	橋脚 (I型・T型)	基準高	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						幅	-50			
						高さ	-50			
						高さ	-50			
						高さ	-50			
11	現場継手工	現場継手工	基準高	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。					
			橋脚中心間距離	±30						
			支間長及び中心線の変位	±50						
			橋脚中心間距離	±30						
			支間長及び中心線の変位	±50						
6	鋼製橋脚工	現場継手工	現場継手工	現場継手部のすき間	5	主桁、主樑の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材（裸使用）の場合				
				δ1, δ2 (mm)	※±5					

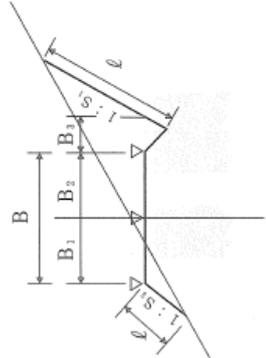
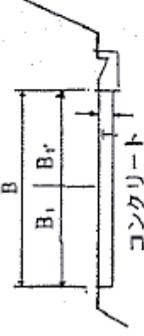
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
8	4	鋼橋上部	3	工場製作工	橋梁用高欄製作工	部材	部材長 ℓ(m)	±3 ±4	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						部材	部材長 ℓ(m)	±3 ±4			
8	4	鋼橋架設工	4	1	支 承 ( 鋼 製 支 承 )	据付け高さ 注1)	±5	支 承 全 数 を 測 定。 B：支 承 中 心 間 隔 (m) 支 承 の 平 面 寸 法 が 300mm 以 下 の 場 合 は、水 平 面 の 高 低 差 を 1mm 以 下 に と す。な お、支 承 を 勾 配 な り に 据 付 け る 場 合 を 除 く。 注1) 先 固 定 の 場 合 は、支 承 上 面 で 測 定 す る。 注2) 可 動 支 承 の 遊 間 (La, Lb) を 計 測 し、支 承 据 付 時 の オ フ セ ッ ト 量 δ を 考 慮 し て、移 動 可 能 量 が 道 路 橋 支 承 便 覧 の 規 格 値 を 満 た す こ と を 確 認 す る。 注3) 可 動 支 承 の 移 動 量 検 査 は、架 設 完 了 後 に 実 施 す る。詳 細 は、道 路 橋 支 承 便 覧 参 照。			
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 +10以上				
8	4	鋼橋架設工	4	2	支 承 ( ゴ ム 支 承 )	支 承 中 心 間 隔 (橋軸直角方向)	コンクリート橋 ±5	支 承 全 数 を 測 定。 B：支 承 中 心 間 隔 (m) 上 部 構 造 部 材 下 面 と ゴ ム 支 承 面 と の 接 触 面 及 び ゴ ム 支 承 と 台 座 モ ル タ ル と の 接 触 面 に 肌 す き が 無 い こ と を 確 認。 支 承 の 平 面 寸 法 が 300mm 以 下 の 場 合 は、水 平 面 の 高 低 差 を 1mm 以 下 と す る。な お、支 承 を 勾 配 な り に 据 付 け る 場 合 を 除 く。 注1) 先 固 定 の 場 合 は、支 承 上 面 で 測 定 す る。 注2) 可 動 支 承 の 遊 間 (La, Lb) を 計 測 し、支 承 据 付 時 の オ フ セ ッ ト 量 δ を 考 慮 し て、移 動 可 能 量 が 道 路 橋 支 承 便 覧 の 規 格 値 を 満 た す こ と を 確 認 す る。 注3) 可 動 支 承 の 移 動 量 検 査 は、架 設 完 了 後 に 実 施 す る。詳 細 は、道 路 橋 支 承 便 覧 参 照。			
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 +10以上				
8	4	鋼橋架設工	4	2	支 承 ( ゴ ム 支 承 )	支 承 中 心 間 隔 (橋軸直角方向)	コンクリート橋 ±5	支 承 全 数 を 測 定。 B：支 承 中 心 間 隔 (m) 上 部 構 造 部 材 下 面 と ゴ ム 支 承 面 と の 接 触 面 及 び ゴ ム 支 承 と 台 座 モ ル タ ル と の 接 触 面 に 肌 す き が 無 い こ と を 確 認。 支 承 の 平 面 寸 法 が 300mm 以 下 の 場 合 は、水 平 面 の 高 低 差 を 1mm 以 下 と す る。な お、支 承 を 勾 配 な り に 据 付 け る 場 合 を 除 く。 注1) 先 固 定 の 場 合 は、支 承 上 面 で 測 定 す る。 注2) 可 動 支 承 の 遊 間 (La, Lb) を 計 測 し、支 承 据 付 時 の オ フ セ ッ ト 量 δ を 考 慮 し て、移 動 可 能 量 が 道 路 橋 支 承 便 覧 の 規 格 値 を 満 た す こ と を 確 認 す る。 注3) 可 動 支 承 の 移 動 量 検 査 は、架 設 完 了 後 に 実 施 す る。詳 細 は、道 路 橋 支 承 便 覧 参 照。			
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 +10以上				
8	4	鋼橋架設工	4	2	支 承 ( ゴ ム 支 承 )	支 承 中 心 間 隔 (橋軸直角方向)	コンクリート橋 ±5	支 承 全 数 を 測 定。 B：支 承 中 心 間 隔 (m) 上 部 構 造 部 材 下 面 と ゴ ム 支 承 面 と の 接 触 面 及 び ゴ ム 支 承 と 台 座 モ ル タ ル と の 接 触 面 に 肌 す き が 無 い こ と を 確 認。 支 承 の 平 面 寸 法 が 300mm 以 下 の 場 合 は、水 平 面 の 高 低 差 を 1mm 以 下 と す る。な お、支 承 を 勾 配 な り に 据 付 け る 場 合 を 除 く。 注1) 先 固 定 の 場 合 は、支 承 上 面 で 測 定 す る。 注2) 可 動 支 承 の 遊 間 (La, Lb) を 計 測 し、支 承 据 付 時 の オ フ セ ッ ト 量 δ を 考 慮 し て、移 動 可 能 量 が 道 路 橋 支 承 便 覧 の 規 格 値 を 満 た す こ と を 確 認 す る。 注3) 可 動 支 承 の 移 動 量 検 査 は、架 設 完 了 後 に 実 施 す る。詳 細 は、道 路 橋 支 承 便 覧 参 照。			
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 +10以上				
8	4	鋼橋架設工	4	2	支 承 ( ゴ ム 支 承 )	支 承 中 心 間 隔 (橋軸直角方向)	コンクリート橋 ±5	支 承 全 数 を 測 定。 B：支 承 中 心 間 隔 (m) 上 部 構 造 部 材 下 面 と ゴ ム 支 承 面 と の 接 触 面 及 び ゴ ム 支 承 と 台 座 モ ル タ ル と の 接 触 面 に 肌 す き が 無 い こ と を 確 認。 支 承 の 平 面 寸 法 が 300mm 以 下 の 場 合 は、水 平 面 の 高 低 差 を 1mm 以 下 と す る。な お、支 承 を 勾 配 な り に 据 付 け る 場 合 を 除 く。 注1) 先 固 定 の 場 合 は、支 承 上 面 で 測 定 す る。 注2) 可 動 支 承 の 遊 間 (La, Lb) を 計 測 し、支 承 据 付 時 の オ フ セ ッ ト 量 δ を 考 慮 し て、移 動 可 能 量 が 道 路 橋 支 承 便 覧 の 規 格 値 を 満 た す こ と を 確 認 す る。 注3) 可 動 支 承 の 移 動 量 検 査 は、架 設 完 了 後 に 実 施 す る。詳 細 は、道 路 橋 支 承 便 覧 参 照。			
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 +10以上				

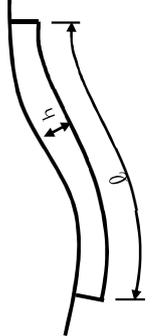
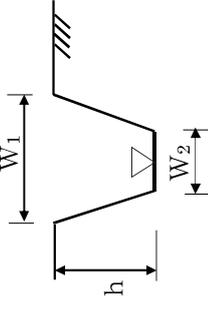
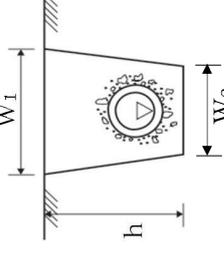
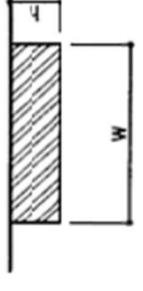
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
8	4	鋼橋上部	3		落橋防止装置設置工	アンカーボルト孔の 削孔長	設計値以上	全数測定			
						アンカーボルト 定着長	-20以内かつ -1D以内				
						地覆の幅 $w_1$	-10~+20				
	5	地 覆	5		工	地覆の高さ $h$	-10~+20	1径間当たり両端と中央部の3ヶ 所測定。			
						有効幅員 $W_2$	0~+30				
	6	7	橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	6	7		高さ $h$	-20~+30	1径間当たり両端と中央部の3 ヶ所測定。		
	8		検 査 路 工	8			幅	±3	1ブロックを抽出して測定。		
							高  さ	±4			
2	5	コンクリート橋上部工	2		プレビーム桁製作工 (現場)	幅	±5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレスト レスティング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、 中央部の3ヶ所とする。 ℓ：スパン長			
						高  さ	+10 -5				
						桁 長 $ℓ$	ℓ<15...±10 ℓ≥15...				
						ス パ ン 長	±(ℓ-5) かつ				
						横方向最大タワミ	-80mm以内 0.8ℓ				

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要														
8	道 路 編				林 道 土 工	基 準 高 V	±50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施工延長40m (又は50m) につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工単位に2ヶ所。</li> <li>・各測点延長の管理は道路工の延長規格を準用する。</li> <li>・擁壁の管理は擁壁工の測定基準による。</li> </ul>																
						幅 B, B <sub>1</sub> , B <sub>2</sub> , B <sub>3</sub>	法				θ < 5m													
							長				θ ≥ 5m													
						延 長	L < 200m				-400													
							L ≥ 200m				-0.2%													
						法 勾 配	切法面 S <sub>1</sub>				-0.5分													
					盛法面 S <sub>2</sub>		-1.0分																	
					上 置 ・ 下 置 路 盤 工 ( 砂 利 )						幅 B	-100	<ul style="list-style-type: none"> <li>施工延長40m (又は50m) につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工単位に2ヶ所。</li> </ul>											
											厚 さ T	-20%												
											コ ン ク リ ー ト 路 面 工									幅 B, B <sub>1</sub> , B <sub>2</sub>	-50	<ul style="list-style-type: none"> <li>施工延長40m (又は50m) につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工単位に2ヶ所。</li> </ul>		
																				厚 さ T	-10%			

単位：mm

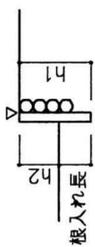
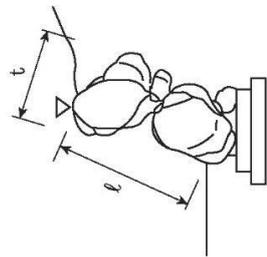
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要								
9	1	4	2		表 掘 削	法長 $l < 5m$	-200	施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。 施工面積 1,000 m <sup>2</sup> につき 1ヶ所、面積 1,000 m <sup>2</sup> 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。										
						法長 $l \geq 5m$	法長の -4%											
						深 さ h	-30											
						深 さ h												
						3	5				植 栽 基 盤 工	1	開 渠 排 水	基準高▽	± 30	施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。 1 施工箇所毎		
														幅 $W_1, W_2$	-50			
														高 さ h	-30			
														施 工 延 長 $L < 10m$	-20			
														施 工 延 長 $L \geq 10m$	-50			
														施 工 延 長 $L < 100m$	-100			
						2	暗 渠 排 水				2	幅 $W_1, W_2$	深 さ h	-50	施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。 1 施工箇所毎			
														深 さ h				-30
施 工 延 長 $L < 10m$	-20																	
施 工 延 長 $L \geq 10m$	-50																	
施 工 延 長 $L < 100m$	-100																	
施 工 延 長 $L \geq 100m$	-100																	
4	普 深 混 心	通 層 破 砕	4	耕 田	幅 W	-100	耕耘タイプ 毎につき 1ヶ所。 施工面積 1,000 m <sup>2</sup> につき 1ヶ所、面積 1,000 m <sup>2</sup> 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。											
					深 さ h	-50												
					深 さ h													
					深 さ h													

単位：mm

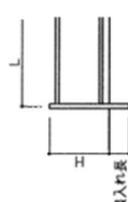
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
9	1	5	5		土中除施 性和剤 改良用塩肥	幅 W	-100	施肥配合タイプあるいは除塩毎につき1ヶ所。 施工面積1,000㎡につき1ヶ所、面積1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
						深さ h	-50			
						基準高 $\nabla$	-50			
						法長 $\ell < 5m$	-100			
					盛土（流用表土） 盛土（発生表土） 盛土（採取表土） 盛土（購入表土）	$\ell \geq 5m$	法長の-2%			
幅 $W_1, W_2$	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合）は50mにつき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 施工面積1,000㎡につき1ヶ所、面積1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は各法肩で測定。又は、施工面積のほぼ中心と各法肩で測定。								
9	1	5	7	1	押さえコンクリート	基準高 $\nabla$	設計値以上	施工延長40m（測点間隔25mの場合）は50mにつき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
						厚さ t	設計値以上			
						幅	-25			
						延長 L	-100			
					人工地盤排水層	深さ h	-30			
延長 L	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合）は50mにつき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。								
9	1	5	3		フィルター 防根シート	延長 L	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合）は50mにつき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
						基準高 $\nabla$	±30			
						※厚さ $t_1 \sim t_4$	-20			
						※幅 $W_1 \cdot W_2$	-30			
					立排水浸透料	※高さ h	-30			
					1箇所毎 ※は、現場打部分のある場合。					

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
9	公園編	6	3		法 面 ネ ッ ト 工	法 長	-100	施工延長40m (又は50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は50m) 以 下のものは1施工箇所につき2ヶ 所。 1 施工箇所毎				
						長	-200					
						θ	-20					
						施 工 延 長	-50					
						延	-100					
						長						
		8	擁 壁 工	8	1		網 柵 工	高 さ	±30	1ヶ所／1 施工箇所		
								延 長	-200			
								基 準	±100			
								積 高	-50			
								長	-100			
								θ				
厚 さ	-50											
厚 さ	-50											
施 工	-20											
延 長	-50											
長	-100											
9	土 留 め 工	9	13		石 積 高 さ 調 整	基 準	設計値	施工延長40m (又は50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は50m) 以 下のものは1施工箇所につき2ヶ 所。 1 施工箇所毎				
						高	±50					
						高	-50					
						根 入 長	設計値以上					
						施 工	-20					
						延 長	-50					
長	-100											



単位：mm

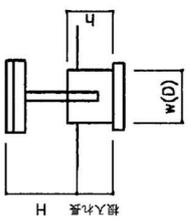
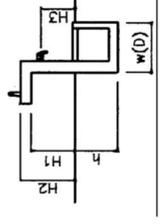
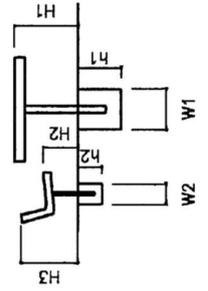
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
9	2	3	10	1	防風ネット	高さ h	±30	施工延長40m (側点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所。延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎。			
						延長 L	-100				
9	2	3	11	8	養生柵	設置高さ H	設計値以上	1ヶ所/1施工箇所			
						根入れ長	設計値以上				
						延長 L	-100				
						高さ h	±30				
						基礎幅 W (D)	-30				
						基礎高さ h	-30				
						設置高さ H	設計値以上				
						基礎幅 W (D)	-30				
						基礎高さ h	-30				
						根入れ長	設計値以上				
9	3	4	8	集水柵・マンホール工	基準高	▽ 設計値	1ヶ所/1施工箇所				
					高さ h	設計値					
					根入れ長	設計値以上					
					基礎高	▽ 設計値					
9	3	4	8	雨水排水整備工	高さ h	設計値					
					根入れ長	設計値以上					
					基礎高	▽ 設計値					
					基準高	▽ 設計値					
9	3	4	8	樹高さ調整 マンホール高さ調整	樹高さ調整	設計値					
					マンホール高さ調整	設計値					

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要				
9	公園編	3	施設整備	6	電気設備工	3	照明設備工	1	ハンダホール	標準高▽	±30	1ヶ所/施工延長40m ※は現場打部分のある場合		
								2	※厚さ t ~ t <sub>5</sub>	-20				
								3	※幅 W <sub>1</sub> 、W <sub>2</sub>	-30				
								4	※高さ h <sub>1</sub> 、h <sub>2</sub>	-30				
								5						
								2	ハンダホール高さ調整	標準高▽	設計値	1ヶ所/1施工箇所		
								3	引込電柱盤	高さ h	±30	1ヶ所/1基		
								4		基礎幅 W (D)	-30	1ヶ所/1施工箇所		
								4		基礎高さ h	-30			
								5	分電盤高さ調整	標準高▽	設計値以上	設計値以上	1ヶ所/1施工箇所	
								6	照明灯基礎	基礎幅 W (D)	設計値	1ヶ所/1施工箇所		
								6		基礎高さ h	-30			
6	基礎根入長	設計値以上												
1	電線埋設	管線ト	深さ h	深さ h	-30	1施工箇所毎								
2				L < 10m	-20									
3				L ≥ 10m L < 100m	-50									
6				L ≥ 100m	-100									

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要					
							個々の測定値		測定値の平均 $\bar{X}_n$								
							中規模以上	小規模以下									
9	公園編	3	施設整備	園路広場整備工	舗装工	基礎	±30	±15	±15	基準高、幅は延長40m毎に1ヶ所の割合で測定。 厚さは、2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡毎に1ヶ所を掘起して測定。 幅は、40m毎に1ヶ所測定。	 <p>施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコアー以外の方法→水糸による管理ができる。</p>						
												アスファルト系舗装工	厚さ	±30	±15	基準高、幅は延長40m毎に1ヶ所の割合で測定。 厚さは、2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡毎に1ヶ所を掘起して測定。 幅は、40m毎に1ヶ所測定。	
												コンクリート系舗装工	厚さ	t < 150	-30	-6	同上
												土系舗装工	厚さ	t ≥ 150	-45	-10	同上
												レンガ・タイル系舗装工	厚さ				同上
												木系舗装工	厚さ				同上
												樹脂系舗装工	厚さ				同上
												砂	幅	-50	-20		幅は延長40m毎に1ヶ所の割合とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡毎に1ヶ所加算し、掘起しもしくはコアーを採取して測定。
												砕石	厚さ		-10		同上
												平石	幅		-25		同上
												ごろた石	幅				同上
												玉野面	幅				同上
												修景	幅				同上
												修景	幅				同上

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
9	公園編	3	施設整備	時計台工	種	設置高さH	設計値以上	1ヶ所/1基 基礎1基毎。			
						基礎	-30				
						根入長	設計値以上				
		4	水飲み場工	種	設置高さH <sub>1</sub> ~H <sub>3</sub>	±30	1ヶ所/1基 基礎1基毎。				
					基礎	-30					
					根入長	設計値以上					
		5	10	サービス施設整備工	ベンチ・テアーブル工 野外炉工 サイン設置工	種	設置高さH <sub>1</sub> ~H <sub>3</sub>	±30	1ヶ所/1基 基礎1基毎。		
							基礎	-30			
							根入長	設計値以上			

単位：mm

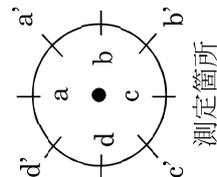
編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要										
9	3	11	6		柵	工	設置高さH	設計値以上	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 1ヶ所/1施工箇所												
							基礎	幅W (D)				-80									
								高さ h				-80									
								根入長				設計値以上									
							7	車止				工	延		基礎	基礎	長さ L	-100	1施工箇所毎		
																	設置高さH	設計値以上			
		基礎	幅W (D)	-80																	
			高さ h	-80																	
			根入長	設計値以上																	
		12	建築地施設組立設置工	3	1	4			阿	基礎	基準高▽						±30	1ヶ所/1施工箇所			
							基礎	幅W (D)			-80										
								高さ h			-80										
根入長	設計値以上																				

別表 ア 管水路（コンクリート2次製品）ジョイント間隔長

（単位：mm）

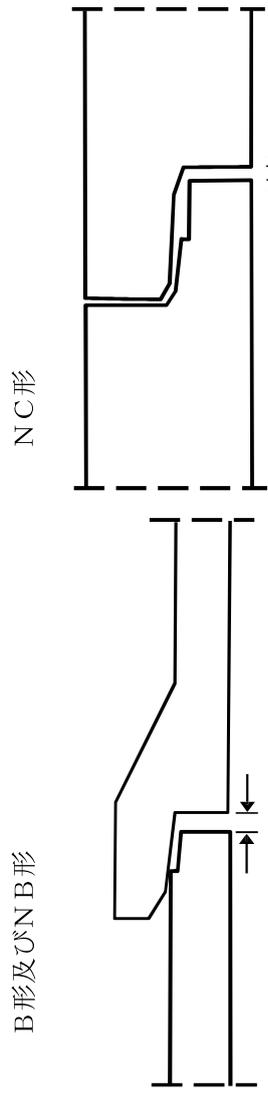
規格 呼び径 (mm)	JIS A 5372 RC管 (B形管)		JIS A 5372 RC管 (NB形管)		JIS A 5372 RC管 (NC形管)	
	管理基準値 (参考)	規格値	管理基準値 (参考)	規格値	標準値	管理基準値 (参考)
		良質地盤				
150	+13 0	+20 0	+11 0	+23 0	—	—
200	+13 0	+20 0	+11 0	+23 0	—	—
250	+13 0	+20 0	+11 0	+23 0	—	—
300	+12 0	+18 0	+10 0	+23 0	—	—
350	+12 0	+18 0	+10 0	+23 0	—	—
400	+14 0	+21 0	+11 0	+29 0	—	—
450	+14 0	+21 0	+11 0	+29 0	—	—
500	+14 0	+21 0	+11 0	+29 0	—	—
600	+15 0	+23 0	+13 0	+29 0	—	—
700	+14 0	+21 0	+12 0	+29 0	—	—
800	+16 0	+24 0	+13 0	+29 0	—	—
900	+17 0	+26 0	+15 0	+29 0	—	—
1,000	+21 0	+32 0	+18 0	—	—	—
1,100	+22 0	+33 0	+19 0	—	—	—
1,200	+23 0	+35 0	+21 0	—	—	—
1,350	+24 0	+37 0	+22 0	—	—	—
1,500	—	—	—	—	5	+24 +5
1,650	—	—	—	—	5	+24 +5
1,800	—	—	—	—	5	+24 +5
2,000	—	—	—	—	5	+24 +5
2,200	—	—	—	—	5	+24 +5
2,400	—	—	—	—	5	+27 +5
2,600	—	—	—	—	5	+27 +5
2,800	—	—	—	—	5	+27 +5
3,000	—	—	—	—	5	+27 +5

- 注) 1 ※印の呼び径は、JIS規格外であり参考値である。  
 2 規格値は、接合時の値であり、4ヶ所の平均値とする。  
 3 規格値は、埋戻後値であり、原則として4ヶ所のうち1ヶ所でもこの値をこえてはならない。  
 4 接合時の測定は、原則として呼び径700mm以下の場合、管の外から確認してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径800mm以上に適用する。  
 5 管の外から測定する場合の測定位置は、a'、b'、c'、d'の位置とする。



〈参考〉ジョイント間隔測定位置を以下に示す。

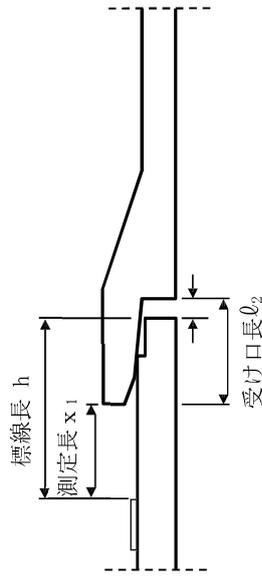
(1) 内面から計測する場合



(2) 外面から計測する場合

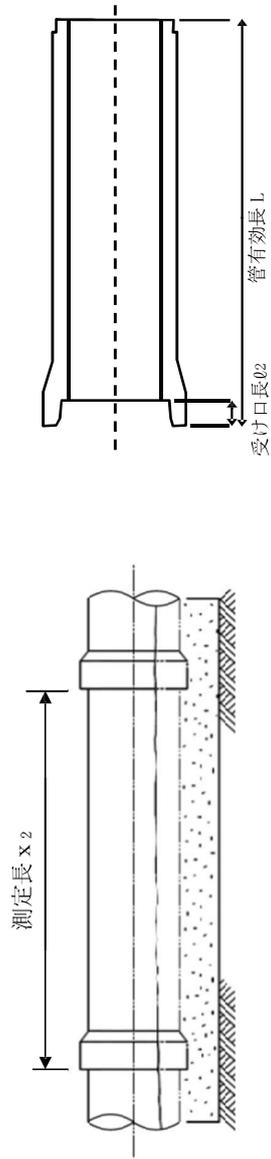
1) 標線による計測

ジョイント間隔 = 受け口長  $\ell_2$  - (標線長 h - 側線長  $x_1$ )



2) 標線によらない計測 (参考)

ジョイント間隔 = 受け口長  $\ell_2$  - (管有効長 L - 測定量  $x_2$ )



(単位：mm)

別表 イ 管水路（ダクタイル鋳鉄管）ジョイント間隔規格値

規格	JIS G 5526・5527 及び JDDPA G 1027		JIS G 5526・5527 及び JDDPA G 1027・1029		JIS G 5526・5527 及び JDDPA G 1027・1029		JIS G 5526		
	K 形		T 形（直管）		T 形（異形管）		U 形		
呼び径 (mm)	規格値	管理基準値（参考）	規格値	管理基準値（参考）	規格値	管理基準値（参考）	標準値	規格値	管理基準値（参考）
75	+19 0	+14 0	+16 0	+11 0	+16 0	+11 0	—	—	—
100	+19 0	+14 0	+16 0	+11 0	+17 0	+11 0	—	—	—
150	+19 0	+14 0	+16 0	+11 0	+18 0	+11 0	—	—	—
200	+19 0	+14 0	+14 0	+10 0	+16 0	+10 0	—	—	—
250	+19 0	+14 0	+14 0	+10 0	+14 0	+10 0	—	—	—
300	+19 0	+14 0	+24 0	+16 0	—	—	—	—	—
350	+31 0	+22 0	+24 0	+16 0	—	—	—	—	—
400	+31 0	+22 0	+24 0	+16 0	—	—	—	—	—
450	+31 0	+22 0	+24 0	+16 0	—	—	—	—	—
500	+31 0	+22 0	+30 0	+20 0	—	—	—	—	—
600	+31 0	+22 0	+30 0	+20 0	—	—	—	—	—
700	+31 0	+22 0	+30 0	+20 0	—	—	105	+32 -5	+23 -5
800	+31 0	+22 0	+30 0	+20 0	—	—	105	+32 -5	+23 -5
900	+31 0	+22 0	+40 0	+25 0	—	—	105	+32 -5	+23 -5
1,000	+36 0	+25 0	+40 0	+25 0	—	—	105	+33 -5	+23 -5
1,100	+36 0	+25 0	+40 0	+25 0	—	—	105	+33 -5	+23 -5
1,200	+36 0	+25 0	+50 0	+25 0	—	—	105	+33 -5	+23 -5
1,350	+36 0	+25 0	+50 0	+25 0	—	—	105	+35 -5	+23 -5
1,500	+36 0	+25 0	+60 0	+25 0	—	—	105	+35 -5	+23 -5
1,600	+40 0	+25 0	+70 0	+25 0	—	—	115	+33 -5	+24 -5
1,650	+45 0	+25 0	+70 0	+25 0	—	—	115	+33 -5	+24 -5
1,800	+45 0	+25 0	+80 0	+25 0	—	—	115	+33 -5	+24 -5
2,000	+50 0	+25 0	+90 0	+25 0	—	—	115	+36 -5	+24 -5
2,100	+55 0	+25 0	—	—	—	—	115	+36 -5	+24 -5
2,200	+55 0	+25 0	—	—	—	—	115	+36 -5	+24 -5
2,400	+60 0	+25 0	—	—	—	—	115	+36 -5	+24 -5
2,600	+70 0	+25 0	—	—	—	—	130	+36 -5	+24 -5

注) 1 管理基準値（参考）は接合時の値であり、4ヶ所の平均値とする。

2 規格値は埋戻後の値であり、原則として4ヶ所のうち1ヶ所でもこの値を越えてはならない。

3 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm以下の場合、管の外から確認してもよい。

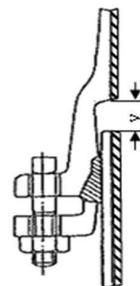
また、埋戻後の測定は原則として呼び径800mm以上に適用する。

なお、「埋戻後」とは、特に指示がない限り、舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。

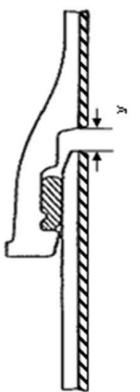
4 ダクタイル鋳鉄管のうちU形管の標準値は右図のY寸法である。

5 原則として、実測、場合により施工管理記録による。

K 形管

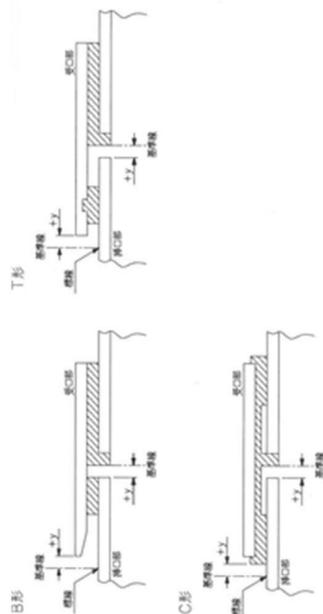


T 形管



別表 ウ 管水路（強化プラスチック複合管） ジョイント間隔規格値（単位：mm）

規格		J I S A 5350	
		B 形、C 形及び T 形	
呼び径 (mm)	標準値	管理基準値	
		良 質 地 盤	(参 考) 規 格 値
			軟 弱 地 盤
200	0	+10	+22
250	0	+10	+22
300	0	+10	+25
350	0	+10	+25
400	0	+10	+28
450	0	+10	+28
500	0	+15	+35
600	0	+15	+35
700	0	+15	+35
800	0	+15	+35
900	0	+15	+35
1,000	0	+20	+35
1,100	0	+20	+35
1,200	0	+20	+35
1,350	0	+20	+35
1,500	0	+20	+35
1,650	0	+25	+53
1,800	0	+25	+53
2,000	0	+25	+63
2,200	0	+25	+63
2,400	0	+25	+75
2,600	0	+25	+75
2,800	0	+25	+85
3,000	0	+25	+85



- 注) 1 管理基準値 (参考) は接合時の値であり、4ヶ所の平均値とする。  
 2 規格値は埋戻後の値であり、原則として4ヶ所のうち1ヶ所でもこの値を越えてはならない。  
 3 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm以下の場合、管の外から確認してもよい。  
 また、埋戻後の測定は原則として呼び径800mm以上に適用する。  
 なお、「埋戻後」とは、特に指示がない限り、舗装 (表層、上層路盤、下層路盤) を除いた埋戻完了時点とする。  
 4 継手部の標準断面図は、右図のとおり標準値は、Yの寸法である。なお、基準線に 対し抜け出し側を (+) とする。  
 5 測定値は、受口部長さの製品誤差によりマイナスとなる場合がある。

